

第五十九回帝國議會
衆議院

抵當證券法案外九件委員會會議錄(速記)第四回

會議

昭和六年二月二十五日(水曜日)午前十時二十六分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 荒川 五郎君

理事 小峰 滿男君

理事 篠原 陸朗君

理事 勝田 永吉君

理事 大崎 清作君

理事 板谷 順助君

小村 俊一君

藍川 清成君

關口 志行君

磯部 清吉君

石崎 敏行君

出席國務大臣左ノ如シ

大藏大臣 井上準之助君

出席政府委員左ノ如シ

大藏政務次官 小川郷太郎君

大藏參與官 勝 正憲君

大藏省銀行局長 大久保偵次君

司法省民事局長 長島 毅君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

抵當證券法案(政府提出)

不動産登記法中改正法律案(政府提出)

民事訴訟法中改正法律案(政府提出)

競賣法中改正法律案(政府提出)

民事訴訟用印紙法中改正法律案(政府提出)

府提出)

日本勸業銀行法中改正法律案(政府提出)

提出)

農工銀行法中改正法律案(政府提出)

北海道拓殖銀行法中改正法律案(政府提出)

府提出)

國稅徵收法中改正法律案(政府提出)

○荒川委員長 ソレデハ是ヨリ抵當證券法案外九件ノ委員會ヲ續行致シマス、當局大臣ノ出席ハ毎日求メテアル

ノデアリマスガ、今日モ亦催促シテ居リマスカラ、大臣ニ對スル御希望ハ其

際ニ願ヒマス

○中田委員 此抵當證券法案ノ制定ノ理由トシマシテハ、御提出ノ理由書ニ

アリマスル通り、不動産金融ヲ圓滑ナラシムル爲デアルト云フコトニナツテ

居リマスガ、不動産金融ヲ圓滑ナラシムルト云フコトノ必要ハ、私ノ考デハ、

詰リ地主若クハ金融ヲ要スル側ノ者ニハ、只今ノ所デハ餘リ適切ニ感じナイ

ヤウデアリマス、ソレハドウ云フ譯デアルカト申シマス、農林省アタリノ

御調査ニ依リマシテモ、農村ノ借金ハ五十億ニ達シテ居ルト云フ推定デアリ

マス、又農村以外ノ所謂都市ニ住シテ居リマス人々ノ中デ、市街宅地ヲ抵當

ニシテ借りテ居リマスル額モ、私ノ手許デハ分リマセスガ、十億トカ二十億

ト云フ數ニ上ツテ居ルト思ヒマス、今ノ農村ノ五十億ノ借金ガ全部不動産抵當

ニナツテ居ルトハ考ヘラレマセスガ、尠クトモ農村ノ借金ノ大部分ハ不動産ヲ

抵當ニ致シテ居ルモノデアルト考ヘテ宜シイノデアラウト存ジマス、農村ガ

五十億ノ借金ト言ヒマス、假ニ五百萬戸ノ農家ガアルトスレバ、一戸當リ

付託議案

抵當證券法案(政府提出)

不動産登記法中改正法律案(政府提出)

民事訴訟法中改正法律案(政府提出)

競賣法中改正法律案(政府提出)

民事訴訟用印紙法中改正法律案(政府提出)

日本勸業銀行法中改正法律案(政府提出)

農工銀行法中改正法律案(政府提出)

北海道拓殖銀行法中改正法律案(政府提出)

國稅徵收法中改正法律案(政府提出)

貯蓄銀行法中改正法律案(政府提出)

クテモ、農村ハ可成多クノ借金ヲスルコトガ出來テ居ルコト、此兩面カラ

見マシテ、不動産金融ヲ圓滑ナラシムルト云フコトノ必要カラ、此抵當法案ヲ

御作リニナルト云フコトニナルト、私ハ尠クトモ現在ノ農村若クハ都市ノ借

リ方ノ側ニハ、餘リ不便ヲ感ゼシメナイヤウニスル法案デアリヤウニ思ハ

レルノデアリマス、其點ニ就テノ政府ノ御考ハ如何デアリマスカ承ツテ置キ

タイノデアリマス、即チ寧ろ私共カラ言フト、不動産ヲ資金化シテ居ルコト

ガ餘リニ現在ハ多過ギテ居リハセスカ、コンナ工合ニ考ヘテ居ル程デアリ

マス、金融圓滑ト云フコトノ必要ハ農村ノ借主ノ方ニハ今日ハナイデハナイ

カト言ツタヤウニ思ハレルノデアリマス、其點ハ御意見ハ如何デアリマスカ、

一寸承ツテ置キタイト思ヒマス

○荒川委員長 其點ニ付テハ段々質問應答ハ重ネラレタヤウデアリマスガ、

中田君ハ御缺席デモアリマシタシマスカラ、政府カラ簡明ニ御答下サルヤ

ウニ願ヒマス

○中田委員 可ナリ承ッテハ居リマシ
タガ、サウ云フ方面カラハ承ッテ居ラヌ
ト思ヒマシタカラ、重ネテ伺ッタノデア
リマス

○大久保政府委員 只今ノ御質問ニ對
シマシテハ度々問題ニナッタコト、存
ズルノデアリマスガ、現今農村ニ於テ
ハ勿論ノコト、市街地ニ於テモ十分ニ
借盡サレテ居ルカラシテ、別ニ金融ガ
必要デハナイ、土地ヲ持ッテ居ル人ハ皆
利用シ、或ハ借金ヲシテ居ルカラ必要
ガナイデハナイカト云フ御趣旨ノヤウ
デアリマス、吾々ハマダサウ考ヘテ居
リマセヌノデアリマス、マダ其途ガ付
イテ居ラヌモノモ随分アリマス、現ニ
各銀行ニ申シテ來マス實例モ多數ニ認
メテ居リマス、輿論ガ大體ニ於テ其方
面ニ於テ必要ヲ唱ヘテ居リマスコトヲ
認メマシテ、吾々ノ方デハドウシテモ
サウシナケレバナラスト思ッテ、本案ヲ
提出スルヤウナ次第第二ニ至ッタノデアリ
マス

○中田委員 僻シデ斯ウ云フ法律案ヲ
見ルコトハ許シマセヌコトデアリマス
ガ、今此不動産金融ノ爲ニ各方面ノ地
方銀行、若クハ都市ノ銀行ノ資金ガ固
定シテ居ッテ、サウシテソレノ融通ガ付
カナクナッタト云フヤウナコトノ爲ニ、
若クハ特融法等ノ結果トシテ、サウ云
フヤウナ結果ガ現ハレタノデ、ソレ等

ノ銀行ヲ救済スルト云フコトノ必要ガ
生ジテ、是等ノ銀行ノ持ッテ居ル所ノ不
動産抵當債權ヲ資金化シテ、融通ヲ滑
カナラシムルト云フコトガ、必要ニナッ
テ來タト云フヤウナ、此時勢ニ對シテ
ノ一種ノ對應的ノ立法デアルト云フヤ
ウニモ考ヘラレルノデアリマスガ、サ
ウ云フヤウナ意味デハナイノデアリマ
スカ

○大久保政府委員 本案ガ本會議ニ上
程セラレマシタ時ニ、本案ハ所謂特別
融通ノ片附ケノ爲ニ必要デアルノデハ
ナイカト云フ御質問ガ出マシタノニ對
シマシテ、小川政務次官ヨリサウ云フ
風ナ目的ハ少シモ考ヘテ居ラナカッタ
ト云フコトヲ、申上ゲテゴザイマス、
御承知ノ通り特別融通ハアレハ特ニア
ア云フ風ナ關係デ出テ參リマシタノ
デ、其關係ハ日本銀行ヨリ相當ノ金額
ヲ出シマシテ、不動産金融ヲ取扱フベ
キ筋合デナイ日本銀行ニ、便法ヲ開カ
セマシタノガ、アノ特融ノ精神デアリ
マス、アレハソレトノ途デ片ガ附ク
筈ニナッテ居リマスノデ、別ニ斯ウ云フ
風ナ問題ト關聯ヲ直接ニサセル必要ハ
毛頭考ヘテ居リマセヌノデアリマス、
他ノ方面ノ金融ト今仰セニナッタ意味
合ガ、ハッキリ致シマセヌガ、サウ云フ
風ナモノヲ拔キマシテ、一般ノ金融界
ニ於テ今日サウ云フ便法ガ必要デア
ル

ノデハナイカト云フ仰セニ對シテハ、
私共モ無論其方ハ必要ガアルダラウト
考ヘテ居リマス

○荒川委員長 此際御質問ノ方ガアリ
マスレバ……

○松尾委員 此法案ノ第一條ニ土地、
建物又ハ地上權ヲ目的トスル抵當權ト
云フコトニ限ラレテアルヤウデアリマ
スガ、立木ニ關スル登記法ニ依ル抵當
權、ヤハリ是ハ登記法ニ依リマシテ、立
木ハ抵當權ヲ登記シテ、之ヲ抵當權ノ
目的トスルコトヲ得ルト云フコトニ
ナッテ居リマスガ、是ハヤハリ此抵當證
券法ノ中ニ含有サレルモノデアリマス
カドウデアリマスガ、御尋致シマス

○長島政府委員 立木ノ事モ立案當時
ニ考ヘタノデアリマスガ、第一ニハ立
木登記ノ數ガ現在ハ非常ニ少クアリマ
シテ、毎年日本全國デ二十五六件位シ
カ出ナイノデアリマス、無論立木登記
ハ期限ノ長イモノデアリマスカラ、其
中ニハ抹消ニナッテ居ル分モ相當アル
コト、存ジマスガ、兎ニ角毎年新シク
出マスノハ、日本全國デ二十五六件デ
ゴザリマス、尙是ハ金融ノ實際家ノ方
面カラモ承ッタノデアリマスガ、立木ヲ
登記スルト云フヨリハ、地上權ヲ登記
スル方ガ多イノダ、地上權デ擔保ニ取
ル方ガ多イノダト云フヤウナコトヲ
承ッタノデアリマス、其點ハマア私モ實

際ノ事ハ能ク存ジマセヌガ、サウ云フ
風ナコトヲ承ッタノデアリマス、尙立木
ヲ抵當證券ニ致シマス、大變ニ複雑
ナ關係ニナリマシテ、立木登記ニハ樹
種デアリマス、樹齡デアリマス、樹
カセタナモノヲ登記致シマシテ、尙其
上ニ必ズシモノ一筆ノ土地ノ上ノ立木ニ
限ラズニ、部分的ノ立木ノ集團ヲ登記
スルコトガ出來マスノデ、色々地圖ヲ
附ケナケレバナラヌヤウナ關係モアリ
マスシ、複雑デアルト云フヤウナコト
カラモ、此立木登記ノ事ヲ一先ヅハ見
合セルコトニ致シタ次第デアリマス、
併シ主ナル點ハ餘リ澤山數ガ無イト云
フコトデアリマス、尙是ハ先日モ問題
ニナッタ點デアリマスガ、差當リハ市街
地ダケニ本法ヲ適用スルト云フ豫定デ
アルモノデアリマスカラ、其點カラモ
一先ヅ立木ハ除クト云フコトニ致シタ
次第デアリマス

○松尾委員 更ニ御尋致シマス、併シ
此法案ヲ漸次農村山村ニ及ボスト云フ
コトガ目的ニナッテ居ルノデアリマス、
農村山村ノ金融ニ於テ、殊ニ山林ト云
フモノハ立木ニ依ッテ其價值ヲ認メラ
レルノデアリマス、都會ノ土地ノ如ク
ニ單ニ土地ダケガ其土地ノ價格デア
リマセヌ、地上ノ物件ガ相當ナル價值
ヲ有ッテ居ル、其立木ニ對シテ確實ナル
登記法ヲ設ケラレテ、不動産トシテ之

ヲ認メルト云フコトニ、前ノ立木登記法ニ依ッテ決メラレテ居ルノデアリマスカラ、是ガ本當ニ農村山村ノ金融ノ圓滑ニ資スル所ノ法案デアルト致シマスレバ、是ハ是非トモ此抵當證券法案ノ中ニ含有シテナケレバ、將來非常ニ差支ヘルモノデアラウト思フノデアリマス、地上權ダケデハ本當ニ確實ニ其地上ノ立木ヲ處理スルコトガ出來ナイ、今日マデノヤウニ立木法ガナイ時代ナラバ、是ハ不動產ト云フコトデ出來ルノデアリマスケレドモ、今日ノ如ク立木登記法ガ出來テ、立木ハ立木登記法ニ依ッテ權利ヲ確保サレテ居ル、立木法案ガ出來テ居ナイ前ナラバ、地上權ダケ宜シイガ、今日ハ地上權、更ニ其上ニ立木登記法ガ認メラレテ、立本ニ對シテハ不動產ト看做シテ登記スルト云フコトガアルガ、ソレガ此中ニ含有サレテ居ラヌト云フコトデハ、山村ニ於テハ非常ナ不便ヲ感ズルノデアリマス——殊ニ是ガ證券法案ノ勸業銀行或ハ農工銀行ノ方面デ、抵當權ヲ質權ニ入レルト云フヤ、ウナ場合ニ、是非トモ必要デアルト思フノデアリマス、其内面ハ大藏省トシテハドウ認メラレテ居ルノデアリマスカ

○長島政府委員 是ハ第一條ニハ御覽ノ通り永小作權モ這入ッテ居リマセヌ、ソレデ此永小作權モ此施行區域ヲ擴ゲル時ニハ無論入レル積リデ居リマス、大體本法ハ市街地ダケト云フ豫期ノ下ニ出來テ居ルノデアリマスカラ、立木登記モ入レテアリマセヌガ、愈擴ゲル時ニハ、永小作權ト同ジヤウニ考慮ニ入レマシテ、若シ必要ガアレバ此中ニ入レルコトニナッテ居リマス

○大久保政府委員 立木登記ノコトニ付テハ、只今大體司法省側カラ御答ニナリマシタ通りデアリマス、證券法ノ實行後ノ實績ニ徴シマシテハ、恐ク必要ガアルデアラウト考ヘテ居ル次第デアリマス、勸業銀行ノ方ノ問題ト仰シヤイマスガ、勸業銀行法ニ言ッテ居リマス抵當證券デナク、不動產ヲ抵當トスル債權ヲ質トスルト云フ御質問デアラウト思ヒマスガ、ソレハ無論出來ル豫定デアリマス

○中田委員 大藏省ノ方ニ一寸伺ヒタイノデスガ、先程ノ御答辯ノ中デ、一寸腑ニ落チヌ點ガアリマスガ、不動產證券ヲ抵當證券ニ發行スルヤウニスルコトガ融通ノ上ニ都合ガ好イノダト云フコトニ付テ、色々陳情トカ何トカサウ云フヤウナ文獻ガアルサウデアリマ

スガ、主ニドウ云フヤウナ方面カラサウ云フヤウナ陳情或ハ上申ヲ致シテ參ッテ居リマスカ、大體御手許ニアル分ダケヲ承リタイト思ヒマス、尙ホ先程ノ御答辯ノ中ニ現在農村都市等ニ於テ

不動產ヲ抵當トシテ能ク借金ヲシテ居ルガト云フ私ノ質問ニ對シテ、尙ホ抵當ニ這入ラナイ殘サレテ居ル土地モ澤山アルヤウデアルカラ、十分ニ圓滑ナ流通ガ出來テ居ラヌト云フヤウニ御考ヘニナッテ居ル趣デアリマスガ、私共ノ考デハ抵當ニ這入ッテ居ル土地ト、這入ッテ居ラヌ土地ヲ較ベマシタナラバ、這入ッテ居ラヌモノガ澤山アルト思ヒマス、併シソレダカラ今ノ抵當法、民法ダケデハ資金ノ融通ガ圓滑デナイト云フ事情ニハ一寸受取レマセヌ、大藏省ノ御考デハ尙ホ不動產デ借殘リガ澤山アルカラ、是等ノモノモ融通ガ出來ルヤウニナルデアラウ、即チ是等殘サレテ居ルモノハ、現在ノ制度ノ不備ノ爲ニ融通ガ圓滑デナカッタ結果デアル、斯ウ云フ風ニ御覽ニナル思召デアリマスカ、如何デアリマスカ、此點ヲ承ッテ置キタイ、或ハ見解ノ相違カモ知レマセヌガ……

○大久保政府委員 全ク仰セノ通り見方ノ相違デアラウト思ヒマス、吾々ノ方デハ可ナリマダ不動產ニ對スルモノ必要ハ、緊切ナルモノガアルト認メテ居リマスガ、ソレ等ノ點ニ關シマシテモ、何處カラドウ云フ要求ガアッタカト云フ材料ヲト云フ御話デゴザイマシタガ、今手許ニハ持ッテ居リマセヌガ、是ハ色々ナ點ニ付テモ諸所方々ニ訴ハ

上ッテ居ル次第デアリマスガ、殊ニ最近ニ於テハ全國ノ不動產協會ト云フヤウナ方面カラ、熱心ニ申出テ居ル次第デアリマス、左様御諒承ヲ願ヒマス

○石崎委員 私ハ施行地域ノコトヲ一昨日伺ッテ置キマシタガ、是ハ市制施行地其他特ニ此處ニ掲ゲラレテ居ルダケト云フ御答辯ヲ得テ居リマスノデ、此法案ヲ一層活用サセル意味カラシテ、ヤハリ市制地ニ等シイ方面ノ町ノ如キナイデアリマセウカ、私ハ此精神カラ言ヒマシテモ、ヤハリ實際活用ノ出來ルコトニサレタ方ガ、穩當デアルト考ヘマス、ソレカラ餘リ立入ッテ御尋デアリマスガ、此法文ノ上カラ見レバ、登記官吏ノ誤ッタ、所謂其取扱ノ爲ニ關係者ノ損害ヲ蒙ルヤウナコトガアッタ場合ニ於ケル其處置ガ、一向現レテ居ナイ、是ハ申上ゲルマデモナク、ヤハリ世ノ中ハ段々複雑ニナリマシテ、人トシテ取扱フ仕事デアリマスカラ、唯役人デアルカラ何處マデモ間違ナイト云フコトハ言ヘマイト思フ、又此證券其モノガ非常ニ大切ナ取引ニ關スル大キナモノデ、一面ニハ刑事上ノ問題デモ賠償トカ補償トカ云フ途ガ開カレツツアルヤウデ、斯ウ云フ大キイ取引ヲサレマスモノニ付テハ、特ニ其邊ノ責任ヲ登記官吏デ負フト云フ位ノ、何カ

一層嚴格ナル取扱ヲスル意味ヲ含マレテハドウカト云フ感ガアリマス、是ハ少シ私ガ立入り過ギタケレドモ、ソレガ一向法文ノ上ニ現レテ居ナイヤウデアリマスガ、其邊ノ御考ハドウデアアルカ、ソレカラ是ハ先程來誰方カ、御尋ニナツテ居ルヤウデアリマスガ、豫メ之ヲ施行スルニ付テドノ位ノ費用ヲ政府ハ要スル、サウシテ之ガ手数料ノ如キモドノ程度ニ政府ハ考ヘラレテ居ルカ、又此法案ガ兩院ヲ通過シタ後、何時頃カラ之ヲ實施スル御豫定デアアルカ、サウ云フコトモ伺ッテ見タイモノダト思ッテ居ルノデアリマス

○長島政府委員 施行地區ノ問題ハ度御答ヲ致シマシタ通りニ、大體ハ私共ノ方ノ事務上ノ都合カラドウシテモ是以上一度ニハ手ガ廻ラナイト云フコトデ、制限ヲ致シマシタノデアリマスカラ、餘リ政府ニハ大シタ、何ト言ヒマスカ、根據ガアル譯デハナイノデゴザイマス、併シ事務上ノ都合デ致シマストスレバ、何處カデ打切ラナケレバナラス管デアリマスカラ、大體市制ノ施行サレテ居リマス所ト、借地法ノ施行サレテ居ル區域デ打切ッテ譯デアリマス、併シナガラサウ云フ標準デ打切リマシタ結果ハ、或ハ市制ノ布カレテ居ラス所デモ、市制ノ布カレテ居ル所ト同ジャウニ必要ヲ感ジテ居ル所ガ、

多々アルト思ヒマスガ、ソレハ極ク近キ將來ニ於テ、其施行地區ヲ擴ゲルト云フコトデ、先ヅ御我慢ヲ願ヒタイト云フ風ニ考ヘテ居ル次第デアリマス、ソレカラ登記官吏ノ責任ノコトハ、本法ノ四十一條デ、不動産登記法ノ十三條ヲ準用シテゴザイマシテ、結局登記官吏ガ職務ノ執行ニ付テ、故意若クハ重大ナル過失デ、關係人ニ損害ヲ與ヘタトキニハ賠償ノ責任ガアルヤウニナツテ居ルノデアリマス、尙ホ登記法ノ十二條ガ準用サレテ居リマシテ登記官吏ハ親戚關係ノ登記ニ付テハ、相當ノ立會人ガナケレバ、登記ガ出來ナイト云フヤウナコトニナツテ居リマシテ、法規ノ上デハ十分ニ其點ガ保障サレテ居ルノデアリマス、ソレカラ經費ノ方ハ初メノ設備費ガ約五十萬圓要リマス、ソレカラ次年度カラハ引續イテ二十四萬圓バカリ要ル豫定デ、ソレハ追加豫算トシテ何レコチラノ方ニ御協賛ヲ願フコトニナルダラウト思ッテ居リマス、而シテ手数料ハ一件平均二圓五十錢取ル積リデアリマス、ソレデアリマスカラ、金額ノ安イモノハ或ハ二圓トカー圓五十錢ニナルカモ知レマセシ、高イモノハ五圓位ノ程度ニナルコト、思ヒマスガ、平均一件二圓五十錢ノ手数料ヲ取ルト云フ大體豫定デ居リマス

○大崎委員 豫定ハ何件位ノ豫定デア

リマスカ
○長島政府委員 ソレカラ施行期日ハ大體七月頃カラ致ス積リデ居リマス、豫定件數ハ證券ハ初メハ施行前ノ件數ガ溜ッテ居リマスカラ、サウ云フモノニ付テ一時ニ要求ガアルダラウト云フノデ、大體全國デ二十萬件位アルダラウ、ソレカラ其次ノ年度カラハ四萬五千件位アルダラウト云フ豫定デ居リマス
○篠原委員 參考資料ヲドウカ成ベク早ク御願致シマス
○大久保政府委員 只今參考資料ノ御要求ガアリマシタガ、是ハ成ベク私達モ急グ積リデアリマスガ、一通ダケ除ク外ハ全部御手許ニ差上ゲタ積リデアリマス、一ツダケハ前三箇年ニ於ケル勸業銀行、農工、拓殖三銀行ノ競賣金額ノ割合ト云フコトダケ調べ中デアリマス、其一件ヲ除ク外全部御手許ニ差上ゲタ積リデアリマスガ、若シ御不足デゴザイマシタラ承リタウゴザイマス

○板谷委員 三銀行ノ宅地ト田地畑ノ貸付金額ノ割合デスナ、ソレハマダ參ッテ居リマセス
○大久保政府委員 失念致シマシタ、其點ハ差上ゲテナイサウデアリマス、出來テ居リマスガ、御要求ノ趣旨ガ是デ宜シイカドウカラ御確メシタ上デ版ニ刷ラウ、斯ウ云フコトニ致シテ持ッテ來テ居リマス、ドウカ一ツ御覽ヲ願ヒ

タイト思ヒマス
○名川委員 此抵當證券ノ性質ヲ御同致シマスガ、是ハ一ツノ貸借證書見タヤウナ證明證券ノ積リデゴザイマセウカ、又ハ一ツノ手形見タヤウナ設權證券ノ積リデ規定サレタノデゴザイマセウカ
○長島政府委員 後ノ御言葉ノ通りデアリマス
○名川委員 設權證券ダト云フコトニナリマス、其權利義務ノ範圍ト云フモノハ證書ニ依ッテ確定スルト云フコトニナルト思ヒマスルガ、サウスルト登記ト云フコトハ是ハ普通對抗事由ニナルデアリマシテ、權利ノ内容トハ違フノデアリマスガ、我國ノ抵當權設定ノ登記ト云フコトハ、一ツノ對抗事由ニナツテ居ルシ、片一方ノ抵當證券ト云フモノハ證券ニ依ッテ權利ノ内容ガ決マラスト云フコトニナルト、非常ニ其處ニ於テ趣旨ガ變化ヲ來シテ來テ、色々ト面倒ナ衝突ヲ來スト云フヤウナコトガアリハシナイカト思ヒマスガ、其點ハ如何ナ御考デアリマスカ

○長島政府委員 至極御尤ナ御尋デアリマシテ、其點ガ非常ニ不安デ苦心ヲ致シタ所デアリマス、サウ云フコトカラ致シマシテ本案ニ於テハ債務者ノ外ニ第三取得者等ニ異議權ヲ認メマシテ、異議ヲ言ハナケレバ抗辯ヲ打切ル、

併ナガラ異議ヲ相當ニ言ハセテ判斷ス
ルト云フ所デ登記ノ公示主義ト有價證
券の性質トノ調和ヲ計ツテ居ル次第デ
アリマス

○名川委員

此法案ニ依リマス、證
券ガ汚損シタ場合トカ、又ハ紛失滅失
シタ場合ニ於テ除權判決ヲ得タ時ニハ
證券ノ再交付ヲ申請スルコトガ出來ル
ト云フコトニナツテ居リマスルガ、サウ
致シマスルト、此設權證券デアルト云
フ御趣旨カラ言フト、斯ウ云フ規定ト
云フモノハ、非常ニ其取扱上ニ於テ、
色々ト不都合ガ出テ來ルト思ヒマスル
ガ、一體設權證券ナラ、其目的物ガ、
即チ證券ガ無クナツタ場合ニ於テハ、茲
ニ權利ヲ消滅スルト云フベキモノデア
ラウト思フノデアリマスルガ、汚損シ
テ何カ譯ノ判ラナクナツタヤウナ場合
デモ、新タニ發行スルト云フヤウナコ
トニナルト、非常ニ不便不都合ナ結果
ヲ生ジマセスカト思フノデアリマスル
ガ、其點ハ如何ニ御考ヘニナリマスル
カ

○長島政府委員

是モ非常ニ實ハ苦心
シタ點デアリマシテ、其結果命令デ餘
程細カク規定スル積リデアリマス、大
體命令ノ條項ハ考ヘテ居リマスルガ、
要スルニ再發行ノ場合ニハ、殆ド新シ
ク發行ヲ致ス場合ト同ジヤウニ、利害
關係人ニ異議ヲ言ハセヌヤウナコトニ
致シマシテ、サウシテ發行スル積リデア

リマス、殆ド新證券ヲ發行スルノト同
ジヤウナ手續ヲ、結局經ネバナラスコ
ト、思ヒマス

○名川委員

サウ致シマス、汚損致
シマシタ證券ニ、譬ヘテ見マスレバ四
人ノマア裏書人ガアルト致シマシテ、
其裏書ガ汚損ヲ致シテ、誰ト誰ト云フ
コトノ名前ガ明カデナイト云フヤウナ
トキニハ、新證券ヲ發行シマス、前
ノ證券ニ裏書シタ人間ハ、他ノ證據方
法ニ依ツテ、其裏書人デアルト云フ事實
ヲ明カニ致シテ、其裏書人ノ責任ヲ、
償還請求其他ノ方法ニ依ツテ出來ルモ
ノデアリマセウカ、ソレトモ既ニ汚損
シテ、裏書人ノ氏名ガ判ラナクナツタ
ナラバ、裏書人ト云フモノ、責任ガナ
クナルモノデアリマセウカ

○長島政府委員

汚損ノ場合ハ實ハ甚
ダ困難デアリマスガ、汚損デ全然判ラ
ナクナツタト云フ場合ヲ、殆ド想像シテ
居リマセヌノデ、是ハ結局、紙幣ナド
ガ非常ニ汚クナツテ、引換ヲシナケレバ
ナラナイト同ジ程度ノモノハ大體想像
ヲシテ居ルノデアリマスガ、汚損ノ結
果全然判ラヌト云フ場合ヲ、實ハ想像
シテ居リマセヌノデアリマシタ、ソレ
デ喪失ノ場合ニ付テハ、此證券ヲ再交
付致シマシテ、ソレカラ裏書人ト云フ
モノニハ、ヤハリ新タニ裏書ヲ爲サセ
ル、詰リ新シク證券ヲ出シタト同ジ方

法ニナリマス、若シ裏書ヲシマセヌケ
レバ、訴訟ニ依ツテ裏書ヲ爲スベキ義務
アリヤ否ヤト云フコトヲ、實體ヲ調べ
マシテ裏書ヲサセル、斯ウ云フ意思表
示ニ代ル判決ノヤウナコトニナリマス
ガ、サウ云フ風ニスル積リデアリマス、
實ハ汚損ノ場合ニ、全然眞ッ黒ニナツ
シマツテ、マルデ判ラヌト云フ場合ヲ、
是ハ想像シテ居リマセヌ、汚クナツ
居ルノデ流通スルノニ困ルカラ、モウ
一遍出スト云フ場合ダケヲ實ハ想像シ
テ居リマシタガ、萬一非常ニ眞ッ黒ニ
ナツテシマツテ居ルト云フヤウナ場合
考ヘマス、ヤハリ命令ノ別ニ定ムル
所ニ於テ、モウ一度同ジヤウニ、ヤハ
リ異議カナニカラズツ取ツテ、サウシ
テ事實關係ヲ調べテ、若シ裏書人ガ裏
書ニ應ジナケレバ、訴訟ヲ起ストカス
ルヨリ仕方ガナイト思フテ居リマス

○名川委員

先ノ御説明デ、證券ニ依
テ權利義務ノ範圍ガ決マルト云フコト
デゴザイマスル以上ハ、其證券ガ滅失
シタトカ、或ハモウ全然裏書人ノ氏名
モナニモ判ラヌ程ニ汚損ヲ致シタト云
フトキニ於テハ、モウ其證券ガナクナ
ルノデアリマスルカラ、裏書人ノ責任
ト云フモノハ、ソコニ無クナルモノデ
ハナイカト吾々ハ考ヘルノデアリマ
ス、若シソレガ訴訟ノ手續ニ依ツテ、裏
書ヲ爲ス義務ガアルト云フコトデアリ

マス、證券ニ依ル義務ニアラズシテ、
他ノ民法上ノ所謂讓渡人ノ擔保義務ナ
ント云フ他ノ義務ガアツテ、其義務ニ
依ツテ其處ニ裏書セラレ、其處ニ責在ガ
生ズルト云フノデナイト、理論ガ一貫
セヌヤウニ思ヒマスガ、其點ニ付テノ
御所見ハ如何デアリマスカ

○長島政府委員

是ハ御承知ノヤウニ
手形ノ場合モ、滅失ノ場合ハ除權判決
ニ依リマシテ、裏書人ニ對シテ權利ノ
執行ガ出來ル譯デス、唯手形ノ場合ハ
手形ノ再發行ト云フ規定ガアリマセヌ
カラ、更ニ裏書ヲシテ轉讓スルト云フ
譯ガナイワケデアリマス、所ガ抵當證
券ハ御承知ノヤウニ、期限ノ相當長イ
モノデアリマスカラ、抵當權ノ存スル
限り續イテ行クモノデアリマスカラ、
除權判決ニ代ヘルニ證券ノ發行ヲ許シ
テアルノデアリマシテ、手形ハ御承知
ノヤウニ手形ハナクナツテモ裏書人ノ
權利ト云フモノガナクナルト云フコト
ハナイノデアリマス、一應ハナクナル
ノデアリマスガ、除權判決ノ結果ハヤ
ハリ義務ガ出來ル譯デアリマス、ソレ
ヲ一步進メテ證券ヲ再下付スルト云フ
所マデ、進ンダ譯デアリマスカラ、手
形ノ法理ト違ツタ基礎ニ立ツテ居ル譯デ
ハナイノデアリマス

○名川委員

ソレデハ其點ハ其處マデ
ニ致シテ置キマス、ソレカラ一部辨濟

ノアツタ場合、此辨濟ガ債務者トカ、抵當權設定者ガ辨濟シタ場合ナラバ、サウ云フ不便ハナイカモ知レマセヌガ、全然關係ノナイ第三者ガ辨濟スルト云フ場合、是ハ政治家等ハ常ニアルコトデス、吾々モ今ハ關係ガアリマセヌガ、選舉ノ關係ナドノ時分ニハ吾々ノ友人ノ政治家等ガ、手形ヲ渡シテ請求シテ呉レト云ツテ、何時モ三百圓五百圓ノ金ヲ取ラレル、サウ云フコトハ直グ弊ニナル、人ニ頼ミニ來テ置イテ、却テ錢ヲ取ラレルト云フヤウナ例ガアツタノデアリマヌ、サウ云フヤウニ第三者ノ者ガ債務者ガ知ラヌ中ニ拂ハサセラレルト云フコトガアル、斯ウ云フコトヲ記入シテ置ケバ、其後ニ證券ガ滅失シタトカナニカ致シタトキニ、再發行ヲ致シマスツ云フ、此條文ニ依ツテ通知セラレル人ハ限定致シテアリマスカラ、サウ云フ人ガ一部辨濟シタヤウナコトハ、結局債務者モ知ラヌシ、是等ノ人デ、通知ガナイノデアリマスカラ、分ラナイノデアリマシテ、債權者ハ二重辨濟ヲ得ルヤウナコトニナリハシナイカ、即チ一部辨濟ノ記、入ヲ秘シテ再發行ヲ求メルコトガアリハシナイカト思フガ、サウ云フヤウナ不便ヲナニカ防止スル御考ハナカッタノデアリマスカ

ニハ獨リ抵當證券發行當時ノ記載事項ノミナラズ、其以後ノコトモ全部記載シテ申請ヲサセル、ソレデアリマスカラ一部辨濟ガアレバ、二重辨濟ヲシナイト云フコトヲ、全部書カセテ出スト云フツモリデアリマス、ソレデ其儘デ使ツテ居ルトキニハ、結局異議ヲ言フコトニナリマスカラ、是等ノ點ニ付テハ異議ヲ言ヘル筈デアリマスガ、其場合ニ仰セノ如ク異議權者中ニサウ云フ辨濟ヲシタ第三者ヲ入レルカドウカト云フ點ハ、是ハ命令ノ事項デアリマシテ、マダ能ク考ヘテ居リマセヌ、或ハサウ云フモノマデモ異議權者ニ入レサセルノモ宜イカモ存ジマセヌガ、登記所ノ方デハ若シソレヲ再下付申請者ニ於テ秘シテ居ル場合デアリマスツ、誰ニ催促ヲシテ宜イカト云フ事ガ結局分ラヌト云フコトニナリマス、ソレデアリマスカラ再下附ヲシヤウニモ、スル方法ガナイト云フコトニナリマス、ソコデ問題ハ何カ玆ニ異議ヲ申立ツベキ事由ガアルトキニ催告ヲ受ケナイデ異議ヲ言ハナカッタトキニハ、其問題ニ付テハ異議ガ言ヘルト云フコトニ本法ノ立テ前ガナツテ居リマスカラ、御説ノ如クニ第三者ガ辨濟ヲシテ、サウシテ而モ其事ガ載ツテ居ラヌ、而シテ其人ニ異議ノ催告ガ行カヌト云フヤウナコトニナリマスレバ、結局其證券ニ付テハ其後ニナツ

異議ガ言ヘルコトニナルノデアリマス、ソレガ本法ノ立テ前デアリマス、默ツテ居リマスカラサウナリマスガ、併シサウ云フコトモ第三者ニ異議ヲ言ハセルノガ宜イカドウカト云フコトハ、多少問題ニナリマスノデ、或ハ第三者ハ此證券ヲ入レテ實體的ノ舊證券ノ方デ行ク方ガ宜イカトモ思ツテ居リマスガ、若シ默ツテ居レバ異議ガ言ヘルコトニナルノデアリマス

○名川委員 此法案ノ二十六條ニ依リマスツ、利息ノ支拂ノ延滞二年ニ達シタトキハ、元本ノ辨濟期ガ到來シタモノト看做ス、斯ウ云フコトニナツテ居リマシテ、サウシテ其次ノ條文ナドニ依リマスツ、期限ガ來タナラバ、其證券ノ所持人ハ競賣ノ申立ヲシロナン

ト云フ色々嚴格ナ規定ガ其後ニアルノデアリマスガ、是等ハ何レモ裏書人ノ償還ノ責任ノ爲ニ、特ニ便々ト長クソレヲ抛ツテ置クト云フコトデ、裏書人ノ責任ガ長クナル色々不便ガアルカラト云フ所デ、斯ウ云フ規定ガアルモノト認メルノデアリマスガ、サウスルト此利息其他ノ記入ト云フモノハ、此法案ニ依ルト債權者ト申シマスガ、即チ抵當權ノ所持人ガ記入スルト云フコトニナリマスルガ、實際ニ於テ其證券ノ所持人ガ利息ノ支拂ヲ受ケズニ、三年モ四年モ經ツテソレヲ受ケタト云フ

○長島政府委員 實ハ此一部辨濟トカ利子ノ辨濟等ニ付キマシテ、抵當權ノ所持人ノ記載ニ依ルカ、或ハ其債務者マデニ判ヲ捺サセルト云フヤウナコトヲスルカト云フコトモ、能ク考ヘタノデアリマスガ、大體受取リヲ致シマス

ト云フ方ノ普通ノ方法ハ、受取タ人間ガ判ヲ捺スト云フノデアアル場合、ソレニ依ルヨリハ仕方ガナカラウ、仰セノヤウナ場合ヲ考ヘマスツ、成程態ト期限ガ到來シナイヤウニシテ辨濟期ヲ延バスト云フコトニナリマスレバ、裏書人ノ利益ヲ害スルト云フコトガアルト

○長島政府委員 ツマリ再發行ノ場合

存ジマスガ、其處ハ五十歩百歩ノ所デアリマシテ、假ニ債務者ニ記入ヲサセマシテモ、債務者トヤハリ通謀スレバ是ハ已ムヲ得ナイコトデアリマスシ、債務者トシテハ成タケ辨濟期ヲ先ヘ置ク事ハ好ムノデアリマスカラ、債務者トノ話合ヒデ利子ハ受取ッタコトニスルト云フ事ハ、幾ラデモ行ハレルコトト思ヒマス、サウシマストヤハリ此所持人ノ判位デ宜イノデハナイカ、尙又サウ云フコトニナリマスレバ、是ハ刑法上ノ犯罪ト云フコトニナルカ、ナラヌカ知リマセヌガ、法律ノ上デハ詐欺ニナルカ何ニナルカ、是ハ名川先生ノ御専門ノ方デスカラ能ク分リマセヌノデ、此程度デ止メテ置キマス

○名川委員

今申ス通りニ債權者ダケガ記入スルコトニシテモ、又債務者ト一緒ニ雙方デ記入スルコトシテモ、何レニシテモ其弊害ガアルト云フ御意見デアリマスカラ、此規定ト云フモノハ非常ニ債務者ニ取ッテハ不利益ナ規定ト思フ、中々金ヲ借リル時ハ拂フトハ申シナガラ、中々拂ヘルモノデハナイ、拂ヘナイノガ原則デ拂ヘルノガ例外ト申シテモ宜イト思フ、隨テ利息ナドモ月々デアリマスレバ宜シイノデスガ、不動産ノ利息ハ大抵年末ニナッテ居リマスカラ、一年二年ノ利息ノ滞リハ直グデス、サウスルト二年利息ガ溜ッタ

ト云フノデ、相當長イ期間ノ積リデ辨濟ニ付テ色々計畫ヲ樹テ、居タ所ガ、辨濟期ガ直ニ來テ競賣サレルト云フコトニナルト、非常ニ債務者トシテハ不利益ヲ來スコトニナルノデス、而シテ今申ス通り斯ウ云フ二十六條ノ規定ヲ設ケラレテモ、抵當權所持人ノ遣方ニ依ッテハドノヤウニデモナッテ、此規定ヲ脱レルコトガ出來ルノデスカラ、却ッテ二十六條ノ規定ハ全然オ廢メニナッテ現行民法ノ規定ト同ジャウニ利息ハ登記シタ場合ハ最高二年分シカ取レヌト云フ風ニシテ置クコトガ、債務者トシテモ非常ニ利益デアリマスシ、且ツ今申スヤウニ不便モナクテ濟ミハシナイカト思ヒマスガ、此點ニ付テノ御意見ヲ伺ヒタイ

○長島政府委員

結局二十六條ハ利息ダケガ延滞致シタ場合ニ、利息ダケニ付テ抵當權ノ執行ガ出來ルカト思ヒマスノデスガ、現在デモ利息ダケ延滞シタ時ニ利息ダケ満足ヲ得ル程度ノ抵當權ノ執行ガ出來ルコトニナッテ居ルノデアリマス、抵當期限ガ不確實ニナッテ居ルト、全部ノ競賣ヲシナケレバナラズ、其他辨濟ガ出來ナケレバ其金ヲ供託シテ置イテ、供託シタ金ノ利子ト而シテ借金ノ利子トノ關係ガ複雑ニナルノデアリマス、ソコヘ持ッテ來テ償還請求ノ問題ガ錯綜スルモノデスカラ、

非常ニ法律關係ガ複雑ニナッテ來ルノデスカラ、ドウシテモ二年以上ノ期限ガ來タ時ニハ、辨濟期トシテ處理シナイト法律關係上困ルノデ、斯ウ云フ規定ヲ設ケタノデアリマス

○荒川委員長

名川君ニ一寸御相談致シマスガ、御質問ハ洵ニ有益ナ御質問デアリマスガ、何レ逐條審議ヲシヨウト思ヒマスカラ、サウ云フノハ其場合ノ方ガ却ッテ御都合ガ好カラウト思ヒマス

○名川委員

ソレデハ其積リデ大體ノ質問ニ致スコトニ致シマス、此本法案ノ提出ノ理由ハ、不動産金融ノ圓滑ニスルト云フノガ目的デアルト云フコトハ、理由書ノ中ニモ書イテアリマスシ、御説明モサウ云フヤウニ承ッテ居ルノデアリマスガ、私ハ本會議ニ於テモ質問致シマシタ通りニ、現在ノ競賣制度ニ於テハ競賣ニ非常ニ長イ年月ヲ要スルノデアリマシテ、少シ筆數ノ多い金額ノ相當嵩サム抵當權ノ實行デアルト云フト、五年六年掛カルノガ普通ナノデ、サウ云フヤウナコトデアラナラバ、殆ド此不動産金融ト云フモノハ非常ニ資本ガ固定致シテ、債權ノ實行ガ容易デナイナイト云フコトニ於テ、今日銀行家ナドニ於テモ、不動産金融ト云フコトヲ非常ニ嫌フト云フヤウナ狀態ニナッテ來テ居ルノデアリマスガ、本法案

ト共ニ改正サレル競賣法ノ改正ニ付テモ、此點ニ付テ何等ノ考慮ヲ拂ッテ居ラレヌヤウニモ見エルノデアリマスガ、サウダト致シマス結局長シナ證券法ト云フヤウナモノヲ御作リニナッテモ、實際ニ於テノ效力ハ私ハ少ナカラウト思フ、御説明ニ依レバ裏書人ノ償還請求ト云フモノガアッテ、裏書人ニ責任ヲ持タスカラ、ソレニ依ッテ大變信用ガ増スト云フヤウナ、總テノ場合ニ於テ便宜ガアルト云フヤウナ御話ガアリマシタガ、是ハ商法ノ第四百七十一條デアリマスガ、免責文句ノ記載ガ出來ルト云フコトニナッテ居リマスカラ、多クノ裏書人ハ大抵免責文句ヲ書クト云フヤウナコトニナルト思ヒマス、結局ソレダケノ利益ト、即チ裏書人ニ責任ヲ負ハスト云フヤウナ利益ハサウナカラウト思フノデアリマスガ、證券ヲ輾轉サス便宜ト仰シヤッテモ實行其モノガ早ク出來スト云フコトデアッテハ、ソレダケノ擔保トシテノ信用ガ薄イ譯ニナル、此點ニ付テノ當局ノ御考ハドウ云フヤウナ御考デオイデニナルカ、之ヲ伺ヒマス

○長島政府委員

仰セノ如ク此競賣ト云フモノガ、兎角延滞勝デアルト云フコトハ、非常ニ私共ノ遺憾トスル所デアリマス、尤モ非常ニ長ク掛ル事件ト云フモノハ、サウ多數ハアル譯デア

リマセヌノデ、大多數ハ此表ニモアリマスルガ如クニ、サウ手間ハ取ッテ居リマセヌノデアリマスガ、併ナガラ其僅カナ事件デアリマシテモ、數年ヲ要スルモノガアルト云フコトハ、非常ニ遺憾ニ思ッテ居ル點デアリマス、一ツハ是ハ御承知ノ如クニ法規ニ不完全ナ所ガアリマシテ、異議デアルトカ、抗告デアルトカ、各種ノ不服ノ方法ガ各手續ノ段階ヲ異ニ致シマシテ、ソレ等モ延滞ヲ來タス理由ニナッテ居リマスカラ、目下強制執行法並ニ競賣法ノ改正ニ付テ、相當ソレヲ顧慮致シテ居リマス、目下強制執行法、競賣法ノ改正ニ從事シテ居リマシテ、其點ヲ十分顧慮致シテ居ル次第デアリマス、併シ現行法ノ範圍ニ於キマシテモ、尙ホ私共ノ勉強ノ如何ニ依ッテハ一層實績ヲ擧ゲラレドモ、點モアルト存ジマスノデ、今後ハ尙ホ一層ノ努力ヲシテ、現行法ノ許ス範圍ニ於テ競賣ヲ成タケ迅速ニ適正ニ終了スルヤウニシタイト思ッテ居リマス、現在今度ノ追加豫算ヲ多少頂戴シテ、書記ノ増員ヲ致スコトニナッテ居リマスガ、此書記ハ先ヅ專ラ抵當證券發行事務ニ携ハルコトニナッテ居リマスカラ、多少ソチラニモ餘力デモアリマスレバ、競賣關係ナドニモ書記ヲ配置シテ、事件ノ進捗ヲ圖リタイト思ッテ居リマス	○名川委員 其點ニ付テ重ネテ御尋ネ致シタイノデアリマスガ、今日ノ競賣デ最モ困リマスノハ、債務者ガ他人ノ名義ヲ以テ競落ヲ致シマシテ、競落許可ノ決定ヲ得マシテ、代金納付ノ期日ニナルト、代金ヲ納入致シマセヌ、隨テ又競賣期日ヲ定メテ再競賣ト言ヒマスカ、新競賣ト言ヒマスカ、名前ハ忘レマシタガ、又競賣ヲ致ス、サウスルト外ノ名前デ債務者ノ方ガ來テ競落スル、ソレカラ其間ニ競落シタリ其競落許可ノ決定ニ異議其他ノ色々ナコトヲヤッテ、ソレガ落著スルノ一年位掛カル、ソレカラ代金ノ納入ヲ命ズルト小便宜——言葉ハ甚ダ下司デスガ、又拂ハレナイノデ又落競ヲヤル、何遍デモ引張ッテ居ル、而モ保證金ヲ積マスケレドモ、其保證金ト云フモノハ差額ダケデ、債務者ハ債務ヲ辨濟スレバ宜イノデアリマシテ、其差額ハ債務者ニハ債務ノ辨濟ニナルノデアリマスカラ、サウ云フ事ニ付テ何等ノ不利益ヲ受ケスト云フヤウナ現在ノ狀況ニナッテ、抵當權者トシテハ非常ニ此點ガ困ッテ居ルノデアリマスルガ、是等ニ付テモ今度競賣法及ビ強制執行法改正ノ時ニハ、當局トシテハ何カ御考ヲ持ッテオイデニナルデセウカドウカ	○長島政府委員 ソレ等ノ點モ執達吏ノ方カラ、能ク色々ナ競賣手續遅延防止ノ方策ヲ、ドウ云フ方策ヲ講ジテ居ルカト云フコトヲ取寄セマシテ今調べテ居リマス、御間ノヤウナモノハ最モ弊害ガ甚シイ場合デアリマシテ、是等ノ防止ノ方法、竝ニ或ル場合ニハ刑罰ヲ以テ臨ム三百——三百ト云フコトハ語弊ガアリマスガ、訴訟、サウ云フ事ヲ業トシテ居ル者ガ中間ニ這入ッテ、隨分色々ノ事ヲヤッテ居リマスカラ、サウ云フ者ニ對シテハ或ル場合ニハ刑罰ヲ以テ臨ンダラ宜カラウト云フ事ヲ、目下考案中デアリマス	○名川委員 尙ホ此非訟事件手續法ニ付テ御尋ネスルノデアリマスガ、此競賣不動産ノ所有者ヲ、無能力者ヲ所有者ニ致シマシテ、而シテ其法定代理人ヲ作ラズニ置クト云フヤウナ時ニ於テハ、此競賣ノ實行等ニ付テハ非常ナ不便ガアルト思フノデアリマス、譬ヘテ見レバ、其通知ヲスルコトモドウスルヤウモ無能力者デ出來スノデアリマス、而モ其法定代理人ヲ定ムル方法ガ民事訴訟法ニハ、遅延ノ爲ニ損害ヲ受クルトキニハ云々ト云フ規定ガアリマスケレドモ、非訟事件手續法ニハ是ガナイノデアリマスガ、斯ウ云フヤウナ場合ニハ、ドウ云フヤウニナサル御積リデゴザイマセウカ ○長島政府委員 其點ハ御尤ナ御尋デアリマシテ、法規ノ上カラハ、キリシタ事ガアリマセヌガ、法曹界ノ決議ナドデハ矢張り民訴ノ規定ノ精神デ、特別代理人ガ選バレルト云フコトニナッテ居ルヤウデアリマス、法規ノ上カラ果シテソレガ出來マスカドウカ分リマセヌガ、大體ハ競賣法ハ民訴ニ依ッテヤッテ行キマスカラ、サウ云フ風デ行キハシナイカト思ヒマス ○名川委員 更ニ此法案ニ付テ手續上御尋ネスルノデアリマスガ、債務者ノ變更登記表示ノ登記、是ハ債務者ダケデ出來ルト云フコトニナッテ居リマスルガ、サウ云フコトニナルト云フト、此債務者ト云フノハ變更セラレタ甲ノ債務者ガ、今度乙ノ債務者ニ變タト云フヤウナ時分ニ、新シイ債務者ダケデ出來ルト云フ意味デゴザイマセウカ、是ハ前債務者ト新シイ債務者ト、二人連名デ申請スルト云フ意味ニナルデセウカ ○長島政府委員 御尋ハ恐ラク不動産登記法ノ方ノ改正ノ問題ト思ヒマスガ、ソレハ二十八條ノハサウ云フ意味デハゴザイマセヌノデ、債務者ノ表示ノ變更デゴザイマスカラ、債務者ノ住所ガ變リマシタトカ、名前ガ變リマシタトカ云フノデアリマシテ、債務者自身ノ變タ場合ノコトデハナイノデアリマス ○名川委員 此抵當債務ヲ辨濟致シタ
---	--	---	---

時ニハ抹消登記ヲシナケレバナラスノ
デアリマスガ、此證券ノミニ依ッテ輾
轉致シマス云フト、登記ニ記載シテ
アル所ノ抵當權者ト實際ノ抵當權者ハ
無論違フト云フコトニナルト思フノデ
アリマスガ、ソナナ時分ニ辨濟ニ依ル
抵當權ノ抹消ヲスルノニ、現在ノ證券
ノ所持人ガ辨濟人ダカラト云フノデ、
登記所ノ方ヘ申請致シマシテモ、所謂
登記權利者ガ登記簿ト符合セヌト云フ
コトデ、或ハ受理ヲ却下セラレルヤウ
ナコトニナリハセスカト思ヒマスガ、
サウ云フ不便ニ付テドウ云フヤウニ補
ヒマスカ

○長島政府委員

ソレハ不動産登記法
ノ方ノ改正デ、百四十六條ヲ改正致シ
マシテ、詰リ抹消登記ノ申請書ニハ、
抵當證券ヲ添付スルヤウニシ、尙ソレ
ニ付テハ抵當證券ノ所持人、裏書人等
ノ承諾書モ附ケルコトニナッテ居リマ
ス、御説ノ如ク抹消登記ノ申請者ト現
在ノ所持人トハ違フ形ニナッテ居リマ
スガ、承諾書ヲ一括シテ出スト云フコ
トニ依リマシテ、自然ニ其趣旨ガ分ル
ト云フ意味ニ於キマシテ、百四十六條
ヲ改正シテ居ルヤウナ次第デアリマス

○名川委員

不動産登記法ニ依ッテ見
マスルト云フト、登記官吏ノ履ムベキ
手續ト致シテ、登記簿ト登記ノ申請書
トノ所謂登記權利、義務者ガ違フ時分

ニハ、申請ヲ却下シロト云フコトニナッ
テ居リマスカラ、今ノヤウナ登記義務
者ガ變ッテ即チ抵當權者ト云フモノガ
申請シタ人間ト、登記簿ニ書イテアル
者ト違ッテ、符合セヌコトニナルノデア
リマスカラ、其條文ヲ改正セヌ以上ハ、
其抹消ガ出來ナクナルノデヤアリマセ
ヌカ、其點ニ付テ重ネテ伺ヒマス

○長島政府委員

是ハ私ノ言ヒ方ガ少
シ惡カッタカ知レマセヌガ、詰リ承諾書
トカ同意書デアルトカ云フモノヲ皆
ク付ケマシテ、サウシテ元ノ抵當權者
カラ抹消ノ請求ヲスル、斯ウ云フコト
ニナル次第デアリマス

○名川委員

元ノ抵當權者カラ抹消ノ
申請ヲスルト言ハレマスガ、是ハ抵當
權者モ金ヲ貰フカラ抵當ノ抹消ヲ附シ
マスガ、疾クニ人ニ譲ッテシマッテ五年
モ三年モ前ニ取ッタ人間ハ、既ニ關係ガ
ナイト云ッテ、判ヲ押シテ呉レト言ッテ
モ押シテハ呉レヌダラウト思フ、登記
ガ出來ヌダラウト思フ、是ハ社會ノ取
引ニ於テモアルコトデアアル、其申請ヲ
スルノニ自分ニ利害關係ガアレバ附シ
マスケレドモ、自分ハ債權ヲ讓ッテシ
マッテ、自分ハ關係ガ無クナッテ居ル時
分ニハ、自分ハ關係ガナイ、債權ハ讓ッ
タノダカラ他ノ者ニヤッテ貰ヘト云フ
コトデ、事實ニ於テ登記義務ヲ登記簿
ニ記載シテアル所ノ抵當權者ハ拒ミ、

又ハ憶劫ガルト云フコトガ、多カラウ
ト思フ、實際ノ抵當權ヲ持ッテ居ルモ
ノデアレバ、金ガ欲シイカラ金ト引替
ニ判ヲ捺シテ登記ノ抹消ヲ致シマスケ
レドモ、利害關係ガ無クナッタ者デア
ルト、サウ云フコトヲシナクナルカラ、
實際ノ取扱ニ於テハ非常ニ不便ガ生ズ
ルモノデアラウト思フノデアリマス、
其點如何デアリマスカ

○長島政府委員

ツマリ御承知ノ如ク
ニ裏書人ノ擔保責任ガ、其償還請求ヲ
受ケルト云フコトガアルモノデスカ
ラ、成ルベク其抵當權ヲ抹消シテ、サ
ウシテ抵當證券ヲ回收シテ貰ヒタイ
ト云フ希望ヲ持ッテ居リマスカラ、ヤハリ
利害關係ヲ持ッテ居ル關係カラ申請ス
ルコトニハ實際ナルダラウト思ヒマス

○名川委員

細カイ手續デスカラ、ク
ドク言フ必要モナイノデアリマスガ、
先程申上ゲタ通りニ免責文句ノ記入ガ
出來ルノデ、裏書人ハ責任ヲ負ハズト
云フコトヲ多ク書クダラウト思フ、サ
ウ云フコトニナルト利害關係ガナクナ
ルカラ、之ニ付テハドウシテモ其救濟
ノ手續ヲ設ケテ置ク必要ガアリハセヌ
カト思ヒマスガ、其點重ネテ……

○長島政府委員

無擔保裏書ト云フコ
トハ第一ノ裏書人デハ稀ナコトデア
ルト思ッテ、ソレハ想像シナカタノデア
リマスガ、御説ノ如ク無擔保裏書ト云

フヤウナ場合デアルト、多少不便ハ生
ズルダラウト云ヒマスケレドモ、實際
ニ於テハ非常ニ稀ナ場合ト思ッテ、ソレ
ヲ想像シナカタノデアリマス

○名川委員

二番三番ト云フヤウナ一
ツノ不動産ニ對シテ多クノ抵當權ガア
ル場合ニ於キマシテ、例ヘバ三番ノ抵
當權ニノミ抵當證券ヲ發行スルト云フ
ヤウナコトモ有リ得ルコトデアラウト
思フノデアリマスガ、サウ云フ場合ニ
一番ノ抵當權ハ先ヅ三番ノ抵當權ヨリ
モ期限ガ二年モ三年モ前ニ來ルト云フ
ヤウナコトガアリマシテ、一番ノ抵當
權者ガ抵當權ノ執行ナドヲ致シマシタ
時ニ、三番ノ抵當權者ハマダ期限モ來
ズ、其抵當權者ガ何人デアアルカ、證券
デアアルカ否ヤモ徹底シテ居ラヌト云フ
ヤウナ時デ、一番ノ抵當權ハ返済シテ
其残りノ配當ナドニ付テ非常ニ不便ガ
生ズルダラウト思ヒマスガ、サウ云フ
時分ニハドウ云フヤウナ方法ニ依ッテ
救濟セラル、積リデゴザイマスカ

○長島政府委員

一番ノ抵當權ノ方ヲ
執行致シマシテ、尙餘リガアルヤウナ
コトニナレバ、其金ハ確カ供託スルト
云フコトニナッテ居リマシタト思ヒマ
ス、供託シタ上デ、辨濟期ガ來マシタ
ナラバ、ソレカラ償還スルト、斯ウ云
フコトニナルト思ヒマス

○名川委員

ソレハ何處ノ條文デゴザ

イマセウカ——抵當權ノ方デスネ

○長島政府委員 民訴ノ六百三十九條
ラシイノデスガ……

○名川委員 受取ルベキ者ニ交付スベ
シト云フ競賣法ノ規定ニ依ッテヤル譯
デスナ

○長島政府委員 實際ヤッテ居リマス
ガ一寸法規ハ分ラナイノデスガ、一番
抵當權ヲ執行シテ辨濟期ガ二番抵當ニ
來ナイ時ハ實際供託シテ居リマス、ソ
レハ斯ウ云フ場合モアリマス、先刻御
話ヲシマシタ利息ダケニ付テ抵當權ヲ
實行シテ、マダ其元本ノ返濟期ガ來ナ
イ時ニモ供託スルト云フ實際ノ取扱ニ
ナッテ居ルノデアリマス、是モ御承知ノ
ヤウニ法規ガ不完全ナノデアリマス、
併シ返濟スベキモノノ返濟期ガ來ナケ
レバ、ヤハリ供託スルト云フノデ、マ
ア法規全體ノ精神カラ類推解釋ヲシテ
居ルヤウデアリマス

○名川委員 抵當證券ノ所持者ハ債務
者ノ財産中、抵當物以外ノ財産ニ對シ
テモ、ヤハリ債權ノ執行ガ出來ルト云
フ趣旨デゴザイマセウカ

○長島政府委員 一寸、聽漏ラシマシタ
ガ、抵當證券ニ依ッテ他ノ財産ニ付テモ
強制執行ガ出來ルカト云フ御趣旨デゴ
ザイマセウカ

○名川委員 サウデス、抵當證券ノ所
持者ガ債務者ノ抵當物以外ノ財産ニ對

シテモ、執行ガ出來ルカ、即チ是ハ債
務名義ノ出タ場合ノ話デス

○長島政府委員 抵當證券ソレ自身
ハ、無論債務名義デアリマセウカ、
是ハ詰リ抵當ノ登記ガアッタト同ジヤ
ウニ、抵當權ノ執行ダケガ出來ル譯デ
アリマス、デアリマスカラ他ノ財産ニ
強制執行ヲスルト云フノハ、無論債務
名義ガ要ル譯デアリマス、債務名義ガ
アレバ抵當不動産デ返濟出來ザル分ニ
付テハ、主タル債務者ノ財産ノ上ニ強
制執行ガ出來ル譯デアリマス

○名川委員 サウスルト其證券ニ依ッ
テ普通ノ訴訟ヲ起シテ、債權ヲ主張シ
テ訴ヲ起シ得ルト云フコトニナルノデ
スカ

○長島政府委員 其通りデアリマス

○名川委員 今度ハ又問題ヲ違ヘテ聽
キマスガ、抵當證券ノ所持人ト債券者
ガ和解ヲ致シマシテ、特ニ減額シテ貰
フトカ、又ハ年賦ノ方法ニ依ルトカ又
ハ年賦ノ方法ニ依ルトカ云フヤウナ寛
大ノ處置ヲ受クルト云フコトヲ定メマ
シテ、唯ソレヲ抵當證券ニ記載セズニ置
イタガ爲ニ、其抵當證券ノ所持人ガ更
ニ之ヲ他ニ裏書ヲ致シタ時ニハ、債務
者ハ非常ニ不利益ヲ受ケルコトニナリ
マスルガ、之ニ付テハ何等救済ノ方法
ハナイノデゴイマス、ドウデスカ

○長島政府委員 ソレハ御承知ノ如ク

ニヤハリ抵當證券ヲ有價證券化致シマ
シテ、流通性ヲ安全ニ致シマシタ結果
ハ、抵當證券ニ記載ヲシテナケレバ、
ドウモ仕方ガナイト云フコトニナラウ
ト思ヒマス

○名川委員 此法案ハ主ニ市街地ニ適
用セラレルト云フ御趣旨ノヤウデアリ
マスルガ、サウシマス市街地ハ、借
地權ト云フモノガ價格ニ非常ニ重大ナ
ル關係ヲ持ッテ居ルノデアリマス、今日
ノ借地權ノ期限ト云フモノハ、借地法
ガアリマシテモ、東京デモ大阪デモ其
期限ヲ定メルト云フコトハ殆ド不可
ナノデアリマス、借地法ノ施行前ノモ
ノデアリマスレバ、二十年毎ニ順繰リ順
繰リニ廻ッタモノト見ルトカ、又ハ堅牢
ナ建物ニ付テハ三十年ト見ルトカト云
フヤウナ規定ガアリマスケレドモ、其
二十年トカ三十年トカ云フコトノ起算
點、ソレヲ何時カラ定ムベキカ、譬ヘ
テ見レバ土地ノ所有者ガ變ッタ場合ニ、
新ニ其處ニ借地契約ヲシタモノト見ル
カ、前ノ借地關係ヲ新所有者ガ承繼シ
タモノト見ルトカト云フコトモ、殆ド是
ハ分ラヌ現今ノ狀況デアリマスルカラ
シテ、實際ニ於テハ地主ノ方デハ借地
權ハ三年カ五年シカナイト主張スル、
借地人ノ方デハソレニモ拘ラズ其處ヘ
鐵筋「コンクリート」ノ七階、八階ノ家
ヲ建テ、六十年以上ノ借地權ガアル

ヤウナコトヲ實際ニ於テスルト云フヤ
ウナコトガアルノデアリマスルガ、此
抵當證券法ニ依ッテ流通ヲ何處マデモ
スルト云フノデアリマスナラバ、斯様
ナ土地ノ價格ニ重大ナル關係ヲ及ボス
借地權ノ範圍ト云フコトニ付テモ何カ
特ニ定メルコトヲシテ置カナカッタ
バ、債權者ニ於テハ非常ニ不利益ヲ受
ケル點ガアルト思フノデアリマスガ、
其點ニ付テハドウ云フ御考ヲ持ッテオ
イデニナリマス

○長島政府委員 御尤ナ御尋デアリマ
スケレドモ、ドウモ登記ノアリマセヌ
賃借地マデヲ、抵當證券ニ記載スルト
カ何トカト云フコトハ出來マセヌノデ、
ソレヲ此四條ノ九ニ於テ、登記ノアル
賃借權ダケハ之ヲ抵當證券ニ書入レマ
シテ、サウシテ抵當證券ヲ取ル者ノ土
地ノ價格ヲ考慮スル一ノ材料ニ致シマ
ス、然ラバ今申シタヤウニ、賃借權ノ
登記ノナイモノ、權利ノ相當強イモノ
ヲ、抵當證券ノ流通性ヲ良クスル爲ニ、
何カ多少制限ヲシタラドウカト云フ御
問カドウカ——一寸能ク聽取レマセヌ
デシタガ、假ニ制限シタラドウカト云
フヤウナ御質問デアリマスレバ、ドウ
モ此抵當證券ヲ出シタ爲ニ借地權マ
デ、ソコマデ觸レルノハ行過ギデアラ
ウ、多少流通性ハ害セラレテモ仕方ガ
ナイト云フ見地カラ、サウ云フ方面ニ

手ヲ觸レテ居ラヌノデアリマス

○名川委員

私ノ質問ノ趣旨ハ、本法

案ハ抵當證券ハ一ノ手形同様ノモノデ

アル、ソレニ依ッテ權利範圍ガ確定シ

テ、何處マデモ是ガ圓滑ニ流通スル、

サウシテ不動産金融ノ圓滑ヲ圖ルノガ

目的デアルト言ハレルノデアリマス

カ、ソレノ如クニ權利範圍ヲ確定スル

ト云フ御趣旨デアルナラバ、其抵當目

的物ノ價格其モノガ幾ラスルカ譯ノ分

ラナイ、例ヘバ六十年七十年ト云フヤ

ウナ借地權ガアッタナラバ、土地ノ所有

權ハ非常ニ價格ガ少クナル、更地ナレ

バ非常ニ高イシ、二年カ三年ト云フコ

トデアレバ、又六十年十年ノモノニ比

テシ非常ニ値打ガアルノデアリマス

カ、サウ云フヤウニ目的物ノ價格ニ大

變ナ等差ガ來ス問題デアリマシテ、而

モ今政府委員ハ、登記ノアルモノハ云

云ト仰セニナリマスガ、東京市ナドハ

御承知ノヤウニ推定地上權法ヲ明治三

十三年ニ制定シマシテカラコノ方ト

云フモノハ、地主ハ借地權ノ登記ヲ非

常ニ嫌フ、此登記ガアッタナラバ土地ガ

賣レスト云フノデ、此登記ト云フコト

ヲ絕對ニ嫌フノデアリマシテ、爲サレ

タル登記ト云フモノモ、實際ニ於テ符

合シタ登記ノ無い、多クハ假登記ガア

ルノデアリマスガ、實際ニ符合シタ登

記ハ無いノデアリマス、隨テ此登記其

モノヲ唯一ノ頼リトスルコトモ出來マ

セズ、又借地法ニ於キマシテモ登記ハ

無クテモ宜イト云フコトニナッテ居ル

ノデアリマスカラシテ、是等ニ付テハ

抵當證券ニ依ッテ不動産ノ金融ヲ圓滑

ニシテ、債權者ノ方ノ利益ヲ保護スル

ト云フコトデアルナラバ、先ヅ目的物

ノ確實性ヲ何處マデモ發揮スル上ニ於

テ、サウ云フ風ナ事モ併セテ相當ノ規

定ヲ設ケラル、ニアラザレバ、本法

ヲ出サレタ目的ハ達スルコトガ出來ナ

イノデナイカト私ハ思フノデアリマ

ス、其點ヲ重ネテ御伺ヒ致シタイノデ

アリマス

○長島政府委員

ソレハ非常ニ御尤ナ

御尋デアリマスガ餘程考ヘマシタケレ

ドモ、ドウモムヅカシイノデアリマス、

今申上ゲマシタヤウニ、登記ノ無いモ

ノニ付テハ、之ヲ載セヨウト思ヒマシ

テモ確實性ノ無いモノデアリマス

カ、分リマセヌカラシテ載セル譯ニハ

參リマセヌ、然ラバ御説明ノ如クニ登

記ノ無い賃借權デアッテ、而シテ非常ニ

力ノ強いモノガ澤山アリマスカラ、是

ハ土地ノ價格上ニ於テ影響ヲ與ヘル、

是ガ分ラヌノハ困ルト云フノハ御尤デ

アリマスガ、ソレハ此法案ノ非常ニ苦

シイ點デアリマシテ、白狀致シマス

ト、獨リ其點ニハ限ラナイノデ、一體

土地價格ト云フモノハ、土地ヲ見ナケ

レバ分ラヌノデアリマス、是ハタシカ

名川代議士カラ本會議デモ御質問ガア

ツタカト存ジマシタガ、土地ノ價格ト云

フモノハ、土地ヲ見ナケレバ分ラヌノ

デアリマス、ソレデアリマスカラ非常

ニ用心深い人デアリマシタナラバ、土

地ヲ見マシテ、サウシテ色々ナ條件ヲ

調べタ上デ抵當證券ノ裏書ヲ受ケルト

思ヒマス、併ナガラ場合ニ依リマシテ

ハ、此裏書人ノ信用ガアルノデアリマ

スカラ、若シ第一ノ裏書人ガ相當ノ銀

行デアルトカ何トカ云フモノデアリマ

スレバ、其銀行ハ相當其地所ニ付テ調

査ヲシタ上ニ、ソレヲ取ッテ置キマセ

ウシ、若シ其調査ガ間違ッテ居リマス場

合ニハ、償還請求モ出來マスカラ、サ

ウ云フ點デ補ッテ、此證券ノ流通性ヲ

圖ツタノデアリマス、元々此抵當證券ノ

問題デアリマスカラ、手形ノヤウデハト

テモ徹底的ニ流通性ヲ希望スル譯ニハ

參リマセヌガ、併ナガラソコハ裏書ノ

方法デ之ヲ補ッテ行ク、之ヲ流通シテ行

クト云フ次第デアリマス

○名川委員

今ノ御説明ニ依リマスル

ト、多クハ地面ヲ見テヤルカラ宜カラウ

ト云フコトデアリマスルガ、地面ヲ見テ

抵當ヲ取ルト云フヤウナコトニナリマ

スレバ、私ハ此證券法ヲ拵ヘナクテモ、

其位ノ人デアッタナラバ、ヤハリ登記ニ

行クコトハ何デモナイデアリマス

カ、特ニ證券法ヲ定メル必要ハナイノ

デアリマス、地面ヲ見ニ行ッテモ行カ

ヌデモドンノ輾轉スルコトニ於テ利

益ガアルト云フノデ本法案ヲ出サレタ

モノデアラウト思フノデアリマス、サ

ウシテ見レバ、此目的物モ權利ノ範圍

ヲ確定スルト云フコトニ付テ、相當ナ

立法ヲナサルト云フコトガ當然デハナ

カラウカト私ハ思フノデアリマス、是

ハ議論デアリマスカラ、ソレ以上ハ申

上ゲマセヌ

ソレカラ借地關係ヲ御尋致スノデア

リマスルガ、地代ヲ例ヘテ言フナラバ

六十年トカ七十年トカト云フ抵當權ヲ

設定シタル後ニ於テ、全部一時ニ取ル

ト云フヤウナコトヲ致ス、又債務者ナ

ドモアルダラウト思フノデアリマス、

是ハ單リ是バカリデナク、昔シ華族世

襲財產法ト云フモノニ於テ、不動産ノ

處分ヲ禁止致シテアリマシタ所ガ、或

華族ノ如キハ六百年ノ地上權ヲ設定シ

テ六百年間ノ地代ヲ前取リシテ安田銀

行ニヤッテ、殆ド華族世襲財產法ノ適用

ヲ通レタト云フ例ガアルノデアリマス

カラ、サウ云フヤウナ色々此證券法ヲ

御作リニナッテモ、裏カラ裏ヲ潜ルト云

ウト實際ニ於テハ證券ノ所有者ニ於テ

不便ヲ感ゼシメ、思ハザル損害ヲ受ク

ルヤウナコトガ出來テ來ルダラウト思

フノデアリマスガ、其點ニ付テハ如何

ナル御考ヲ持ッテ居ラレマスカ

○長島政府委員 仰セノヤウナコトモ随分アルト思ヒマスガ、是ハ非常ナ脱法的ニ殆ド詐欺的ニヤル場合デアリマシヤ、サウ云フヤウナ地上權ヲ設定シテ置イテ、空ッポノモノヲ抵當ニ入レテヤルト云フコトハ殆ド詐欺的ノ場合デアリマスカラ、ソレハ相當ノ制裁ガアルコト、思ヒマスガ、勿論制裁ダケハ利カヌコト、存ジマス、ソレデ私ハ前ニ申上ゲマシタヤウニ用心深い人ナラバ、能ク調べルデアラウ、併ナガラ調べルト云フコトガ非常ニ多イト云フ意味デ申上ゲタ譯デハアリマセヌ、ソコハ裏書デ以テ補ハレテ居ルカラ、裏書人ガ確カデアレバ調ベナイデ輾轉スル、併シ非常ナ用心深い人デアレバ、或ハ地所ヲ見ルコトモアリマセウ、要スルニ裏書ヲ以テ補ッテ輾轉シテ行クト云フコトガ、ドウシテモ此法案ノ趣旨デアルト云フ風ニ、御考ヲ願ヒタイト思ヒマス

○名川委員 此點ハ議論ニナルカラ重ネテ申シマセヌガ、裏書ト今仰セニナリマスルガ、是ハ免責文句ガアルノデアリマスカラ、相當ノ信用ノアル人ハ、多クハ財産ト云フモノヲ可愛ガッテ堅實ナル方法ヲ採リマスルカラシテ、多クハ私ハ免責文句ヲ入レルコトニナルト思ヒマス、免責文句デ裏書ノ責任ヲ負ハヌト云フコトニナッタナラ

バ、所謂當局ガソレニ依ッテ補ハウトセラル、目的ヲ達スルコトハ出來ヌト存ジマスカラシテ、其點ニ付テ、本法案ガ實際ノ效力ガソレ程ノ豫期ガ出來ナイノデヤナイカト云フコトヲ考ヘハ、ソレカラ今ノ政府側ノ言ハル、ノハ抵當權設定前ノコトノ話デアリマスルガ、設定後ニ於テサウ云フコトヲ致ス場合ガ多イト思フノデス、サウ云フ場合ニハドウ云フ風ニナサル積ムデスカ

○長島政府委員 抵當權設定ノ前、地上權ガ出來マシタ場合ニハ、ソレハ對抗ハ出來ナイ譯デアリマス

○名川委員 例ヘバ五カ七年シカナイモノヲ、或ハ六十年七十年、ソレヲ自分ガ知ラヌガ、借地人ガ勝手ニ家ヲ建テ、知ラヌト言ッテ通レル場合ガアルト思ヒマス、借地法ニ依ッテモ堅牢ノ建物ヲ建テタ場合ハ六十年ニナル、サウ云フヤウナ場合ニハ非常ニ困リハシマセヌカ

○長島政府委員 併シ抵當權ノ登記後ニ出來タモノナラバ、構ハズ抵當權ガ實行出來ル譯デス、競賣デヤル、唯事實上頑張ッテ居ルト云フコトニ依ル不利益ハ已ムヲ得マセヌカ……

○名川委員 今政府委員ノ言ハレルコトハ、是ハ理窟デス、併ナガラ實際ニ於テハモウ既ニ此處ニ六階七階ノ

大キナ「ビルディング」ヲ建ッテ競賣スル邪魔ヲスル、買手ガナイ、明滅ヲ求メタ所ガ裁判所ト致シマシテ明渡ノ判決ヲ致シマシテモ、執達吏ガ行ッテ此大キナ「ビルディング」ヲ打壞ハスコトハ出來ナイカラ、實際ニ於テサウ云フ場合ニハ非常ニ抵當權ハ困ルコトニナルノデアリマシテ、サウ云フヤウナコトニ付テハ本法案ニ於テ相當ナ御考慮ガアッタモノデアラウト思ッテ、私ハ特ニソレヲ申上ゲタ、併シソレ以上ハ議論デアリマスカラ止メルコトニ致シマス

次ハ抵當ノ目的物ノ上ニ、譬ヘテ見マスレバ五百坪ノ宅地ノ中ニ二百五十坪ノ建物ヲ建テ、アトヲ庭ニ致シテ、ソレカラ土地建物ト共ニ抵當權ヲ設定シタ、所ガ抵當權設定後ニ於テ其庭ノ中ヘ持ッテ行ッテ、十坪カ二十坪ノ離座敷ヲ拵ヘルトカ、自動車小屋ヲ拵ヘルトカ又ハ其他庭ノ半分ニ家ヲ拵ヘルトカト云フヤウナコトヲ致シテ、庭ノ真中ヘサウ云フ物ヲ造ッテ、是ダケハ俺ノモノダトソコヘ座ハラレルト、新タニ買ウタ人間モ手ノ出シヤウガナイ、真中ニ持ッテ居ッテ俺ノモノダト座ハルト云フヤウナ場合ガ多クアリマシテ、非常ニ抵當權者ナドハ困ル場合ガアルノデアリマスガ、斯ウ云フヤウナコトニ付キマシテモ、此法案ニ依ッテ抵當權其モノヲ圓滑ニ流通スルヤウニシヨウ

ト云フノデアッタナラバ、サウ云フコトニ付テ相當ナ御考慮ガアルベキデアラウト思フノデアリマス、其點ハ如何デスカ

○長島政府委員 結局仰セノ如ク抵當證券ガ出來マスノデ抵當權ガ流通性ヲ持チマスカラ、成ベクハ抵當權ヲ確實ニスルト云フコトガ本旨ダト思ヒマスガ、抵當權ソレ自身ノ保護ノ方マデ今這入ッテ、抵當權ノ組織ヲ根本的ニ變ヘルト云フコトマデヤ、此法案デハ考ヘナカッタ次第デアリマス、而シテ御説ノヤウナ場合ハドウモ實際此法律ト云フモノト、ソレカラ法律ヲ潛脱スルモノトノ間ノ關係デアリマシテ、是ハモウ名川代議士モ御承知ノ如ク、實際ノ問題ニナリマス、法律ヲ潛脱スルモノヲ、如何ニシテ其法律ノ規定ニ依ッテ取締ルカト云フコトハ困難ナ問題デアリマス、ソレヲ取締ルヤウナ法律ヲ作ルト又潛ル方法ヲヤルノデ、實際ニドウモ是ハ一般的ニ非常ニ困難ナ問題ダト一ツ御諒承ヲ願ヒタイノデアリマス

○名川委員 是ハヤハリ議論ニナリマスガ、要スルニソレダケ、抵當證券ニ依ッテ圓滑ニヤルト云フナラバ、目的物ニ就テ抵當權ガ完全ニ實行ガ出來、サウシテ抵當權者ガ測ラザル所ノ損害ヲ受ケナイヤウニシテ、抵當權其モノガ信用ノアルヤウニスルコトニ依ッテ、初メ

テ抵當權ノ輾轉モ容易ニ出來ルモノデ
アラウト思ヒマス、サウ云フコトニ付
テハ毫モ御考ヲナサラズシテ、唯此證
券ニ依ッテ抵當權ノ流通ト云フコトダ
ケヲ良クスルト云フコトヲ言ハレルナ
ラバ、結局此法案ノ抵當權ノ流通ヲ圓
滑ニスルト云フノガ目的デハナクシ
テ、現在銀行ガ持ッテ居ル六十何億ノ
不動産抵當債權ガ、固定シテ困ッテ居
ルカラ、ソレヲ救済スルト云フノガ本
法案ノ目的デアッテ、實際ニ於テノ不
動產其モノ、金融化トカ、何トカ云フ
ヤウナモノガ、目的デハナイデヤナイ
カト吾々ガ疑フコトニナルノデス、其
點ニ付テハ如何デスカ

○長島政府委員

ソレハ是以上ハ何度
モ繰返スコトニナリマスガ、結局ハ仰
セノ如ク不動産ト云フモノ、價值ガ、
特定のノモノデアリマスカラ、ソレヲ
大キナ市場力何カ出來マシテ、不動産
ノ價格ヲ一々證明スルヤウナコトが出
來テ、是ハ幾ラノ値打ガアルト云フヤ
ウナ判定ヲシテヤレバ宜イ譯デスガ、
ソレハ殆ド不能ナ譯デアル、ソコデ法
案トシテ出來ルダケ努力致シタ積リデ
アリマス、裏書人ノ擔保責任ニ依ッテ
流通性ヲ保タセルト云フコトデ、出來
ルダケ考ヘタ積リデアリマス、或ハ無
擔保裏書ト云フコトガアルカモ知レマ
セスガ、無擔保裏書デハ或ハ殆ド仰セ

ノ如クニ流通性ヲ持タヌト思ヒマス、
サウナレバヤハリ流通ヲサセタイノガ
裏書人ノ心理デアリマスカラ、恐クハ
無擔保裏書デナクテ、擔保ノ附イタ裏
書ヲ私ハ致スデアラウト思ヒマス、其
處ハ實際ノ見込デアリマスカラ、チヨ
ト質問應答デハ盡キナイト思ヒマス
○名川委員 先程政府委員カラ言ハレ
タ通りニ、不動産ノ抵當ト云フモノハ、
實地ヲ見ナケレバ實際ニ於テハ分ラヌ
ト云フコトハ、私モ其通り思フノデア
リマス、川崎ノ慥カ味ノ素ノアル下ノ
方デスガ、深サガ六尋トカアッテ海ノ
底ダサウデスガ、私共ハ判決ガアッタ
カラ知ッタノデアリマスガ、其處ヲ牛込
邊ノ或ル藥師屋ガ持ッテ居ッテ、他ニ財
產ガ無クテ、各地ノ銀行多クハ九州ト
カ四國ノ銀行ニ行ッテ、東京附近ニ是ダ
ケノ土地ガアルカラ、金ヲ貸シテ呉レ
ト云ッテ金ヲ借りル、銀行ハ抵當權ヲ實
行シヨウトシテ來テ見レバ、海ノ底デ
何モ無イ、ソレデ告訴サレテ一年二年
監獄ニ這入ル、出テ來レバ外ニ仕事ガ
無イカラ又始メル、モウ既ニ二十何年
カ監獄ニ這入ッテ餘程ノ爺サンニナッテ
居リマスガ、マダ其商賣ヲ止メズニヤッ
テ居ルト云フヤウナ實例ガアリマスノ
ニ付テ斯ウ云フコトヲ爲サツテモ、新ニ
之ニ依ッテドント、容易ク抵當ヲ質ニ

取ッテ呉レルト云フコトニハナラヌダ
ラウト思フ、殊ニ民間ノ金融ナド、云
フモノハ、抵當ハ少シ足ラヌケレドモ、
證人ヲ立テルカラ金ヲ貸シテ呉レルト云
フノデ、抵當ト保證人ト二ツヲ加ヘ
テ、初メテ其金融ノ目的ヲ達スル場合
ガ多イノデスガ、此抵當證券法ニ依リ
マス、人的擔保ノ方ハ全然關係ガナ
イコトニナリマスカラシテ、抵當證券
法ノ施行地ニ於キマスル所ノ不動産ノ
所有者ガ、ソレニ依ッテ金融ヲスルト
キニ於テハ、保證人即チ人的擔保ヲ入
レテ、ソレト二ツニ依ッテ相當多額ノ
金融ヲ得ヨウト云フコトガ出來ナク
テ、結局不動産ダケニ付テシカ得ラレ
ヌト云フヤウナ不利益ヲ來スコトガア
リハセヌカト思ヒマスガ、其點ハ如何
デスカ

○長島政府委員

其點ハ私モ研究シナ
イト、チヨット御答ガ出來マセスガ、抵
當證券ニ保證人ヲ附ケルコトガ出來ル
カドウカ、是ハ手形保證ノヤウニ附ケ
ルコトガ出來ルカドウカハ、チヨット研
究シナケレバナリマセスガ、假ニソレ
ガ出來ヌト致シマシテモ、保證人ノ附
イテ居リマス債權證券ヲ、指圖債券デ
ナイ意味ニ於テ抵當證券ト一緒ニ讓渡
シテ行クト云フ方法ハアリ得ル譯デア
リマス、ソレデ補ッテ行クトガ出來

○名川委員 ソレハ補フコトガ出來ル
ト云フニ過ギナイカラ、サウ云フ不便
ナ方法ニ依ラズシテ、更ニ之ヲ合セテ
ヤルヤウナ方法ニシタナラバ、或ハ斯
ウ云フ財界ノ行詰ッテ居ルトキノ國民
ヲ救フ方法デハナカラウカト思フノデ
アリマスガ、其方法ニ依ラズシテ、唯
此證券法案ダケニ依リマス、今申シ
マスヤウナコトガ、土地ヲ擔保トシテ
金融ヲシヨウトスルトキニ於キマス
テ、非常ナ不便ガアリハセヌカト思フ、
是ハ是ダケニ致シテ置キマス、ソレカ
ラ裏書ニ依ッテ讓渡スルコトガ出來ル
ト思フノデアリマスガ、白地裏書ハ禁
止シテアルヤウデアリマスガ、是ハド
ウ云フ理由デアリマスガ

○長島政府委員

ソレハ他ノ委員カラ
モ御尋ガアリマシタガ、成ベクハ債務
者ノ方デ債權者ノ所在地ガ知リタイ、
詰リ自己ノ不動産ヲ擔保ニ入レテ、擔
保付裏書ヲ致シテ居ルノデアリマスカ
ラ、成ベクハ債權者ガ何處ニ居ルカラ
知リタイ、斯ウ云フ希望ガ他ノ委員カ
ラモアリマシタ、サウ云フコトモゴサ
イマスノト、ソレカラ無擔保裏書ヲ認
メテ置ケバ、白地裏書ヲ認メヌデモ宜
イデハナイカト云フノト、ソレカラ是
ハ少シ緣由ノ問題ニナリマスガ、稅ヲ
取ルヤウナ關係カラ申シマシテモ、無
記名裏書ハ非常ニ所得稅ナンカノ徵收

ニ不便デアルト云フコトカラ、無記名ノ裏書ヲ禁止シタ次第アリマス

○名川委員 抵當證券ヲ他ニ擔保ニ入レルト云フヤウナコトハ、是ハ如何ナル方法ニ依ッテ出來ル御考デアリマスカ

○長島政府委員 抵當證券ハ手形ト同ジヤウニ普通ノ信託裏書ニ依ッテ擔保ニ入レルト云フコトニ致シマシタノデ

ス、質入裏書ノコトモ考ヘテ見マシタケレドモ、一方ニ於テハ抵當權ガ附イテ居リマスシ、一方ニ於テハ債權ダケノ手形ト云フコトニナッテ、非常ニ複雑ニナッテ規定ガ出來兼ネマシタカラ、手形ト同ジヤウニ信託裏書ニ依ッテ擔保ニ入レルト云フ方法ニ依ルノガ、宜カラウト考ヘタ次第デアリマス

○名川委員 マダアリマスガ時間モ來マシタシ、此程度デ休憩シテハ如何デスカ

○荒川委員長 ソレデハ此程度デ休憩ヲ致シマシテ、午後一時カラ續行致シマス

午後零時十分休憩

午後一時二十分開議

○荒川委員長 ソレデハ午前ニ引續イテ審議ヲ續行シマス、大體連日ニ互ッテ質問應答ヲ重ネラレマシタガ、マダ板谷君其他カラノ大事ナ質問ガ殘ッテ居

リマスノデ、是ハ隨時其場合ニ於テ御許シスルコトニ致シマシテ、是ヨリ抵當證券法案ノ逐條審議ニ入りマス、第一條カラ第四條マデハ抵當證券ノ交付方申請ニ關スルコトデアリマスカラ、

○長島政府委員 極ク大體ノ御説明ヲ申上ゲタイト思ヒマス、此第一條ノ第一項ハドウ云フ抵當權ニ付テ抵當證券ノ發行ノ請求ガ出來ルカト云フコトヲ規定シテ居ルノデアリマス、此事ハ既ニ度々總括的質問ノ際ニ御答ヲ致シタコトデアリマスカラ省略致シテ置キマス、唯茲ニ登記ヲ管轄スル登記所トアリマスノハ、結局ハ抵當權ノ登記簿ノ存在シテ居ル登記所ト云フ意味デアリマシテ、其登記簿ノアル登記所ニ申請致シマシテ、其處カラ出スコトニナッ

テ居リマス、是ハ登記簿ト抵當證券ノ記載トヲ一致セシムルト云フコトカラ來テ居ルノデアリマス

第二項ハ抵當權ノ目的物が數箇ノ登記所ノ管轄ニ散ラバツテ居リマス場合ニハ、其數箇ノ土地ノ登記簿ガ多數ノ登記所ニ分レテ居リマスカラ、何處ヘ申請ヲシタラ宜イカト云フコトガ分リマセヌノデソレヲ決メテ居リマス、其時ニハ何處デモ宜シイカラ、申請者ノ

都合ノ好イ其中ノ一ツノ登記所ニ、申請ヲスレバ宜イト云フコトニナッテ居リマス

第三項ハ抵當證券發行ノ申請ハ、誰カ出テ行カナケレバナラヌ、書留郵便ナドデ出シテ送ッテ貰フコトハ出來ナイト云フ趣旨デアリマシテ、是ハ登記ヲ受ケル場合ト同様デアリマス

第二條ハ抵當證券ヲ發行スルコトノ出來ナイ場合ノ規定デアリマシテ、第一ハ抵當權ガ根柢當デアル場合デアリマス、根柢當ニ付テ抵當證券ヲ發行スルコトガ出來ナイノハ勿論デアリマス

第二ハ抵當權ガ假登記デアル場合デアリマス、御承知ノ通り假登記ト云フモノハ權利ヲ保全スルダケデアリマスカラ、此場合ニ抵當證券ヲ出スコトガ出來ナイノハ當然デアリマス

第三ハ債權ガ差押又ハ假差押ヲ受ケマスト結局其債權ガ處分出來ナイモノニ法律上ナルノデアリマスカラ、處分ノ出來ナイモノニ抵當證券ヲ出ス譯ニハ行キマセヌカラ、是モ許サナイノデアリマス、抵當權ノ處分禁止ト申スカ、假處分ナドデ抵當權ノ讓渡ヲ禁止致シマス、此場合ニモ讓渡ガ出來ナイノデアリマスカラ、之ニ付テ抵當證券ヲ出スコトガ出來ナイノデアリマス

讓渡スコトガ出來ナイカラ、此場合ニモ抵當證券ヲ出スコトヲ許サナイノデアリマス

第四ハ債權又ハ抵當權ニ解禁條件ノ附テ居ル場合デアリマスガ、是ハ解除條件ガ到來スレバ無クナッテシマフノデアルカラ、サウ云フヤウナ危險ナモノニ抵當證券ヲ出スコトハ出來ナイノデアリマス

第五ハ總括的質問ノ際ニモタビノ申上ゲタ事デアリマスガ、抵當證券ヲ出スノニハ債務者ノ同意、特約ヲ要スルノデ、ソレガナケレバ出セナイコトニ致シタノデアリマス

第三條ハ是ハ抵當證券交付申請ノ場合ニ、ドンナ書面ヲ出シタナラバ、宜イカト云フ問題デアリマス、申請書ガ要リマスコトハ當然デアリマス、申請書ニドンナコトヲ書クカト云フコトハ四條ニアリマスカラ、其際ニ申上ゲマス、ソレカラ抵當權ノ登記濟證抵當權登記設定ヲ致シマシタ時ニ、登記所カラ下リマシタ登記濟證ヲ附ケル、其次ニハ債權證書ガアリマスレバ、ソレヲ附ケマス、若シ手形ガ出テ居リマスレバ、手形モ附ケルト云フコトニナリマス、第四ハ此二條ノ五ノ所ノ抵當證券發行ノ特約ト云フコト、關聯ヲ致シテ居リマスガ、抵當權設定當時ニ直グ抵當證券ヲ出シテ宜シイト云フ特約ガア

リマス場合ニハ、多クハ是ハ登記ヲ致
スノデアリマス、登記ヲ致シマセスト、
第三者ニ對抗出来マセヌカラ、債権者
トシテ最モ安全ナル方法ハ登記ヲ致ス
ガラウト思ヒマスガ、若シ登記ガシテ
アリマセスト、此抵當證券交付ノ申請
ヲ致シマス際ニ、同意書ヲクツ附ケテ出
ス、詰リ抵當權設定者、第三取得者、
又ハ債務者ノ同意書ヲ附ケテ出スト云
フコトニナルデアリマス、之ヲ要スル
ニ抵當權設定當時ニ特約ヲシテ置イテ
モ宜イシ、其後此抵當證券交付ノ申請
ヲスル前ニ特約ヲシテモ宜シイ、其證
據物ヲ出セバ宜イト云フコトニナルノ
デアリマス、五ハ別段是ハモウ説明ヲ
申上ゲルコトハアリマセヌ、ソコデ三
條ノ第二項ニナリマスガ、手形トカ、證
書ガアリマセヌ場合ニハ、ソレヲ唯附
ケテ来ナイト云フバカリデナク、申請
書ニ手形ガナイ、或ハ債權證書ガナイ
カラソレヲ附ケテ来ナイト云フコトヲ
態斷ラセル譯デアリマス、之ヲ斷ラセ
マスノハ、後ノ方ヘ參リマシテ異議ヲ
申立テル一ツノ理由ノ中ニ勘定シテ居
リマスカラ、ソレデ此處ヘ掲ゲタ次第
デアリマス、三條ノ末項ハ是ハ數個ノ
登記所ノ管轄地ニ抵當權ノ目的物ガ散
在シテ居ル場合、即チ先刻申シマシタ
第一條ノ第二項ニ當ル場合デアリマ
ス、數個ノ登記所ニ不動産ガ散在シテ

居ッテ、ソレヲ一括シテ抵當ニ入レルト
云フ場合デアリマス、其時ニハ數個ノ
内ノ一ツノ登記所ニ申請書ヲ出シマス
ガ、其時ニハ申請書ノ副本ヲ、散在シテ
居ル登記所ノ數ダケノ副本ヲ出シマス、
ソレカラ附屬書面モ其數ダケノ寫ヲ出
スト云フコトニナリマス、ソレハ後デ
申上ゲマヌヤウニ其申請書ノ副本ナ
リ、或ハ附屬書面ノ寫ヲ申請ヲ受ケタ
登記所カラ他ノ數個ノ登記所ニ皆分ケ
テヤリマシテ數個ノ登記所デ別々ニ抵
當證券ヲ作ッテ初メニ申請シタ登記所
ノ方ヘ送ッテ来テ、一括シテ之ヲ出スコ
トニナリマスカラ、結局申請書ナリ、
附屬書面等ガ登記所ノ數ニ應ジテ數個
出ルト云フコトヲ必要ト致シマシタ次
第デアリマス、是ハ提出書面ノコトデ
アリマス第四條ハ申請書ニドウ云フコ
トヲ書イタナラバ宜イカト云フコトデ
アリマスガ、是ハ大シテ御説明ヲ申上
ゲルコトハナイト思ヒマスカラ、御質
問ニ應ジテ御答ヲシヨウト思ヒマス

○板谷委員 私ハ逐條審議ニ入リマス
ニ先立チマシテ新ニ政府カラ提出サレ
マシタ所ノ參考資料ニ基イテ、根本ノ
問題ニ付テ一應御尋シタイト思ヒマ
ス、成ルベク質疑ノ重複ハ避ケマスガ、
政府ノ御答辯ガ不満足デアルトシマシ
タナラバ、或ハ重ナルヤウナ點ガアル
カモ知レマセヌガ、此點ハ豫メ委員長

ノ御許シヲ願ッテ置キタイト思ヒマス、
政府カラ差出サレマシタ參考ニ依リマ
スト云フト、現在不動産ニ對スル債務
ノ額ハ都市ガ六十九萬八千、農村ガ二
百四十五萬五千件アル、其金額ガ都市
ニ於テ二十四億五千七百萬圓、農村ニ
於キマシテハ二十六億三千三百萬圓、勿
論是ハ財團ハ除イテアルト云フ御説明
デアリマス、サウ致シマスルト、大體
不動産ノ債務ト云フモノハ勿論此都市
ノ中ニハ、或ハ市制施行地以外ノ分モ
含ンデ居ルト想像スルデアリマス、
大體ニ於テ農村關係ト云フモノガ最モ
多イト私ハ思フデアリマス、更ニ不
動產債務ニ對スル利子ガドウ云フ割合
ニナッテ居ルカト申シマス、勸業銀行
ハ耕地ガ七分二厘デ、宅地ガ八分デア
ル、農工銀行ハ八分四厘デアッテ、普通
銀行ハ九分六厘、個人ノ關係ガ一割一
分三厘五毛、勿論普通銀行個人ト云フ
モノガ高クナッテ居ルヤウナ譯デアッ
テ、要スルニ金融制度調査會ノ決定事
項カラ申シマシテ、出來得ル限り長期且
低利ナ資金ヲ廣ク各方面ニ普及セシム
ルハ、我國經濟ノ現狀ニ照シテ最モ緊
要ナル事項ニ屬ス、此趣意カラ抵當證
券ナルモノヲ發行スルヤウニ御説明ニ
ナッテ居ルノデアアル、然ルニ此割合カラ
申シマス、現在ノ所デ不動産ノ債務
ニ對シテ最モ不便ニ感ジ、最モ困難ヲ

來シテ居ルノハ、言フマデモナク金利、
或ハ債務ノ關係カラ申シマシテモ、農
村デアアルノデアリマス、所ガ抵當證券
ノ發行ノ地區ハ委員カラモ色々御質問
ガアリ、私カラモ唯概括的ニ御尋シタ
ノデアリマスガ、政府ノ答辯ニ依レバ、
新シイ試ミデアルカラ、先ヅ第一ニ市
制施行地ノ宅地或ハ建物ニ限ルト云フ
御話デアリマス、勿論政府委員ノ御答
辯ニ依リマシテモ此事務ノ煩雜、或ハ
登記官吏ノ不慣、經費ノ關係ニ於テ先
ヅ第一ニ市街地ニ之ヲ試ミルト云フコ
トデアリマス、金融制度調査會ノ決
定事項ノ根本問題ハ、政府ノ御説明ニ
モアリマヌヤウニ、六十二億ノ不動産
債務ノ中ノ十二億ト云フモノガ勸業銀
行、或ハ拓殖銀行ノ貸付デアッテ、後ノ
八割ト云フモノハ現在ノ所デハ今説明
致シマシタヤウニ金利モ高イ、資金ガ
固定シテ居ル、此金融ヲ圓滑ニスルト
云フコトガ第一ノ目的デアアル、然ラバ
此目的ヲ達スルニ於キマシテ、市街地
ニノミニ限ルト云フコトハ、私ガ今材
料ニ依ッテ説明シマシタヤウニ其趣意
ニ副ハナイト思フ、金融制度調査會ノ
根本方針ニ副フテ居ラヌヤウニ考ヘル
ノデアアル、併ナガラ私ハ此法案ニ反對
スル意味デ申上ゲルノデアリマセヌ
ガ、大體金融制度調査會ノ根本方針ニ
適ハヌデナイカ、斯ウ云フ疑ガアルノ

デアリマス、此趣意ニ適フニハ全部ノ不動産ノ債務ニ對スル途ヲ開クト云フコトハ困難デアラウケレドモ、少ナクトモ市制施行地以外ノ、例ヘバ人口一萬以上ノ都市ニ對シテ今少シ廣ク之ヲ應用スルコトニ付テ、何カ御考ガアリマセスカ、即チ金融制度調査會ノ趣旨ニ適フヤウニ、モット之ヲ擴張シテヤルト云フ御意思ガアルカナイカ、此點ヲ先ヅ第一ニ伺ヒタイノデアリマス

○小川政府委員 今ノ板谷サンノ御質問ハ他ノ場合ニ於キマシテモ起リマシタ質問デアリマスガ、ソレニ付キマシテ私ナリ、他ノ政府委員カラモ御答ラシテ居リマス、御話ノ通りニ全部ノ不動産金融ニ付テ抵當證券ヲ發行スルヤウナ風ニアリタイと思ッテ居リマス、唯

物ニハ順序ガアリマスカラシテ、先ヅ市制施行地、借地法ノ施行地トカ、或ハ縣廳所在地ト云フヤウナ所カラ、順次始メテ行カウト云フノデアリマシテ、出來ルダケ早ク農村全部ニモ互ッテ、之ヲ施行シタイト考ヘテ居リマス、ソレデ他ノ農村ガ非常ナ不公平ナヤウナ風ニ御考ニナッテ居リマスガ、ソレハ曾テ御話申上ゲマシタヤウナ風ニ、不動産抵當附債權ヲ主トスル貸付ヲ認メマシテ、勸業銀行ナリ農工銀行ナリ、北海道殖産銀行ナリガ、サウ云フヤウナ貸付ヲスルコトニナリマス云フト、

市街地ノ不動産抵當證券ノ發行ト竝ビマシテ、相當ニ金融ノ圓滑ヲ圖ルコトガ出來ルト思フノデアリマス、先ヅサウ云フヤウナ試ミヲヤリマシテ、漸次抵當證券ガ農村ノ方ニモ發行ノ出來ルヤウナ運ビニ到リタイ、斯ウ云フ考デ居ル譯デアリマス、隨テ今此一萬人ノ集團地ノヤウナ農村ノ、即チ市街地ニ準ズルヤウナ所ニマデ及ボスカ、ドウカト云フ御質問ニ對シマシテハ、今ノ所ハサウマダ考ヘテ居リマセスト御答スルヨリ外ニ、致方アリマセス

○板谷委員 私ハ先ニ概括的ノ質問ヲシタノデアリマスケレドモ、只今申上ゲテ居リマスノハ、アナタノ方カラ頂戴シタ此統計ニ基イテ申上ゲテ居ルノデアリマス、市街宅地ノ債務ニ付キマシテハ、私ハ割合ニ便利ヲ今日デモ得テ居ルダラウト思フ、割合ニ又市街宅地ハ御承知ノ通り相當ノ收入ガアル、收入ガアツテ而シテ價格ノ如キモノモ割合ニ相場ト云フモノガ定メ易イ、隨テ之ニ對スル金融ト云フモノハ、ソレハ途ガ開カレテ居ッテ、私ハ其割合ニ不便ヲ感ジテ居ナイト思フ、所有者ノ立場カラ申シマスナラバ……併ナガラ今御話スルヤウニ此法案ノ目的、即チ金融制度調査會ノ目的トスルモノガ、不動産債務六十二億中、十二億ハ三銀行デアルケレドモ、後ノ五十億ト

云フモノハ固定シテ居ルカラ此途ヲ開ク、殆下大部分ハ此抵當證券法案ニ依テ開クト云フヤウナコトヲ茲ニ書イテアル——幸ニ大藏大臣ガ御出デニナタノデアリマスカラ、私ガ先ニ申上ゲタコトヲ、又敷衍シテ御話シタイと思ッテ居リマス、宜シウゴザイマスカ

○荒川委員長 宜ウゴザイマス

○板谷委員 政府カラ頂戴致シマシタトコロノ此參考資料ニ依リマス云フト、現在不動産ノ債務額ガ都市ガ六十九萬八千件、農村ガ二百四十五萬五千件デアツテ、其金額ガ都市ガ二十四億五千七百萬圓、農村ガ二十六億三千三百萬圓デアリマス、此度施行サレルト云フ地域ノ市制施行地以外ノ分モ、此都市ノ中ニ私ハ此金額ハ含ンデ居ルコトハ想像スルノデアリマス、所デ不動産ニ對スル貸付ノ金利ノ割合ガドウナツテ居ルカト言ヒマス云フト、特殊銀行デアルトコロノ勸業銀行ガ、耕地ガ七分二厘デアツテ、建物ガ八分デアル、農工銀行ハ八分四厘デアツテ、殖産銀行ガ八分六厘、普通ノ銀行ガ九分六厘デアツテ個人ガ一割一分三厘五毛デアル、即チ普通銀行、個人ト云フモノハ非常ニ高イモノデアルガ、債務者ノ、即チ土地所有者ノ現在ノ立場カラ言ッタナラバ、出來ルダケ高イ金利ヲ安ク、期限ノ短イノヲ長期ニスルト云フコトヲ、第一

ノ目的トシナケレバナラヌコトハ當然デアリマス、ソコデ金融制度調査會ノ決定事項ニ依リマス云フト、先ヅ第一ニ全國ニ於ケル不動産ノ抵當債務ダケ六十二億アリマス、其中デ勸業、農工、殖産ガ十二億アル、後ノ五十億ト云フモノガ詰リ固定シテ居ル、此不動産ノ金融ヲ圓滑ナラシメンガ爲ニ殊ニ長期且ツ低利ナル資金ヲ廣ク各方面ニ普及セシメルコトガ、我國經濟ノ現狀ニ照シテ最モ緊要ナル事項ニ屬ス、此趣意カラシテ、此抵當證券ヲ發行スルト云フ御説明デアアルノデアリマス、所ガ唯今申上ゲルヤウニ、是ガ市制施行地ノ市街宅地、或ハ建物ニ限ルト云フコトデアリマスナラバ、現在ノ狀況ニ於キマシテハ市街宅地建物ハ相當ノ收入ガアル、又地價ノ如キモ相當ノ價額ヲ保ッテ居ルノデアリマスカラ、割合ニ金融ノ便ガアル、別ニ抵當證券ニ依ラスデモ、所有者ノ立場カラ申シマスレバ、割合ニ金融ノ途ガアル、所ガ今日非常ニ困ッテ居ルノハ農村ノ田畑デアリマシテ、而シテ金融制度調査會ノ大部分固定シテ居ル金額ヲ出來ルダケ融通ヲ付ケテ運用シヤウ、斯ウ云フ趣意カラ申シマシタナラバ、成ルホド是新シイ試デアアル、煩雜デアルカラ先ヅ第一ニ市街地ニ於ケル宅地建物ニ試ミテ、追々農村ノ田畑ニ及ボスト云フ御

説明デアリマスケレドモ、根本ノ所謂不動産ノ金融ノ圓滑ヲ圖ルト云フ趣意カラ行キマスナラバ、多少複雑デアッテモ先ヅ第一ニ農村ノ田畑ニ對スル金融ノ途ヲ開クト云フコトガ先決問題デナイカト思フ、其趣意カラ是ニ反對スル意味デアリマセヌケレドモ、モット區域ヲ擴大シテ、例ヘバ人口一萬以上ノ町ニ對シテモ之ヲヤル、モット此地域ヲ擴大スルト云フコトニ付テ御意見ガナイカドウカ、此意味ニ於テ唯今御質問申上ゲタノデアリマス

○井上國務大臣 御質問御尤モデアリマス、唯今ノ御説明ノ中ニアリマシタヤウニ、抵當證券ヲ登記役場デ發行致シマスルモノハ、御承知ノ通り可ナリ込入ッタモノデアリマシテ、無論理想カラ申シマスレバ根本法デアッテモ、一度ニ全國ニ施行スルコトハ適當ナル處置デアルト思ヒマスガ、唯今ノヤウナ事情ガアリマシテ、先ヅ都會地カラ始メテ、人モ是ニ慣レテ行キマシタナラバ、勅令ヲ以テ成ルベク速ク全國ニ及ボシタイト考ヘテ居リマス、唯今ノ所デハ玆ニ申スヤウニ此場所ニ限ッテ一ツ始メテ見ヨウ、斯ウ考ヘテ居リマスノミナラズ、唯今ノ御話ノコトハ實質論デ參リマスルト、抵當證券ト云フモノハ新シキ試ミデモアルシ、又可ナリ複雑ナモノデアリマス、從ッテ地方ノ不

動產金融ト云フ意味カラ行キマスレバ、恐クハ直グニ間ニ合ハナイ、斯ウ云フコトモ恐レテ居ルノデアリマス、從ッテ吾々ハ勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行ノ不動産ニ對スル債券、是ニ對シテ金ヲ貸スコトガ出來ルヤウニシテ目前ノ急ニ應ジテ、抵當證券ノ方ハモウ一ツ深ク入ッタ根本的ダト斯ウ考ヘテ居ル者デアリマス、既ニ斯ウ云フ意味ノコトハ、政府委員カラ御答致シタト思ヒマスガ私カラモ重ネテ申シテ置キタウゴザイマス

○板谷委員 市街地ニ於ケル宅地建物ニ對シテ、出來ルダケ金融ノ途ヲ便利ニスルト云フ所ノ御意見ニハ、私ハ反對スル者デアリマセヌ、併ナガラ今申シマスヤウニ、不動産ノ債務ノ最モ固定シテ居ルノハ、大部分ハ農村デアリマスカラ、又之ニ對シテ別ニ何等カノ對策ガアルナラバ、此點ニ付テモ承リタイト思フノデアリマス、ソレカラ此度銀行法ノ改正ヲサレマスノハ、勸業銀行、農工銀行、拓殖銀行デアリマスガ、此現在ノ債權ヲ調ベテ見マス、制限地ニ於ケル所ノ宅地建物ニ對シマシテハ、勸業銀行ガ二億三千四百萬圓、其外農村ニ於ケル即チ地域外ノ債權ニ對マシシテハ、田畑、宅地、建物、山林ヲ合セマシテ、三億五千六百萬圓アル、是ガ勸業銀行ノ現在ノ貸付ノ狀態

デアアル、農工銀行ハドウカト申シマス、市制施行地ノ宅地建物ニ對スル所ノ貸付金額ガ、一億八千九百萬圓デアリ、ソレ以外ノ農村ニ於ケル所ノ田畑、宅地、建物、山林ニ對スル貸付金額ハ合計四億六千七百萬圓デアアル、北海道拓殖銀行ニ於キマシテハ、地域内ニ於ケル貸付金額ガ千九百萬圓デ、其外ノ諸リ、制限外ノ貸付金額ガ五千五百四十萬圓アルト云フ現在ノ統計ガ出テ居ルノデアリマス、要スルニ此三銀行ト云フモノハ、大部分農村ニ對スル所ノ金融ノ途ヲ圖ルト云フ機關ノヤウニ私ハ承知スルノデアリマス、然ルニ此三銀行ノミノ銀行法ヲ改正シテ、此抵當證券ヲ取扱ハセルト云フ風ナコトニナッテ居ルノデアリマスガ、其他ノ朝鮮銀行、或ハ臺灣銀行、興業銀行、是等ノ特殊銀行ニ對シテ、此銀行法ヲ改正シテ取扱ハセルト云フコトノ御考ハアルカナイカ、此點モ一ツ承ッテ置キタイ

○井上國務大臣 他ノ銀行ニ向ッテ之ヲ今直ニ取扱ハセルト云フコトハ考ヘテ居リマセヌ、併シ是ハ抵當證券ノ大體ノ狀況ヲ見マシテ、其後ニ起ル問題デアラウト考ヘテ居リマス、ソレカラ私ガ申上ゲタコトガ少シ不十分デアリマシタカ知レマセヌガ、私ガ申ス勸業、農工、北海道拓殖銀行法ノ改正ハ、此

抵當證券ヲ取扱フト云フコトノ改正デアリマスガ、其意味ヲ申シタ次第デハナカッタノデアリマス、主ニ普通銀行ノ不動産貸付ナスニハ、今日デハドウシテモ農工、勸業デハ敏速ニ、之ニ對シテ金ヲ貸スコトガ出來マセヌ、ソコデ今度ノ抵當證券法ハ不動産金融ガ根本デアルガ、目前ニ資金ヲ不動産ニ固定サシテ困ッテ居ルト云フ事情ヲ救済スルニハ此方法ニ依リマス、斯ウ申上ゲタ次第デアリマス、先キ申上ゲタ私ノ言葉ハ少シ不十分デアッタカモ知レマセヌ

○板谷委員 更ニ私伺ヒタイノハ、他ノ委員諸君カラモ色々御話ガアッタノデアリマスガ、此法案ハ金融業ノ方面ニ偏重シテ居ル、大體金融制度調査會ナルモノハ、言フ迄モナク主ニ金融業者ト大藏省ノ方々トガ寄ッテ御作リニナッタノデアリマスカラ、金融方面ニ偏重スルト云フ事ハ已ムヲ得ナイ事デアアルカモ知レマセヌガ、一面ニ於テ土地所有者ニ對シテハ、比較的閑却サレテ居ル、寧ロ相當ノ不利益ヲ招ク結果ニナリハシナイカト考ヘルノデアリマス、事實私ノ質問ニ對シテ、例ヘバ土地所有者ガ普通銀行カラ年一割ノ利子デ借りテ居ル、而シテ抵當證券ヲ發行致シマシテ、之ヲ拓殖銀行デ割引シタ場合ニハ、最高歩合ガキマッテ居ルカ

ラ是ガ八歩トナル、更ニ之ヲ勸業銀行ヘ持ッテ行ッタ場合ニハ、七歩デ借リルコトガ出來ル、此場合ニ於テ、第二三者ノ裏書人ハ成程安イ金利デ以テ借リルコトガ出來ルデアラウケレドモ、其土地ヲ有ッテ居ル所謂債務者ニ於キマシテハ、普通銀行カラ借リレバ一割ト云フ利子ヲ支拂ハナケレバナラヌ事ニナルカラ、結局土地所有者ノ立場カラ言ッタナラバ、長期ノ低利ノ資金ニ借替ヘル機會ガナクナル、ソレデアルカラ土地所有者ニ對シテハ、何等益スル所ガナイト思ヒマス、勿論證券ト云フモノガ發行サレテ、相當ニ融通サレルト云フ場合ニ於キマシテハ、多少利益ヲ受クルコトガアルカモ知レマセヌガ、利子ニ對シテハ依然トシテ何等變リガナイ、輾轉ヲスルモノハ要スルニ其後ノ裏書者ガ利益ヲ得ルト云フコトニナルノデアリマス、隨テ所有者ニ對シテ、私共ハ利益ガナイト思ヒマス、其場合ニ於テ特約條項ト致シマシテ、抵當證券ヲ發行スル場合ニ於テ、必ズ同意ヲ要スルト云フコトデアルガ、果シテ同意スルカドウカ、政府當局ノ御考ヘニナッテ居ルヤウニ、此運用ト云フモノガ圓滑ニ行カヌヤウニ、私ハ考ヘルノデアリマスガ、ソレニ對スル所ノ御所見ヲ一ツ伺ッテ置キタイト思ヒマス	○井上國務大臣 財界ノ事ハ只今仰シヤルヤウニ、一定シテ居ラヌト私ハ考ヘテ居リマス、例ヘバ茲ニ普通ノ株ガアル、其株ガ日本銀行ノ擔保デアルカナシカデ、普通銀行ガ金ヲ貸ス金利ハ大分違ヒマス、即チ日本銀行ニ右カラ左ト持ッテ行ケバ、幾ラノ利子デ借リラレルデヤナイカ、ソレデアルカラ俺ニモ利子ヲ安クシテ貸シテ呉レテモ宜イデヤナイカト云フコトニナル、是ハ事實擔保品ノ如何ニ依リマシテ、金利ノ安イカ高イカハ確カニ決マッテ居リマス、隨テ今度モ抵當證券ヲ出シマスレバ普通銀行デモ金ヲ貸スカラ、之ヲ抵當證券ニスルト云フ箇條ヲ一ツ置イテ、抵當證券デ他日金ヲ借リルカモ知レヌト言ウテ承諾ヲ得ル場合ニハ、ソレナラバ農工銀行ヘ持ッテ行ケバ幾ラ借リレル勸業銀行ヘ持ッテ行ケバ幾ラ借リレル、俺ニ左程高イ日歩デ金ヲ貸ス必要ハナイデヤナイカト云フ事ヲ言フノハ、金ヲ借リル人ハ當然ノ主張ナラデアリマス、隨テ七分二厘ナラバ七分二厘、或ハ農工銀行ノ八分四厘ト云フモノハ直チニ標準ニハナリマセヌガ、抵當證券ガ只今決マッタヤウナ日歩デ割引ヲセラルト云フコトハ、直接借リル人モ必ズ恩典ヲ漸次受ケルコトハ是ハ當然ノ理ト吾々モ考ヘテ居リマス	○板谷委員 是ハモウ意見ノ相違デアリマスカラ、此點ハ此程度ニシテ置キマスガ、更ニ御伺ヒヲ致シタイノハ債務者ガ、即チ其土地ノ所有者ガ期日ニ於テ返濟ヲシナイ時ニ於テハ、期間後三箇月以内ニ抵當權ノ目的ニ付テ競賣ノ申立ヲシナケレバナラヌ、斯ウ云フ條文ガアルノデアリマス、抵當證券ト云フモノガ、發行サレテ從來ノ如ク競賣ト云フモノガ簡略ニ行クカドウカト云フコトニ付テ、何等規定ガナイト言ッテ、先刻長尾君カラ質問ガアッタデアリマスガ、從來競賣法ニ依ル競賣事件ノ調ニ依リマス、中々拂收ッテ居ラナイ、殆ド一年以上經過シテモ片付カナイ、其件數ガ何千トアル、早イモノデ六箇月、遲イモノニナリマス、三年四年モ經過スルト云フノガアルガ、是ハ例外デアリマセウケレドモ、少クトモ一箇年以上、詰リ競賣ノ最後ノ結果ニ至リマスニハ、一箇年以上、平均一箇年ハ掛ルモノト見ナケレバナラヌノデアリマス、ソコデ抵當證券ヲ發行スル上ニ於キマシテ、成ベク此競賣ヲ簡略ニスルト云フコトガ、要スルニ裏書シタ場合ニ於ケル債權者ノ便利デア	ル、又其便利ガナケレバ此融通ト云フモノガ相當ニ行ハレルト云フコトニハナラナイト思フノデアリマス、併ナガラ若シ此競賣ト云フモノガ割合ニ簡略デアッテ、手取り早ク行ハレルト云フコトニナレバ、所有者ト云フ者ハ迷惑ヲスル、勿論金ヲ借リテ返スノハ當然デアリマス、併ナガラ不動産ト云フモノガ輕々シク競賣サレテ輾轉サレルト云フコトニナレバ、第一其處ニ住ンデ居ル借地借家ノ人ガ迷惑スル、ノミナラズ不動産ハ先祖代々カラ持ッテ居ル人ガ多イノデアリマスガ、是ガ他ノ商品ノ如ク、容易ク競賣サレ、容易ク他ニ輾轉サレルト云フコトニナレバ、私ハ日本ノ現在ノ經濟界ニ於テモ非常ナ不安ヲ來スヤウナ結果ニナリハシナイカト思フ、ソコデ若シ抵當ノ競賣ノ處分ガ簡略ニナラヌトスルナラバ、抵當證券ヲ持ッテ居ル人ガ非常ニ不利益デア
アル、若シ是ガ簡單ニナッタナラバ、土地ヲ所有シテ居ル人ガ非常ナ迷惑ヲ感ズル、更ニ又此證券ニ對シマシテ最後ノ所有者ガ期日ニ金ヲ拂ハヌ場合ニ於テ、ソレヲ競賣シテ金額ガ債權ニ満たナカタナラバ、其前者ニ請求スル、其前者ガ更ニ又前者ニ請求スルト云フコトニナレバ非常ニ煩雜デアル、煩雜デアリマスカラ、最後ニ此土地ヲ取ルト云フ目的ニ於テ貸セル人ハ別問題デアリマスケレドモ、併ナガラ金融ノ上ニ於キマシテ、此抵當證券ヲ擔保トシテ金ヲ貸セルト云フ者ハ、私ハ實際ニ於テハ無イト思フ、斯ウ云フ煩雜ナ			

ハ、其前者々々ニ請求シナケレバナラ
スト云フ此煩雜ノモノニ對シテ、新ニ
個人トシテ金融ノ目的ニ於テ金ヲ貸セ
ル者ハ私ハ中々容易ニハナイト思フ、
殊ニ又賣買シタ場合ニ於キマシテモ、矢
張裏書シタル者ガ其義務ヲ負ハナケレ
バナラス、一旦人ニ賣タニモ拘ラズ若
シ足ラヌ場合ニ於キマシテハ、其義務
ヲ負ハナケレバナラスト云フ、サウ云
フ複雑シテ居ルモノニ對シテ、私ハ新
ニ個人トシテ之ヲ金融ノ方面ニ於キマ
シテ利用スルト云フコトハ、是ハ事實
ニ於テ困難ト思フ、デアアルカラ現在ノ
法案カラ行キマシタナラバ寧ロ率直ニ
普通銀行ガ取ッテ居ル所ノ債權、此金融
ノ便利ヲ圖ランガ爲ニ特殊銀行ニソレ
ヲ持込ム、普通銀行ガ不動産ニ金ヲ澤
山貸シテ居ッテ、其融通ガ付カヌカラ困
ルカラシテ之ヲ特殊銀行ニ持ッテ行ク、
斯ウ云フヤウナ趣意デ是ガ出タヤウニ
思フノデアリマスガ、要スルニ今申上
ゲマサヤウニ金融業者ニノミ重キヲ置
イテ、土地所有者ニ對シテ閑却シテ居
ル點ガアル、之ニ對シテ大藏大臣ハド
ウ云フヤウナ御考ヲ持ッテ居ラレマス
カ承リタイ

○井上國務大臣 御答へ致シマスガ、
根本ハ根本法デアリマシテ、私ハ板谷
君ノ言ハレルヤウニ、此抵當證券ガ今
ノ地方銀行ノ金融ニ固定シテ居ルモノ

ノ救済トバカリハ考ヘテ居ラスノデア
リマシテ、斯ウ云フモノハ漸次國民ニ
周知サレ、バ、必ズ行ハレルト考ヘマ
ス、是ト類似ノ不動産證券ガ外國ニ於
テ段々賣買サレテ居ル、轉賣買ト云
フ言葉ハ大變惡イノデアリマスガ、或
ル銀行ガ金ヲ貸シタ、ソレヲ抵當證券
ニシタ、ソレヲ放資家ガ喜ンデ澤山持ッ
テ居ル、斯ウ云フコトハ爭フベカラザ
ル所ノ事實デアリマスカラ、段々サウ
ナラウト思ヒマス、併シ差當リ申シマ
スト板谷君ノ言フヤウニ、今アナタノ
想像サレルヤウニ此金ガ非常ニ便宜ニ
使ハレマス、便宜ニ使ハレテ、地方ノ
銀行ガ不動産ニ貸シテ居ルガ、此金融
ガ付クト斯ウ云フコトニナッタ場合ニ、
決シテ不動産所有者ノ便宜デナイト云
フコトハ毛頭言ヘヌノデアリマシテ、
私等ハ斯ウ考ヘテ居リマス、地方デ耕
地ヲ持ッテ居ル、銀行ヘ持ッテ行ッテモ
ウシテモ貸シテ呉レス、モウ自分ノ所
ハ不動産ニ對スル固定ハ手一杯デア
カラ、モウ貸セヌト云フ、併シ其貸シ
タ不動産賃ノ金ガ都會ノ金利ノ安イ所
ニ持ッテ行ッテ、便利ニ再擔保ニナルト
云フナラバ、地方ノ銀行ガ固定ガ融和
サレテ其次ノ資金ガ出來タナラバ、之
ニ依テ新タナ貸金ヲスルト云フコトハ
當然ニ來マス、其意味ニ於テ私ハ地方
ノ耕地ヲ所有シテ居ル——市街宅地ヲ

所有シテ居ル人ニ、必ズ利便ノ或ル部
分ハ行渡ルト考ヘテ居リマス
○板谷委員 大藏大臣モ御忙シイヤウ
デスカラ簡單ニ今一言承リタイノデス
ガ、私ガ先程申上ゲマシタヤウニ、土
地ノ所有主即チ債務者ガ、初メ普通銀
行カラ例ヘバ年一割ノ利子ニ依テ借り
タ、其後ニ於ケル所ノ普通銀行、或ハ
其他ノ裏書ヲシタル人々ハ勿論、裏書
即チ保證人ガ付クトデアリマスカラ
ラ、割合ニ安イ金利デ借リルコトハ出
來ルノデアリマスケレドモ、土地ノ元
ノ所有主ハ、抵當證券ヲ發行サレタル
ガ爲ニ、長期ニシテ低利ノ資金ニ書替
ヲスルト云フ機會ガナイ、此點ヲ私ハ
申上ゲル、之ヲアナタハドウ云フ風ニ
御考ヘニナルカ

モウ一ツハ先程申シマシタヤウニ不
動產ノ固定シテ最モ困ッテ居ルノハ六
十二億ノ中ニ於キマシテ、普通銀行其
他ノ個人カラ高イ金利デ、短期デ借リ
テ居ル者ガ非常ニ迷惑ヲシテ、今日困
難ヲシテ居ル、十二億圓ト云フモノハ
特殊銀行デアリマスカラ割合ニ長期
デ、割合ニ低利デアアル、此五十億ヲ緩
和スルニ付テドウ云フ風ニ御考ヘニ
ナッテ居ルカ、又市街地ニ於ケル宅地建
物ノミニ之ヲ應用スルト云フコトデア
ルナラバ、此五十億ノ大部分ト云フモ
ノハ是カラ除外サレルコトニナルノデ

アリマス、是ハ私ハ金融制度調査會ノ
意思ニ副ッテ居ラスト思ヒマスカラ、此
五十億ニ對スル將來ノ債務ノ便利ヲ圖
ルニ付テハ、如何ナル御腹案ヲ持ッテ居
ルカ、此二點ヲ伺ッテ置キタイ
○井上國務大臣 抵當證券ガ出來マシ
タナラバ、必ズ斯ウナラウト思ヒマス、
是マデ普通銀行ガ貸シテ居リマシタ擔
保價格ハ、私カラ申シマス今日ヨリ
カ割合ガ下ラウト思ッテ居リマス、其代
リ金利ハ必ズ下リマス、ソレガ行クベ
キ大勢ダト考ヘテ居リマス、即チ二百
圓ノ時價ノ耕地ニ是マデハ六掛デ百二
十圓貸シタ、ソレデハ都會ニ賣レナイ、
自分ガ責任ヲ以テ賣ラウト思ヘバ五割
ノ百圓デナケレバナラナイト假ニ致シ
マス、其代リニ今私ガ申ス如ク此擔保
品ハ、君ノ所デ言ヘバ、何時デモ都會
ニ持ッテ行ケバ、擔保價格ガ低ケレバ何
時デモ金ニナル、斯ウ考ヘテ居レバ不
動產ニ對スル金利ハ安クシテ宜イデハ
ナイカ、斯ウ云フコトハモウ當然行ク
ベキ途デアリマス、ソコヲサウ考ヘマ
スト私ハ必ズシモ銀行ト云フダケノ見
地デナシニ、一般ノ不動産所有者ニ對
シテ大體ノ影響ガアルト斯ウ考ヘテ居
リマス、ソレカラ只今ノ第二ノ御尋ハ、
抵當證券バカリヲ考ヘテ御覽ニナリマ
スト、差當リハ板谷君ノ言ハレル通り
ノ缺點ガアリマス、即チ市街地——市

制ノ布カレタ所ニバカリヤツテ農村ニセスカラ、今度ハ甲ノ者ガ乙ノ銀行カ及バスト云フコトモアリマス、或ハ只今申シマス如ク用意時代ノ一時ノコトデアツテ、成ベク急速ニ日本全國ニ及ボシタイ、斯ウ云フコトガ根本ニアリマス、ソレカラモウ一ツハ抵當證券法ト云フモノハ根本法デアツテ、之ヲ出シテ只今目前ニアル不動産ニ固定サシテ困ッテ居ルト云フ事情ヲ救フコトハ到底出來ナイ、斯ウ云フ所ハ私モアナタニ御同意致シマス、ソレデアルカラ目前ノ不動産ノ金融ニ困ッテ居ル點ニ付テハ、即チ勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行法ヲ改正シテ行カウト、斯ウ云フノデアリマス、度々政府委員カラモ申上ゲタト思ヒマスガ、此改正ヲ企テタ根本ノ趣意ハ、地方ノ銀行ノ貸付ガ不動産ニ固定シテ居テ立派ナ不動産ヲ持ッテ居リマス、ソレダカラ之ニ依ッテ百萬圓ヤ百五十萬圓ノ金ノ出來ナイ筈ハナイト思ッテ、勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行ニ之ヲ交渉シテ見マスト、金ヲ貸シタ證券ヲ持ッテ來テ金ニナルナラバ、一日ノ中ニ金ニナリマス、凡ソ勸業銀行ハ如キハドノ地方ニハドレ位ノ價值ノアルモノガアルト云フコトガ分ッテ居リマスカラ、所謂机上調査デ直グ出來ル、大體ノ見込ヲ直グ出シテ地方銀行ノ急ヲ救フコトガ出來マス、併シソレハ勸業銀行法デ許シマ

セスカラ、今度ハ甲ノ者ガ乙ノ銀行カラ借りテ居ッテ、乙ノ銀行ヲ無視シテシマッテ甲ノ不動産デ金ヲ借りテ居ル人ト直接談判ヲシテ、サウシテ之ニ金ヲ貸スノデスカラヤレ調査ヲシ、登記ヲスル、登記ヲ済マサナケレバ一文モ金ハ出ナイ斯ウ云フコトニナリマス、何千何百ト云フ不動産ノ件數ヲ取扱フノニハ一週間或ハ十日掛カリマシテ、到底不動産金融ニ満足スルコトガ出來スノデアリマス、ソコガ目下ノ急務デアリマスカラ、此銀行法ノ改正デ日本ノ不動産金融ノ不完全ナ所ヲ、缺點ヲ根本的ニ補ッテ行キタイ、サウ云フノデニ今言ハレルヤウニ局限サレタ改正案デナシニ兩者ヲ御考ヘ下サルト、全體ニ對スル適當ナ處置デハナカラウカト、斯ウ考ヘテ居ル次第デアリマス

○板谷委員 私ノ質問ハ此程度デ保留シテ置キマス

○荒川委員長 大臣ハ先日來度々御出席ヲ願ヒマシタ所、貴族院並其他ノ關係デ、漸ク今日特ニ御出席ニナリマシタガ、時間モ極メテ乏シイノデアリマスカラ、大臣ニ特ニ御質問ノ方ハ簡單ニ此際仰シヤッテ下サイ

○大崎委員 丁度大藏大臣ガ御見エニナリマシタカラ、大體ノ御方針ニ付テ一寸御尋致シタイト思ヒマス、現在ニ

於キマシテ政府ノ財政ハ緊縮シナケレバナラスト云フ方針ハ、モウ度々伺ッテ居ルノデアリマス、又財源ガナイ爲ニ必要ナル事業モ多クハ差控ヘテ居ルト云フヤウナコトハ、是モ度々承ッテ能ク承知シテ居リマスガ、本案ニ於キマシテハ私共大衆ノ立場カラ考ヘマスレバ、餘リ恩惠ハナイト思フ、却テ土地ガ賣買サレタリシテ、色々煩雜ナル事件ガ起リマス、極ク細民ノ居住者ニハ不安コソ感ズレ、何等ノ利益ハナイヤウニ私ハ思ッテ居リマス、サウ云フ方面カラ行ケバ如何ニモ不急ナ法案ノヤウニ私ハ思ヒマス、斯ノ如キ不急ナ法案ノ設備費ニ五十萬圓モ掛ケ、又ハ經費ハ二十餘萬圓掛ケル、約七十餘萬圓モ掛カルコトニナルノデアリマス、緊縮ヲ方針トシテ居リナガラ、只今ノ御説明ニモアル通り、現在銀行デ貸出シテ固定シテ居ル、斯ウ云フモノヲ救済スルノガ動機デ、此法案ヲ考ヘ出シタ、無論根本方針ハサウデナイケレドモ、ソレガ動機デ此法案ヲ考ヘ附イタヤウナ御説明デアリマスガ、只今銀行ガ困ッテ居ルコトヲ言ハレタガ、外ニ澤山ヤラナケレバナラヌ事業ガアルノニ、其事業ノ方ハ抛ッテ置イテ、斯ノ如ク七十餘萬圓モ掛カルヤウナ法案ヲ出サレタト云フコトハ、政府ノ主義方針ニモ反シマスルシ、事ノ緩急ヲ私ハ誤ッテ居リハセヌ

カト思フ一人デアリマスカラ、此點ヲ明ニ御説明ヲ願ヒタイ

○井上國務大臣 簡單ニ御答致シマス、日本ハ國ガ開ケテカラ以來、何ガ財産デアアルカト申シマスト吾々ハ土地ト考ヘテ居リマス、最近ノ經濟組織ニナリマシテ或ハ株券トカ、或ハ債券トカ云フモノガ出來マシタガ、日本ガ數千年來經來ッタ中デ、財産ト云フモノハ土地デアアル、斯ウ云フコトヲ考ヘマシテ、今日ノ日本國民ノ多數モ土地ト云フコトニ付テハ、特殊ノ財産價值ヲ認メテ居ルノデアリマス、然ルニ段々歐羅巴ノ大戰以來、日本ノ今日ノ狀態ハドウデアアルカト云フト、土地ガ一度價值ガ騰ッテ、其騰ッタ時ノ結果トシテ今日ハ其融通ガ圓滑ニナリ、其融通ノ圓滑ヲ圖ル爲ニ抵當證券ト云フモノヲ出シ、又目前ノ方法カラ行ケバ銀行法ノ改正ヲスル、銀行法ノ改正ヲシテ抵當物ガ自由ニ輾轉シ得ルト云フコトノ改正ハ、如何ナル階級ノ人デモ、如何ナル思想ヲ懷イテ居ル人デモ、私ハ反對ハナカラウト思フ、又土地ノ如キ日本人ノ特有ノ考ノアル財産ト云フモノガ圓滑ニ賣買セラレ、貸借ガ出來マスコトハ、ドウ云フ立場ノ人カラ言ッテモ反對ノ出來ナイ事柄ダト私ハ考ヘテ居リマス

○大崎委員 無論土地ガ我國ニ於テ大

切ナル財産ノ一ツデ、是ガ爲ニ日清戦
争ガ出来タリ、色々ノコトガ起ッタコト
ハ大藏大臣ノ御説ノ通りデアリマス
ガ、私ハサウ云フ考デハナイノデアリ
マス、ツマリ今日ノ状態ハ、借家人ハ
家賃ガ滞ッテ追立テレル、又債務ニ追ハ
レテ子供ヲ殺シテ自殺スルヤウナコト
ガ、新聞ニ頻々トシテ出ル、私共ト大藏
大臣ノ頭ノ違フノハ、ツマリ金ガ大切
カ生命ガ大切カト、極端ニ言ヘバサウ
ナルノデアリマス、救護法ニ依ッテ助ケ
ラレル所ノ人民ハ、全國ニ於テ十何萬
ト云フ人間ガ助カルノデアアル、此救護
法モ實行シナイデ、サウシテ銀行法ノ
改正ヲヤッテ誰ガ助カリマスカ、銀行ノ
金融ガ幾分緩和サレルトハ私モ承知ハ
シテ居リマスルケレドモ、銀行ガ金融
ヲ緩和シテ、國民ガ困ッテ居ルノヲ見テ
居ッテ宜イカ、ソコヲハッキリ言ッテ貰ヒ
タイ、金融ヲ良クシテ困ル者ヲ抛ッテ置
イテ宜イカ、金融ハ悪クテモ困ル者ヲ
救ハナケレバナラヌカ、ドチラガ先ニ
ナルカ、此緩急ヲ大藏大臣ニハッキリシ
テ戴キタイ

○井上國務大臣 大議論デアリマス
ガ、私ノ政府ノ役目ハ何デアルカト云
フ所カラ一ツ御考ヘ下サレバ、能ク分
ルノデアルト思ヒマス、金融ニ故障ガ
アリ不動産金融ニ故障ガアッテ、其故障
ヲ政府ノ力ヲ以テ圓滿ニ解決スルコト

ガ出来得ルナラバ、政府トシテハ當然
ヤラナケレバナラヌコトデアアル、是ニ
ハ恐ラク御異存ハナカラウト思フ、御
異存ガアリマスレバ、政府ノ役目ニ付
テ根本的ニ私ハアナタト意見ガ違フノ
デアリマス、ソレナラバ救護法ノ實行
ハドウカト云フコトデアリマスガ、救
護法ニ付テハ度々内務大臣カラ御答ヘ
致シマシタ通り、實行スル積リデアリ
マス、併ナガラ只今言ハレルヤウニ、
今日ノ如キ經濟界ニ處シテ政府ノ力デ
總テノ人ニ力ヲ與ヘ、總テノ困ル人ニ
金ヲ與ヘ、總テノ者ニ満足ヲ與ヘルコ
トガ、政府ノ力デ出来ルカ否カト云フ
コトヲ申シマスルト、左様ナ事ハ直接
ニ出来得ル事ダケハヤラナケレバナラ
ス、失業救濟事業ト雖モ——救護法ト
雖モヤラナケレバナラヌ、併ナガラ根
本的ニ經濟界ニ故障ガアッテ、其爲ニ不
況ニナル、或ハ一方ニ倒産者ヲ拵ヘル
ト云フコトニナルナラバ、政府ノ役目
トシテソレモ圓滑ニヤルノガ當リ前ノ
途デアルト思フノデアリマス、之ヲヤ
ルニ付テハ御異存ガアラウトハ私ハ少
シモ考ヘテ居リマセス

○中田委員 大臣モ御多忙ノヤウデア
リマスカラ極ク簡單ニ一二點御伺ヒ致
シマス、此法案ノ目的ハ、差當リノ目
的ト永久ノ目的トヲ持ッテ居ル譯デア
リマスカ、結局此現在ノ差當リノ目的

トシテハ、今固定シテ居リマスル不動
産ニ對スル金融ヲ圓滑ニシテ行キタ
イ、ソレニハ農工、勸業、北海拓殖等
ノ銀行法ヲ先ヅ改正シテ、ソレ等ノ銀
行ガ、地方銀行ナドノ再割引ト云ヒマ
スルカ、裏書ト云ヒマスルカ、ソレニ
依リマシテ緩和シテヤラウト云フノ
ガ、一ノ差當リノ目的デアルト思ヒマ
ス、サウシマスルト其三銀行ノ貸出極
度ナリ、或ハ貸出能力ノ増加ト云フモ
ノガ必要ニナッテ參リマスルガ、此改正
ニ依ッテ三銀行ノ貸出能力、極度額ハド
ノ位ノモノガアリマスカ、サウ云フヤ
ウナ方面カラ見テ今ノ金融ヲ圓滑ナラ
シムルト云フコトニ餘程ノ力ガアリマ
スノデアリマスカ、例ヘバ地方ニ於テ
三十億ナラ三十億ノ固定ガアルト致シ
マシテ、其三十億ノ金融ヲ圓滑ナラシ
ムル爲ニ地方銀行ガ三銀行等ニ割引ヲ
依頼シテ來ル——一時ニハ來マスマイ
ケレドモ、サウ云フ必要ノアル場合ニ
ハ、三銀行ナドガソレヲ發揮スル力ガ
無ケレバ實際ノ效果ハ中々舉ラナイノ
デハナイカト思フノデアリマス、ソコ
デ此法案ハ趣旨トシテハ結構デアリマ
ケレドモ、實際ノ運用ニ於テ缺クル所
ガナイカト云フコトヲ心配致スノデア
リマス、其點ニ付テ伺ヒマス

○井上國務大臣 御答ヘ致シマスガ、
御尤ナ御質問デアリマシテ、隨テ此銀

行法ノ改正ノ案件ノ中ニ、債券發行ノ
高ヲ増シテ居リマス、ソレニ依ッテ出来
ルダラウト思ッテ居リマス、ナゼカト申
シマスルト、勸業銀行ノ資金ニシマシ
テモ、農工銀行ノ資金ニシマシテモ、
大部分ハ債券發行デ得ラレテ居リマシ
テ、按外兩者ノ債券ハ信用ガアリマス
カラ、アノ債券ヲ發行スルニ決シテ不
便ヲ感ジテ居リマセヌカラ、資金ノ點
ニ於テハ相當便利モ得ラレルコト、思
惟シテ居リマス

○中田委員 只今ノ勸業銀行法等ノ改
正ニ依リマシテ、今ヨリドノ位能力ガ
殖エルノデアリマスカ

○井上國務大臣 債券發行餘力ノ増加
ダケヲ現狀ト對照シテ、政府委員カラ
申上ゲルコトニ致シマス

○大久保政府委員 債券發行ノ餘力ヲ
御質問ノヤウデアリマスカラ、其點ヲ
申上ゲタイト思ヒマスガ、勸業銀行デ
四億一千五百萬圓位餘裕ガアリマス、
農工銀行ノ方デハ大體ニ於テ七八億殖
エル豫定デアリマス、左様御了承ヲ願
ヒマス

○中田委員 ソレカラ之モ私ノ杞憂カ
モ知レマセヌケレドモ、勸業トカ農工
トカ北海拓殖トカ云フヤウナ三銀行ノ
貸出ハ、相當嚴密ニ調査ト價格ノ評定
ニ付キマシテモ、地方デ金融ヲシテ居
ル銀行ガ評定スル價格ヨリモ、餘程安

ク大丈夫ニ見積ッテ居ルト云フ狀況デアリマス、例ヘバ市街宅地アタリデモ百圓スルグラウト思フ所ヲ、農工銀行勸業銀行アタリデハ七十圓位ニ見積ッテ居ル、更ニソレカラシテ半分位貸スト云フヤウナコトデ、實際ノ價格カラ見レバ三分ノ一位ヨリ貸サナイト云ッタヤウナコトデ、是ハ銀行ノ確實ヲ期スル上ニハ結構デアリマスケレドモ、實際ノ金融ノ圓滑ト云フ方カラ云ヒマスルト、イツモ是ガ問題ニナルノデアリマスガ、サウ云フヤウナ次第デアリマスカラ、不動産ノ金融ハ、百圓ノ品物ヲ持ッテ行ッテ、三十圓カ二十圓借リル時ニハ大變都合ガ好イノデアリマス

於テ勸業農工等ノ評價ガ非常ニ安イノト、ソレカラ不動産金融ノ必要ナル人ノ希望スル所ハ、長期ニ借リタイト云フコト、成ベク澤山ノ金ヲ借リタイト云フコト、ソレカラ成ベク安ク借リタイト云フ此三ツガ希望條件トシテ最モ重要ナモノデアリマスガ、此證券法ニ依ッテサウ云フコトヲスルコトガ困難ノヤウニ考ヘラレテ居ルノデアリマスガ、サウ云フコトハ已ムヲ得ヌコトダト云フノデ、マア諦メナケレバナラスノデアリマセウカ、ソレニ付テ大藏大臣カラデナクテモ、大久保サンカラデモ結構デアリマスカラ一ツ伺ヒマス

○井上國務大臣 先刻板谷君ニ御答致シマシタヤウニ、現状カラ見マシタラ私ハ擔保價格ハ必ズ下ルト思ヒマス、普通ノ銀行ガ之ニ依ッテ他日融通ヲ受ケヨウト思フナラバ、是マデノ地方銀行ガ貸シテ居ル擔保價格ヲ見マスト、アレデハ他日地方カラ都會ニ持ッテ行ケヌカラ、成タケ下ゲテ置カウト云フコトハ、今日ノ不動産價格ノ狀態カラ言ヘバ已ムヲ得ヌト思ヒマス、其代リニ必ズ金利ハ下ル、サウシテ一方カラ言ヘバ、此便利ガ十分ニ達スルコトガ出來レバ、今後不動産金融ハ今ヨリカ餘程樂ニナルト云フコトヲ考ヘテ居リマス、サウスレバ現状カラ申シマスト、

ガ、出來ルダケ之ニ依ッテ借リタイト思フ人ハ、地方銀行若クハ地方金融業者ノ所ニ參リマシテ、出來ルダケ多クノ貸出ヲ頼ム譯デアリマス、其結果ドウナルカト申シマスト、金利ガ高クナル、ソレダケナラ宜シイノデアリマスガ、金融業者ガ割引ヲショウトスル時ニハ、農工銀行ナリ勸業銀行ナリガ其儘デハ、餘リ高ク取過ギテ居ルト云フ關係デ、結局第一項ノ貸主ノ融通ガ少ナクナリハシナイカト云フコトヲ憂フルノデアリマス、サウ云フ場合ニ此證券法ニ、サウ云フ缺陷ヲ救済スル途ガアリマスルト、大變法ノ目的ヲ達スル上ニモ宜シイノデアリマスガ、實際ニ

中田氏ノ言ハレルヤウニ餘計金ヲ借りテ、安イ金利デ長ク借リヨウト云フコトハ誰モノ希望デアリマスガ、今日ノ地方銀行ノ不動産ガ固定シテ居ルノハ、何處ニ一番弊害ガアルカト云フト、前ノ高カッタ不動産價格ヲ基ニシテ、サウシテ勸業銀行ハ五割貸シマス、普通ノ地方銀行デハ七割乃至八割モ貸シテ居ル所ガアリマス爲ニ、今日ハ非常ニ困ルノデアリマス、併ナガラ假ニサウ云フコトガアリマシテモ、抵當證券ハ非常ニ便利ニナリマスノハ、地方銀行ガ百萬圓ノ金ヲ抵當證券デ貸シテ居ル、ソレヲ都會ノ銀行ニ持ッテ來マシタ場合ニハ、是ハ到底百萬圓ハ貸セナイ、併シ之ヲ擔保ニシテ裏書ヲシテ、手形ヲ擔保ニシマス如ク、抵當證券ノ額面デイケバ百萬圓アルガ、之ニ依ッテ六十萬圓ノ金ヲ借りテ來ルト云フヤウナコトハ、是ハ當然今後當分ノ間行ハレルコトデアリマス、詰リ質ニ入レル

ソレデ今後ハ七掛貸シテ居ルモノヲ、勸業銀行ニ持ッテ行ケバ、五割ホカ借リラレストシタ所ガ、裏書ヲシナガラソレヲ質入レシテ金ヲ借りマシレバ、或ル一定ノ金額ノ融通ハ必ズ出來ルノデアリマスカラ、サウ云フ便利ニハ必ズ此證券ハナルモノト確信シテ居リマス

○中田委員 モウ一ツ伺ヒマスガ、先程申上ゲタヤウニ不動産ノ金融ノ一番有難サハ長ク借リテ置カラルルト云フコトナノデ、殊ニ農村ナドデハ、銀行ガ始ッテカラ、ズツ借リテ居ッテ、三十年モ同ジ擔保デ借リテ居ルト云フヤウナコトガ随分アルノデアリマス、ソレガ又農村デハ非常ニ助カル譯デアリマス、ソレガ手形ノ取立ノヤウニ不動産金融ガ非常ニ敏速ニ運轉回轉ヲスルト云フコトニナリマス、一般不動産ヲ持ッテ居ッタ人達ノ、今マデ少ナクモヤッテ居ッタ習性ト云フカ、習慣ト云フモノガ破壊サレテ、不動産ノ有爲轉變ノ悲哀ヲ感ズルト云フヤウナコトニナルト思ヒマスガ、此證券法ノ精神ハ一方カラ言フト、非常ニ結構デアリマスガ、他方ニ於テ不動産ト云フモノハ寶デアル、先程大藏大臣ノ御話ノ、日本ノ國民性トシテ不動産ト云フモノヲ財産トシテ最モ重要ナモノ、一ツニ考ヘテ居ル、ソレハ不動産ト云フモノガ讀ンデ字ノ如ク、餘リ動カナイデ居ルト云フヤウナコトデ、自分ノ所ニ長ク持ッテ居ルコトガ出來ルモノダト云フ觀念ガ先立ッテ居リマスカラ、實ト云フ觀念ガ從ッテ起ルノデアリマスガ、是ガ非常ニ證券法ノ目的ガ現レテ參リマシテ、激シク融通ガ付クト云フヤウニナリマス、不動産トシテ今マデ持ッテ

上ニモ宜シイノデアリマスガ、實際ニ

於テ勸業農工等ノ評價ガ非常ニ安イノト、ソレカラ不動産金融ノ必要ナル人ノ希望スル所ハ、長期ニ借リタイト云フコト、成ベク澤山ノ金ヲ借リタイト云フコト、ソレカラ成ベク安ク借リタイト云フ此三ツガ希望條件トシテ最モ重要ナモノデアリマスガ、此證券法ニ依ッテサウ云フコトヲスルコトガ困難ノヤウニ考ヘラレテ居ルノデアリマスガ、サウ云フコトハ已ムヲ得ヌコトダト云フノデ、マア諦メナケレバナラスノデアリマセウカ、ソレニ付テ大藏大臣カラデナクテモ、大久保サンカラデモ結構デアリマスカラ一ツ伺ヒマス

中田氏ノ言ハレルヤウニ餘計金ヲ借りテ、安イ金利デ長ク借リヨウト云フコトハ誰モノ希望デアリマスガ、今日ノ地方銀行ノ不動産ガ固定シテ居ルノハ、何處ニ一番弊害ガアルカト云フト、前ノ高カッタ不動産價格ヲ基ニシテ、サウシテ勸業銀行ハ五割貸シマス、普通ノ地方銀行デハ七割乃至八割モ貸シテ居ル所ガアリマス爲ニ、今日ハ非常ニ困ルノデアリマス、併ナガラ假ニサウ云フコトガアリマシテモ、抵當證券ハ非常ニ便利ニナリマスノハ、地方銀行ガ百萬圓ノ金ヲ抵當證券デ貸シテ居ル、ソレヲ都會ノ銀行ニ持ッテ來マシタ場合ニハ、是ハ到底百萬圓ハ貸セナイ、併シ之ヲ擔保ニシテ裏書ヲシテ、手形ヲ擔保ニシマス如ク、抵當證券ノ額面デイケバ百萬圓アルガ、之ニ依ッテ六十萬圓ノ金ヲ借りテ來ルト云フヤウナコトハ、是ハ當然今後當分ノ間行ハレルコトデアリマス、詰リ質ニ入レル

ソレデ今後ハ七掛貸シテ居ルモノヲ、勸業銀行ニ持ッテ行ケバ、五割ホカ借リラレストシタ所ガ、裏書ヲシナガラソレヲ質入レシテ金ヲ借りマシレバ、或ル一定ノ金額ノ融通ハ必ズ出來ルノデアリマスカラ、サウ云フ便利ニハ必ズ此證券ハナルモノト確信シテ居リマス

居ッタ信念ト云フモノガ變ッテ來テ、ヤ
ハリ金ト同ジヤウニ當テニナラナイモ
ノダト云フ風ニナリハセスカト考ヘル
ノデアリマス、サウシテ此證券法ニ依
リマス、名川君カラモ御質問ガアリ
マシタケレドモ、ドウシテモ競賣ガ激
シクナル競賣シテ貰ハナイヤウニスル
ニハ裏書人ニ對シテ交渉シナケレバナ
ラヌ、裏書人ガ承知シナケレバ已ムヲ
得スカラ競賣ニナッテ、延期ヲ求メテモ
延期ガ出來ナイト云フコトニナリマス
カラ、一方ニ融通力ト云フモノガ増シ
テ圓滑ニナレバ他方ニ於テ不動産ノ
持ッテ居ル特徵タル、長ク借リテ段々ト
返シテ行クト云フヤウナ意味合ガ、非
常ニ減退シテ來ルト云フト、私ハ或ル
意味ニ於テ不動産金融ノ結果トシテ、
農村經濟ノ破壊ニナリハセスカ、破壊
ト云フコトハ大袈裟デアリマスケレド
モ、少ナクトモ非常ニ脅威ニナリハセ
スカト考ヘルノデアリマス、サウ云フ
點ニ付キマシテノ考ハ如何デアリマス
カ

○井上國務大臣 只今ノ御心配ハ御尤
モデアリマス、金ヲ樂ニ貸シテ、結果
ハ恨マレルト云フコトハモウ常デアリ
マス、アノ時アレダケ樂ニ金ヲ貸シテ
呉レナケレバ、俺ハ潰レハセヌノダワイ
ト言ッテ恨マレルノデアリマス、併ナガ
ラ私ハ現狀カラ見マシテ、日本ノ農村

ヲ助ケル意味カラ言ッテ、農村ノ今持ッ
テ居ル不動産ヲ擔保ニシテ金ヲ借リテ
居ル狀態カラ見テ、ドウシテモ斯ウ云
フコトヲ圖ッテヤルコトガ適當ト考ヘ
タ譯デアリマスガ、只今ノヤウニ金融
ガ便利ニナレバ、ソレニ乘ジテ自分ノ
先祖傳來ノ財産ヲ潰シテシマッタト云
フ例ハ、是マデ澤山アリマスカラ、其
點ハ餘程注意シナケレバナラヌノデア
リマスガ、田中君ノ言ハレル如ク極端
ニ考ヘヌデモ宜クハナカラウカ、是ハ
サウ便利ニ普通ノ手形ノヤウニイクモ
ノデナイノデゴザイマスカラ、私ハサ
ウ心配ハシテ居ラナイノデアリマス

○板谷委員 私ハモウ一言簡單ニ大臣
ニ御質問ヲ致シマス、只今大藏大臣ハ
農村ノ現在ガ非常ニ困ッテ居ル、之ヲ救
フニ付テハ此抵當證券ヲ發行スルト云
フヤウナ御言葉ガアッタノデアリマス
ガ、私ハ此御言葉ヲ聽イテ、實ハ意外
ニ感ジテ居ルノデスガ、先程私ノ質問
中ニ現在不動産ノ債務六十二億ノ中、
十二億ガ勸業農工、拓殖デアッテ、アト
ノ五十億ト云フモノハ普通銀行或ハ個
人デアアル、是ハ割合ニ短期デ以テ金利
ガ高イ、現在ノ不動産ヲ持ッテ居ル人々
ハ今中田君ノ御話ノヤウニ、出來ルダ
ケ長期、出來ルダケ安ク、先へ借ル分
ニ對シテハ出來ルダケ多ク借リタイト
云フ希望モアリマスガ、現在借リテ居

ル所ノ短期デアアルモノヲ、成ベク長期
デ低利ニ借替シタイト云フノガ、大體
ノ習慣デアリマス、是ハ又不動産ノ所
有者ヲ救フ所以デアルト私ハ信ズルノ
デアリマス、所ガ此施行區域ハ市街ニ
於ケル、所謂市制ノ布カレテ居ル所ノ
宅地建物ニ限ルト云フコトデアッテ、農
村ノ方面ニ對シテハ追々此結果ヲ見タ
上デ、之ヲ延長スルト云フヤウナ御話
ガアッタノデアリマスガ、併ナガラ今御
話ノ中ニ、農村ガ現在困ル、之ヲ救フ
ニハ此法案ヲ用ユルト云フヤウナ御言
葉ガアッタノデアリマス、是ハ或ハ御誤
リデアッタノデハナイイカト想像スル、併
ナガラ現在不動産ヲ持ッテ一番困ッテ居
ルノハ農村デアリマス、其農村ニ對シ
テハ他ニ何等カノ腹案ガアリマスカド
ウカト思ッテ、御尋ヲ致シマシタケレド
モ、之ニ對スル所ノ答辯ハナカッタノ
デアリマスルカ、此法案ヲ差當ッテ市制
ノ布カレテアル所ノ都會ノ宅地建物ニ
限ルト致シマシテ、更ニ之ヲ延長スル
ト云フコトニ付テ、農村方面ノ現在ガ
非常ニ困ッテ居ル、之ヲ救済スルト云フ
コトニ付テ、何カ御腹案ガアルカ、又
此法案ヲ何日頃實施スルカト聞キマス
ト、本年ノ七月頃カラ實施シタイト云
フ先程政府委員ノ御話ガアリマシタ
ガ、農村方面ニ對シテハ之ヲ何日頃カ
ラ實施ナサル御考デアアルカドウカ、此

點モ或ル程度迄ハッキリ御言明ヲ願ッテ
置キタイト思フノデアリマス

○井上國務大臣 此抵當證券ハ只今申
上ダ通り市制ノ施行サレテ居ル所カ
ラヤリマシテ、尙ホ私共ノ希望カラ申
シマス、證券ノエライ缺點ノナイコト
モ分リ、能ク流通スルヤウニナリマシ
タナラバ、成ベク早く農村ニモ實施シ
タイト考ヘテ居リマス、併シ今御話ノ
何日カラヤルト云フコトニ付テハ、登
記役場ノ役人ノ習練等ニモ依ルコトデ
アリマスカラ、ハッキリ申上ゲ兼マスガ
併シ成ベク早く農村ニモ之ヲ實施シタ
ヘテ置キタイト思ヒマス

○板谷委員 此抵當證券ト云フモノ
ハ、不動産金融ノ圖ル上ニ於テ唯一部
分デアリマスガ、將來徹底シタル地券
——明治初年地券ガ發行サレタノデア
リマスガ、偽造其他ノコトニ依ッテ色々
複雑シタ問題ガ起ッタ爲ニ、廢止サレタ
ヤウニ承知シテ居リマスガ、將來徹底
シタル地券ヲ發行ナサル御意思ガアリ
マスカドウカ、或ハ其前提ノ意味デ之
ヲ御出シニナッタカドウカ、之ヲ大藏大
臣ニ伺ッテ置キマス

○井上國務大臣 ソレハ一面御尤モニ
思ヒマスガ、地券制度ノ研究ハ、大藏
省デ餘リシナイイカ知リマセヌガ、私ハ
個人デ研究シタ事ガアリマス、併シ此

抵當證券ヲ以テアノ地券制度ノ前提ト
ハ御考ヘ下サラヌヤウニ御願ヒ致シテ
置キマス、決シテ私ハ左様ナ意味ニ於
テ之ヲ考ヘテ居ラヌデアリマス

○大崎委員 先程救済事業ト金融制度

トドチラヲ先ニシナケレバナラヌカト
云フコトニ付テ、大臣カラ御答辯ガア
リマシタガ、大臣ハ現在ノ經濟狀態ニ
鑑ミテ、本法案ヲ實施スルコトガ適切
ナル考デアルト云フヤウナ御話デアリ
マシタ、是ハ私共ハヤハリ救済事業ノ

方ヲ先ニシナケレバナラヌト云フコト
ニ考ヘテ居リマス、是ハ意見ノ相違ノ
ヤウニ思ハレマスカラ、ソレデ質問ハ
打切リマスガ、先程ドナタカラカ質問
ガアリマシタガ、現在ノ不動産ニ對ス

ル貸付金ハ約六十億ニ上ッテ居ルト云
フヤウナコトデアリマス、デ表ヲ見マ
スト、金額ニ於キマシテモ田舎ノ方ノ
金額ガ約二十四五億圓、都市ノ方モ約

二十四五億圓ト云フヤウニ表ニ上ッテ
居ルノデアリマス、本法ハ實際ノ土地
所有者、又ハ耕作地所有者、若クハ一

般ノ者ノ便利ヲ圖ルト云フコト、又一
般ノ者ノ金融ノ圓滑ヲ圖ルト云フコト
ガ趣旨デアリマスナラバ、只今板谷君

モ申サレタ通り、私ハ農村ノ方カラ先
ニヤラナケレバナラヌヤウニ思ッテ居
ルノデアリマス、金額カラ行キマシテ

モ、件數カラ行キマシテモ、又實際困

ル狀態カラ行キマシテモ、私ハ農村ノ

方ガ却ッテ困ッテ居リハセヌカト思フノ
デアリマス詰リ順序カラ行キマス、
農村カラ先ニヤラナケレバナラヌト云

フヤウニ思ッテ居リマスガ、ソレヲドウ
云フ譯デ都市ノ方カラ先ニ御ヤリニナ
ルノカト云フコトヲ御質問シマス、ソ

レカラ又現在六十億ニ垂トスル此債
務ヲ無論本法ハ廻ル譯ニハ行カヌカ
ラ、其心配モナカラウト思ッテ居リマ

スガ、條文ノ事ニナリマスガ、現在ノ
抵當權者ガ何等カノ機會ニ、之ヲ抵當
證券ニ必ズ直シタイト云フ希望ハアル

スレバ本人ガ承諾シナケレバ、抵當證
券ハ發行出來ナイノデアルカラ何デモ
ナイ、承諾シナケレバ宜イデヤナイカ

ト御答辯ニナルカモ知レマセスガ、實
際ニ借リタ者ガ期限ガ來テモ利息モ支
拂イナイト云フヤウナ時ニ、債權者カ

ラ責メラレテ已ムヲ得バ抵當證券ニ同
意ヲシナケレバナラヌト云フコトニナ
リマス、今現在此六十億ノ借金、之

ガ爲ニ金融ノ圓滑ヲ缺キハシナイカト
迄心配シテ居ル此大變ナ借金ヲ、貸シ
タ人ハ便利ニナリマスケレドモ、借リ

タ人ハ不安ヲ懷ク、茲ニ債權者ガ權力
ヲ以テ、返サケレバ斯ウスルゾ、左モ
ナケレバ同意シロト云フ譯デ、非常ナ

壓迫ガ來ル、斯様ナ場合ニ、私ハ現在

ノ五十億、六十億ノ債務者ニ、何等カ
同情スル條項ガナケレバナラヌト思フ
ノデアリマス、斯様ナ意ニ於テ、本法

施行以前ノ抵當權ニ對シテハ、廻ラナ
イト云フヤウナ條項ヲ入レル御考ガナ
イカドウカ、吾々ハ之ヲ入レル必要ガ

アラウト思ヒマスガ、大藏大臣ハ之ヲ
入レル必要ガナイト云フ御意思デア
ルカ、御答辯ヲ願ヒマス

○井上國務大臣 第一ノ御問ニ御答ヘ
致シマスガ農村ノ方ガ不動産ノ貸金ガ
多イカラ、農村カラ先ニヤル方ガ宜イ

デヤナイカト云フヤウナコトデアリマ
スガ、其立場カラノ御議論ナラバ御尤
モデアリマス、併ナガラ抵當證券法ニ

限ラズ斯様ナ新シイ、事柄ヲ始メル時
ハ、都會ノ人ノ方ガズツト斯様ナ新シ
イ事ニハ慣レテ居リマスノデ、折角ノ

立派ナ法案デモ地方及ビ地方銀行バカ
リニ持ッテ行キマシタナラバ、法律ガ
果シテ利用ガ出來ルカ否ヤ、恐ラク利

用ノ出來ル時期カラ申シマシタラ、ズ
ト長引クダラウト思ヒマス、ソレデア
リマスカラ始メルニ付テハ都會カラ始

メテ、只今板谷君ニ御答シタヤウニ成
ベク早く農村ニモ之ヲ及ボスト云フコ
トガ、吾々ハ適當ナ處置ト考ヘタノデ
アリマス

ソレカラ第二ノ御問ハ私トハ考ガ違
フノデアリマス、抵當證券法ヲ實施シ

タナラバ、大勢ハドウカト言ヘバ、擔
保價格ガ下リ金利ガ下リマス、即チ借
ル方ニモ便利デアル、斯ウ吾々ハ考ヘ

テ居リマス、只今ノ御説ニ依リマス、
抵當證券ヲ發行出來ルコトニスレバ、
不動産ヲ提供シテ金ヲ借りテ居ル人

ハ、自分ノ財産ヲ全部取ラレテシマフ
ヤウニ御考ヘニナリマスケレドモ、サ
ウハ考ヘテ居リマセヌ、總テ債權者ト

債務者トノ間ニ公平ナル立場ヲ認メテ
ヤルコトデアリマス、施行以前ノモノ
ハ承諾ヲシテモイカヌ、承諾ノ有無ニ

拘ラズ行カウト云フノデハナイノデア
リマシテ、必ズ承諾ガナケレバイカヌ
ノデアリマス、アナタノ御説ノヤウニ

スルト、施行以前ノモノハ抵當證券ニ
之ヲ直スコトハイイカヌト言ハナケレバ
ナリマセヌガ、左様ニ債務者、債權者

ノ間ヲ隔テ、一方ハ非常ニ強イ者、
一方ハ非常ニ弱イ者ト云フコトヲ考ヘ
ル必要モナイト吾々ハ考ヘテ居リマ

ス

○大崎委員 私ハ此點ハドノ會派ヲ分

タズ、現在不動産ヲ所有シテ居ル者ガ
ソレヲ擔保トシテ金ヲ借りテ居ル、其
ノ者ノ立場カラ考ヘマス、非常ニ重
大ナル意味ガアルト思フノデアリマ
ス、デアリマスカラ、斯様ナ問題ハ私
ハ政友會、民政黨ト云フヤウナコトヲ
考ヘナイデ、實際ニ今ノ中産階級ヲ救

ハナケレバナラヌト云フ立場カラモ、御互ニ此問題ヲ研究シテ掛ラナケレバナテヌト思フノデアリマス、殊ニ現ニ六十億ノ金ヲ中産階級ノ者ガ使ッテ居リマスガ、此六十億ガ必ズ一年トカ、二年トカ、三年トカ云フ期限ニナッテ居リマス、此金ガドウ云フ方法デ一年ヤ二年ニ返セルカト云フト、必ズ返セナイ、又政府デ以テ外國カラ公債ヲ募リマシテモ、期限ニ必ズ返セルカト云ヘバ、必ズ返セナイ、借替ヲヤルニキマッテ居ル、斯ウ云フ借替ノ時ハ現ニ大藏大臣モ非常ニ不利ナル條件デ之ニ應ジナケレバナラヌト云フコトハ、モウ御實驗爲サレテ居ルコトト承知シテ居ル、殊ニ吾々中産階級ノ者ガ、期限ガ來タガ之ヲ返サナイ、又期限ガ來ナクテモ、利息ガ滯ッタカラ、サア抵當證券ニスルカラ、ソレニ同意セヨト言ハレ、バ、借リテ居ル人ハ、厭デモ應デモ之ニ應ジナケレバナラヌ、サウスルト此現在借リテ居ル五十億、六十億ノ金ノ整理ノ爲ニ、此法案ガ生レタト云フヤウナコトニナルノデアリマス、私ハソレガイケナイト思フ、今日以後借リル人ガ非常ニ此法ガ出來マスルト云フト便利デアル、詰リ圓滑ニ行キマサルカラ、マア貸ス方モ安心シテ貸セルト云フコトハ、此點ニ付テハ私ハ賛成致シマスルガ、既往ノ貸借關係ニ付テハ、非常ナル憂慮ヲ抱ク者ガ澤山アルノデハナカラウカト思フノデアリマス、デアリマスカラ之ニ條項ヲ付ケタカラ、債務者ニ非常ニ有利ナ條件ダト言ハレマスルガ、有利ナ條件デモ何デモナイ、今日以前ニ約束シタコトヲ其儘履行スルノデアアル、是ハ當然ノコトデアアル、今日以前ニ抵當權ヲ設定シテ居ルモノニ對シテ遡及スルコトガ出來ナイト云フノハ、債務者ヲ擁護スルノデモ何デモナイ、當リ前ノコトデアアルト私ハ思フノデアアル、デスウ云フヤウナ意味カラ、是ハ政府ニ於カレテモ、銀行ノミニ便利ヲ圖ラナイデ、債務者ニ對シテモ、ソレ位ノ條項ハドウシテモ私ハ付ケル義務ガアルト思フノデアリマス、現在ノ中産階級ノ此苦シデ居ル狀態ヲ見マスレバ……デアリマスルカラ大藏大臣ガ、決シテ債務者ニバカリ最良ニナルト云フヤウナ條項デハ私ハナイト思フ、今日マデ契約シテ來タモノデアアル、左様ナコトガナイデ契約シテ來タ此抵當權ニ對シテ、サウシテ請求サルレバ、之ニ同意シナケレバナラヌ、ト云フヤウナ狀況ニ立至ルト云フコトハ、私ハ非常ニ不安ヲ感ジマスルカラ、此邊ハ質問デナクシテ、政府ニモ是非御一考ヲ願ヒタイ、是ハ意見ニナリマスカラ……吾々ハ其希望ヲ持ッテ居リマスルガ、其時ニハ何トカ

一ツ政府ノ方ニ於テモ十分ナル御考ヲ願ッテ、何等カ緩和出來ル方法ガアリマサルナラバ、其方法ヲ御攻究ヲ願ヒタイト私ハ思フノデアリマス

○名川委員 一寸席ヲ外シテ居リマシタカラ或ハ質問ガアツタカモ知レマセヌガ、金解禁後ハ非常ニ金ノ價值ガ上リマシテ、現在ニ於テハ借金シテ居ル者ガ一番困ッテ居ル、即チ安イ金ヲ借りテ高イ金ヲ拂ハナケレバナラヌト云フ狀況ニナッテ居ルノデアリマス、殊ニ此都會地ニ於ケル家作持、即チ家賃ニ依ッテ食フテ居ル人ハ、何レモ此建物ヲ抵當ニシテ居ル、先ヅ五棟カ六棟ノ家ヲ建テ、ソレヲ人ニ貸シテ、敷金デ相當ノ金ヲ受取ル、其上ニ其建物ヲ他ニ擔保トシテ金ヲ借りテ、其金デ又更ニ家ヲ幾棟カ建テル、其建物ヲ又擔保ニシテ借りテ、其敷金ヲ取ッテ又建物ヲ建テルト云フヤウニ致シマシテ、家作持ト云フモノハ非常ニ今日デハ借金ヲシテ居ル、又震災後ノ復興建築ニ付キマシテモ、助成會社其他ノ金融會社又ハ銀行ヨリ、復興建築——其建物ヲ擔保ト致シテ何レモ借金ヲ致シテ居ル、殊ニ「ビルディング」ナドヲ建テテ居ル者ハ多大ノ借金ヲ負ウテ居リマシテ、ソレハ何レモ家賃ニ依ッテ其債務ヲ拂フト云フ目算ヲ付ケテ今日ヤッテ居ル、所ガ今日ニ於テハ家賃ト云フ

モノハ殆ド入ラヌト云ウテ宜シイ、私ハ辯護士ヲシテ日々裁判所ニ出入リヲシ、調停裁判所ヘ行キマスガ、調停裁判所ナドヘ行ッテモ、家賃ヲ拂ウテ居ルカ、拂ッテ居ル、ソレハ奇特ナ話ダ、サウ云フ人ナラ、サウ云フコトヲ言ハズニ何デモ借家人ノ言フ通りニ聽イテヤレト云フコトデ、家賃ヲ拂フト云フコトハ非常ナ奇特ナコトデアアルカノ如ク、裁判所デモ認メテ居ラレル、サウ云フヤウニ家賃ト云フモノハ今日入ラナイ、家賃ガ入リマセヌカラ、隨ッテ此借金ノ利息モ拂フコトガ出來ズ、元金ハ固ヨリ拂フコトガ出來ヌト云フヤウナ狀況デ苦シデ居ル、一面ニ今申上來テ、安イ金ヲ借りテ、高イ金ヲ拂ハナケレバナラヌト云フヤウナ狀況ニアナルデアリマスカラ、現今ノ財界ノ狀況カラ言フタナラバ、借金ヲ今拂フト云フコトハ一番苦痛ナノデアアル、隨テ社會ノ輿論ニ於テモ、此際ニ於テハ、裁判所ナドニ於テモ成ベク此貸金ナドノ請求訴訟ハ進メヌヤウニシテ、成ベクユッタリ裁判ヲシテヤルト云フコトガ相當デアアル、或ハ借金ノ三割引トカ五割引トカト云フコトニシテヤルノガ最モ公平デアアルト云フヤウニ、世論ガ沸立ッテ居ルト云フ現今ノ狀況デアリマス、所ガ本法案ニ依ッテ見マスルト、

云フ。此抵當證券ヲ發行シタ時ニ於テハ、此抵當權ノ實行ニ付テ非常ニ嚴格ナル規定ガアリマシテ、是ハマア債權者ニ取ッテ鬼ニ金棒デアル、利息ガ拂ヘナイデ、二年經テバ、當然期限ガ到來シタモノトスル、期限ガ到來シタナラバ三箇月内ニ必ズ抵當權ヲ實行スル義務ヲ負ハシテアル、幾ラ延バシテ呉レト言ッテモ、法律デ斯ウナッテ居ルカラ自分ガ債權者トシテ非常ニ不利益ヲ受

ル所ノ滌除ノ規定ヲ全然排除シテシマル
 ウテ、土地建物等ノ不動産ノ流通ヲ非
 常ニムヅカシクスルト云フヤウナコト
 ヲ爲サレルト云フコトハ、一部金融業
 者ノ爲ニハ利益カモ知レマセヌケレド
 モ、一般ノ社會觀念カラ見ルト云フト、
 債務者トシテハ非常ニ不利益デアルト
 思フノデアリマスガ、其點ニ付テ大藏
 大臣ハドウ云フ御考ヲナサツテ御出ニ
 ナリマスカ

價格ガ下ツタ爲ニソレヲ返スコトガ出
來ズニ居ルト云フ例ヲ取リマシテ、今
後其人ガ抵當證券ヲ發行スルコトニ承
諾ヲシタ場合ニハ、甲ト乙トノ間デアッ
タラバ、多少從來ノ關係モアリ人情味
モアルガ、ソレガ第三者ノ手ニ渡レバ、
其點ガ餘程ナクナル、ソレダカラ非常
ニ酷デハナイカ、斯ウ言ハレマスコト
ハ其通りナ場合モアラウト思ヒマス、
併シ一方ニハ、手形ヲ考ヘテ見マシテ

屋代カント云フモノハ殆ド呉レヌサウ
デアリマス、サウ云フヤウナ次第デア
テ、家賃モ今申シマス通りニ呉レナイ
ノデアリマスカラ、利息モ拂フコトガ
出来ナイ、元金ハ無論拂ヘナイノデア
リマス、之ヲ延バシテ呉レト言ヘバ、債
權者ノ方カラ、抵當證券デモ發行スレ
バ延シテヤラウガ、ソレデナケレバ自
分ノ體ニ火ガ付イテ居ルト云フコトヲ
以テ責メラレ、バ、ドウシテモ抵當證

ケル法律ニナツテ居ルノデアリマスカラ、御氣ノ毒デアルケレドモ、抵當權ヲ實行シナケレバナラヌト云フヤウニナリマシテ、此抵當證券ト云フモノヲ發行スルト云フコトニナリマシタナラバ、現今ノ債務者ハ非常ニ困ルコトニナツテ來ルト思フ、隨テ祖先傳來ノ自分ノ店舗ヲ失ヒ、或ハ數十年數百年住ミ馴レテ居ル所ノ土地ヲ人ニ取ラレ、又ハ借地シテ其處ニ漸ク家ヲ建テタニ拘ラズ、其家ヲ明渡シテ立退カナケレ

○井上國務大臣 名川君ノ言ハレルヤ
ウニ、何ト申シマスカ、無理ガアルカ
ラ、物ハ色々ノ觀察モアラウト思ヒマ
スガ、先刻カラ度々説明致シマシタヤ
ウニ、日本全國ヲ見渡シマス、今日
ハ不動産ニ固定セシメテ、其融通ニ困
テ居ルト、斯ウ云フノガ銀行業者、金
貸業者ノ今日ノ状態デアル、随テ不動
産ノ所有ガ金ヲ借りントシテモ、人ガ
貸シテ呉レス、斯ウ云フコトガ今日ノ
最モ缺點デハナイカト云フコトカラシ

モ、融通ヲ便利ニスルト云フコトニハ
ドウシテモサウ云フ事ハ伴フコトデア
リマシテ、是マデノ所謂不動産貸付ニ
對シテ多少ノ融通性ヲ與ヘヨウト云フ
コトニナルト、只今例ニ舉ゲラレタヤ
ウナ事ハ、ドウモ已ムヲ得ナイ例デア
ラウト考ヘテ居リマス、其場合ニ貸シ
タ人ト借りタ人が、左様ナ事ヲセスト
云フコトニナレバ大變結構デアリマス
ガ、ヤッタト云フ場合ニナレバ、名川君
ノ想像サレテ居ルヤウナ事ハ當然出テ

券ヲ發行シナケレバナラヌノデアリマ
スカラ、發行シタ時ニハ、今言フ通り
ニ苦ンデ居ル時ニ、無理ヤリニ責メラ
レル、ソレニ好イ口實ヲ與ヘルヤウナ
法律ヲ作ラレルト云フコトハ、將來ノ
債權ニ付テハ兎モ角モ、現在ノモノニ
對シテハ、私ハ非常ニ債務者トシテ不
利益ナ事デアラウト思フノデアリマ
ス、是ハ法律ト云フモノハ、時代々々
ニ依ッテ——債權者ヲ保護スベキ時代
モアリマセウガ、時代々々ニ依ッテ、又

バナラヌ、又多クノ家作モ全部人手ニ渡サナケレバナラヌト云フヤウナ非常ナ不利益——慘メナル結果ヲ來スコトトナルト思フノデアリ、マスカラシテ、斯ウ云フ、今日ノ財界ノ時ニ於テ斯ウ云フ法案ヲ出サレテ、サウシテ是等ノ債務者ニ對シテ、非常ナ不利益ナル、而モ嚴重ニ督促ノ出來ルヤウナ、又一面ニ於テ債務者ノ方ニ有利ナ規定デア

テ、之ヲ持ッテ參リマシタノデアリマ
ス、ソレナラバ現在借リテ居ル金ハド
ウスルカト云フコトニナリマスト、當
然抵當權ヲ持ッテ居ル人ハ、抵當證券ニ
シ得ル譯デハナイノデアッテ即チ、抵當
證券ニスル、セヌト云フコトハ、債務
者ノハッキリシタ承諾ヲ要スル、斯ウ云
フコトニシテアリマス、只今例ニ出サ
レタヤウニ、茲ニ金ヲ借リテ居ッテ擔保

參ラウト思ッテ居リマス
○名川委員 ソレ以上ハ意見ノ相違ニ
ナリマスガ、今大崎君カラモ言ハレマ
シタ通り、債務者ノ承諾ガナケレバ抵
當證券ハ發行セスコトニナッテ、居ルト
申シマシテモ、今日ニ於テハ「ビルヂ
ング」ナドニ付テモ——「ビルヂング」
協會ト云フモノガ東京ニアリマシテ、
ソレ等ノ人ノ話ヲ聞イテ見ルノニ、部

進化シテ行カナケレバナラヌモノデア
リマス、今日ハ必ズシモ債權者ダケヲ
保護スベキ時代デハナイ、債務者ニ付
テモ十分ニ保護シナケレバナラヌ、世
態ガサウナッテ居ル、又經濟界ノ事情ガ
サウナッテ居ルヤウナ次第デゴザイマ
スカラ、現在ノ斯ウ云フヤウナ債務ニ
對シテハ、或ハ抵當證券法ヲ適用セヌ、
是カラノモノニミ適用スルトカ云フ

ヤウナ方法ニ依ッテデモ、ソコニ裕リハ
附カヌモノデアルカドウカ、ソレニ付
テドウ云フ考ヲ持タレテ居ルカ、承リ
タイ

○井上國務大臣 ソレハ色々ノ場合ガ
アリマセウガ、吾々ガ研究シタ所デハ
斯ウ考ヘテ居リマシタ、期限ガ來テ借
換ヲスル、其時ノ必ズ債權者ガサウ云
フコトヲ要求スルダラウ、併ナガラ期
限モ到來セズ、何等ノ變更モナイ場合
ニ左様ナコトヲ申出シテモ、債務者ハ
賛成シマイ、斯ウ云フコトヲ考ヘテ居
リマシタ、即チ對抗シタ場合ニハ……
併シオ互ニ、金ヲ貸シテ居ル、之ヲ何
處カノ銀行ヘ持ッテ行ッテ、融通ヲ仰ガ
ウト思フカラ賛成シテ吳レト言ッテ
協議致シマス場合ハ是ハ別問題デアリ
マスガ、對抗シテ嫌ヤダトカ、ヤレト
カ云フ場合ハ、必ズ左様ナ場合ニハ贊
成ヲセヌダラウ、斯ウ吾々ハ考ヘテ居
リマシタ

○名川委員 其點デアリマスガ、今大
藏大臣ガ期限ガ來タラ云々ト仰セラレ
マスガ、此不動産抵當ノ大口ノモノハ、
大抵十年賦トカ、二十年賦ニナッテ居リ
マス、勸業銀行或ハ農工銀行其他不動
產擔保ヲ目的トスル他ノ銀行ニ於テ
モ、大抵短クテ五年、十年、二十年ト
云フヤウニ、年賦ニナッテ居リマシテ、
年賦金ヲ一年デモ怠レバ、直チニ全部

ノ期限ガ來ルト云フ取極ニナッテ居ル
ノデアリマスカラシテ、殆ドモウ今日
ノ不動産金融ノ大口ノモノニ付テハ、
直チニ期限ガ來ルト云フヤウナ狀況ニ
ナッテ來ルノデアリマス、ソレデ期限ガ
來ルト云フト、債權者カラ債務者ハ窘
メラレル、拂ハウニモ事實ニ於テモ今
日ハ拂ヘナイ、然ルニ斯ウ云フ金棒ヲ
其赤鬼青鬼ニ持タスト云フコトハ(笑
聲)決シテ財界ノ救済ノ爲ニ善イコト
デナイ、私ハサウ思フ、ソレダケ申上
ゲテ置キマス

○中田委員 大藏大臣ニ一點ダケ御伺
申上ゲタイノデスガ、是ハ私共ノ意見
デアリマス、政府トハ意見ガ違フ點デ
アリマセウガ、此證券法案ニ依ッテ差當
リ利益ヲ受ケル者ハ金融業者デアッテ、
假ニ私ガ不動産デ金ヲ借りテ居ルト致
シマシテモ、此證券法ニ依ッテ證券ヲ出
スコトヲ特約スルトカ、或ハ承諾スルト
云フコトハ必ズシナイダラウト思フノ
デアリマス、自分ガ眺メタ場合ニ……
サウシマスト此抵當證券法ガ出來マシ
タ後ニ、現在ノ多數ノ抵當義務者ガ證
券ヲ出スコトヲ承諾スルカト云フト、
是ハ恐ラクセヌダラウト私ハ考ヘテ居
ル、サウシテドウ云フ者ガ此證券法ノ
公布サレタ場合ニ都合ガ好クナルカト
云フト、不動産ニ金ヲ出シテ最モ困ッテ
居ル金融業者ト云フモノニナッテ參リ

○井上國務大臣 其金融業者ノ中デモ、債務者ノ
方デハ承知セスト云フコトニナリマス
ト、勢ヒ證券法ノ適用ヲ受ケルコトハ
出來マセヌカラ、私共眺メタ所ニ依リ
マス、之ニ依ッテ利益ヲ受ケルダラウ
ト思フノハ、昨日デアリマシタカ大久
保サンカラ御答ガアリマシタガ、ヤハ
リ特融法ニ依ッテ日本銀行カラ融通ヲ
受ケタ所ノ銀行ナドガ、最モ此證券法
ノ適用ヲシテ貰フニ都合ガ好イ位置ニ
アリハセヌカノヤウニ考ヘラレルノデ
アリマス、ドウモサウ云フヤウナ結果
ニナリハセヌカト云フコトニ付テ、私
共事情ガ能ク分リマセヌカラ、大臣カ
ラ御答ヲ願ッテ置キタイト思フノデア
リマス

○井上國務大臣 一寸今ノ御話ハ理解
致シマセヌガ、ドウ云フ譯デ特別融通
ヲ受ケテ居ル銀行ガ、此抵當證券法ニ
依ッテ人並勝レタ便宜ヲ受ケル譯ニナ
リマセウカ

○中田委員 不動産ヲ擔保ニシテ日本
銀行カラ金ヲ借りテ居リマス銀行ガ、
其肩替リヲスル場合ニ、農工銀行、勸
業銀行等ノ餘力ヲ利用シテ、日本銀行
カラ肩替ヲスルコトガ出來ルヤウニナ
リハセヌカ、斯ウ云フコトヲ心配スル、
サウ云フコトニ利用サレハセヌカト云
フコトノ心配デス

○井上國務大臣 ソレモアリマセウ、
ケレドモ全國ノ不動産金融ニ比較シテ
見タラバ、ホンノ大滄ノ一票デアリマ
シテ、非常ニ僅カナモノデアリマス、
サウシテアノ不動産ト云フモノニハ種
種ノモノガ入ッテ居リマシテ、打開ケテ
御話致シマス、之ヲ研究スル場合ニ、
全ク題目トシテ研究シタコトモナイ位
デアリマスガ、併シ今御説ヲ承ッテ見マ
スト、サウ云フコトモ便宜ヲ得マセ
ウ、併シサウ云フ狭イ範圍ニ考ヘテハ
居リマセヌガ、併シ中田君ノ御尋モア
ルシ、名川君ノ御説モアリマスガ、銀
行ガ今ノヤウナ無理ヲシテ、マジイ債
權ヲ抵當證券ニシタシテ、サウシテ
競賣ヲシマス、全部自分ガ追求サレテ
責任ヲ持ツノデスガ、サウ云フコトニ
ナリマスカラ、サウ無暗ニ債務者ヲ虐
メテ、サウシテ競賣ヲヤラシテ見タ所
デ、今度ハ自分ガ總テ追求サレテ責任
ヲ脊負フ譯デス、是マデズト貸シテ居
ルノナラソレ便宜シイガ、一遍抵當證
券ニシテ相當ナル價格デ他人ニ譲リ、
競賣ヲ他人ガスレバ、自分ガ直グ追求
サレル譯デス、サウ云フ譯デスカラ見
方ニ依ッテハ左程酷ナ——左程心配セ
ヌデモ宜クハナイカト吾々ハ考ヘテ居
ルノデアリマス

○中田委員 私ノ承リタイト思ヒマシ
タコトハ、成程此證券ノ精神カラ申シ
マス、永久ニ互ル問題デアリマスガ、

差當リ特融ナド、云フ問題デハアリマセスガ、併シ先程承ル所ニ依リマス、二銀行ノ貸出餘力ト云フモノハ十二三億圓殖エルダケニ過ギナイト云フノデアリマスカラ、勸業銀行或ハ農工銀行ノ貸出餘力ヲ當テニスルモノ、中デ、日本銀行ニ對スル特融ノ支拂ヲスル、資金ノ肩替ヲスルト言ッタヤウナ場合ニハ、差當リ少クトモ六億圓位ノモノガ之ニ向ケラレルヤウニ思ヒマスガ、ソレデスカラ餘リ少サナ問題デモナササウニ考ヘルノデアリマス、其點ヲ豫メ承ッテ置キタイト思ヒマス

○井上國務大臣 只今ノ中田君ノ仰シヤルコトハ、吾々ハソコノ所ハ實際ノ運用ハ大分違ヒマス、最後ニ勸業銀行、農工銀行ニ持ッテ來テ金ヲ實際借リルノモアリマセウ、併シナガラ借リナクテモ、何時デモ借リ得ル證券ナラバ金ヲ貸シテ置イテモ宜シイト云フコトガ、多クノ場合ニ多イノデアリマス、公債ガ日本ニ四十億アリマシテ、日本銀行ハ無制限ニアレニ金ヲ貸シマスケレドモ、決シテ借リニハ來ナイ、併ナガラ公債ガアレバ、日本銀行デ無制限デ貸シテ呉レルト云フ所デ、公債ノ價格モ維持ガ出來ル、他ノ銀行ガ金ヲ貸スダラウ、田舎ノ銀行ガ必ズシモ勸業銀行ニ持ッテ來ズトモ、都會ノ銀行ニ持ッテ來テモ、此割合ナラ勸業銀行ニ

持ッテ行ケバ何時デモ金ヲ貸シテ呉レル、何ゾ必ズシモ勸業銀行ニ借リニ行カナクテモ濟ム、所謂融通性ノアル證券ヲ持ッテ居ルカ、融通性ノナイモノヲ持ッテ居ルカト云フ區別ニ依ッテ、非常ニ違ッテ來マスカラ、ソコガ不動産金融ガ便利ニナル所デアル、斯ウ考ヘテ居リマス、資力ナシニ勸業銀行ガ貸サウト言ッテモ、ソレハ虛勢ニナル、債券ノ發行額ヲ殖ヤシテ、貸サウト思ヘバ貸セラレルガ、其中ノ何分ノ一カラ貸シテ置ケバ宜シイト云フノガ財界ノ實狀ダト吾々ハ考ヘテ居リマス

○板谷委員 此問題ニ關聯シテ簡單ニ一言ダケ申上ゲマス、今色々質問應答ヲ承ッテ見マスルト云フト、要スルニ抵當證券ノ利用ハ、例ヘバ從來銀行ガ不動産ニ對シテ貸付ヲシテ居ッダ、而シテ銀行ハ金ヲ貸スノガ商賣デアリマスルカラ、確實デアッテ、此債權ハ確ニ取リ得ルトカ、又利子モ必ズ拂フダラウト云フヤウナ者ニ對シテハ、勿論他ヘ融通スル譯ガナイ、併ナガラ財界ガ非常ニ混亂シマシテ、一時ニ取付デモアツテ、金ガ必要ガアル場合ニハ自分ガ取ツテ居ル所ノ抵當證券ヲ發行シテ、其上ノ銀行ヘ持ッテ行ク、斯ウ云フ便利モアリマスケレドモ、個人ノ關係カラ考ヘテ見マスルト、アナタハ廣ク個人ニモ應用サレルト云フヤウナ御話デアリマ

スケレドモ、大體金ヲ貸セル者ハ、相當ノ餘力ガアツテ貸セル者ガ多イ、サウナツテ來マスト、確ニ此債權ハ取立テ得ル利子モ満足ニ入ルモノデアルト云フナラバ、必ズ自分ガ握ッテ居ル、ダカラ結論トシテハ割合ニ確實ナルモノハ世間ニ出ナイデ、不良ナル債權ガ出ルヤウナ結果ニナリヤシナイカ、斯ウ私ハ考ヘラレルノデアリマスガ、ソレハドウデセウ

○井上國務大臣 ソレハ恐ラクアナタノ一種ノ推察デス、實際ノ事情ハサウヂヤアリマセス、例ヘバ是ハ例ヲ私ガ取りマス、私ノ過去ノ經驗カラ色々ノ例ガ出テ來マスガ、普通ノ銀行ガ日本銀行ノ手形ヲ持ッテ居ル、恐ラクハ千萬、千五百萬圓ノ手形ヲ持ッテ居ッテモ、日本銀行ニ割引ニ行ク者ハ最上等ノモノバカリヲ持ッテ行ク(板谷委員)個人ノ場合ハ「ト呼ブ」個人ノ場合ヲ言ハレマスガ——此抵當證券ヲ頻ニ個人ト言ハレマスガ、個人ノ高利貸ガ甲ノ個人ガ乙ニ貸スト云フコトハアリマセウガ、抵當證券ハ玆ニ餘程旨味ガアル所デアリマス、銀行ガ個人ニ金ヲ貸シマス、サウシテ抵當證券ヲ發行シマス、ソレヲ他ノ銀行ニ賣ルナリ、個人ニ賣リマス、サウスルト擔保人ハ、他ノ銀行ノソコニ一ツノ信用ガ出テ來ル、ソコニ非常ナル抵當證券ノ旨味ノアル所

デアラウト思ヒマス、外國ノ例デ申シマス——私ハ麻布ニ住ンデ居リマシガ、例ヘバ麻布ノ何處カニ分讓地ナラ分讓地ガアル、ソレヲ一ツノ抵當證券ニシテ見マス、麻布ノ何町ノ何番地ノ地所ダアレガ千坪アル、アノ坪ナラ二百圓、今ソレニ金ヲ百圓貸シテ置クナラバ安全ダ、斯ウ云フコトハ麻布區ニ住ンデ居ル人間ナラ大抵能ク分ル譯デス、デスカラ自分ノ住居地ノ隣接地ニアル不動産ノ抵當證券ノ如キハ、外國デハ最モ賣レガ宜イノデアリマス、外國デハ信託會社ナリ、銀行ガ擔保ニ取ッテ、サウシテソレニ對シテ證券ヲ出ス、サウスルト云フト先ヅ銀行ノ定期預金トスルヨリハ、又譯ノ分ラヌ株券ヨリハ非常ニ宜シイ、彼處ノ不動産ナラバ立派ニ抵當證券ニナッテ居ルカラ、アレナラ百圓貸シテ置ケバ大丈夫ダト云フヤウナコトハ常ニ行ハレテ居ルノデアリマス、ソコノ所ニ旨味ガアリマスカラ、アナタノヤウニ惡イ方バカリ御推察サレンデモ、好イ側ノ方ヲ觀察サレテモ宜イデハナイカト思ヒマス

○荒川委員長 ソレデハ大藏大臣ニ對スル質問ハ此程度ニ止メテ置キマシテ、逐條審議ニ移リマス、抵當證券法案第一條カラ第四條マデニ質疑ハアリマセヌカ

○篠原委員 此抵當權ガ根抵當ノトキ

ハ出來ナイノデスカ

○長島政府委員 御承知ノヤウニ、根
抵當ノトキニハ旨ク債權額ガ定ッテ居
リマセスカラシテ、根抵當ニ基イテ、
一定ノ債權ノ確定シタモノニ抵當權ガ
出來テカラデナケレバ抵當證券ガ出シ
惡イ、即チ根抵當ノ登記アル場合ダケ
ノコトヲ言ッテ居リマスガ、根抵當ニ基
イテ特定ノ債權ガ出來ル、抵當權ガ設
定サレ、バ無論出來ルノデスカ

○篠原委員 此抵當證券ノ大體ノ本質

ノヤウナモノヲ少シ承リタイト思ヒマ
ス、從來抵當權ハ從タル物權ト稱セラ
レテ居ル、即チ債權ガ存在シナケレバ
設定ガ出來ナイト、斯ウ云フ風ニ論ゼ
ラレテ居ッタノガ、大體取引ノ必要上、
斯ウ云フ風ニ抵當權ト云フモノガ、債
務ト一種ノ分離狀態ヲ以テ發生スルヤ
ウニナッテ來タト云フコトガ、取引ノ實
際上抵當權ノ獨立性、擔保物權ノ獨立
性ト云フモノヲ論ズル學說ガ出來テ來
タ理由デハナイカト思フ、實際ノ必要
カラ言ヘバ、抵當權ト云フモノハ寧ロ
「ヒポテークン、ブリーフ」見タイナモ
「ヒポテークン、ブリーフ」見タイナモ
ノヲ最初ニ認メテ、其「ブリーフ」ヲ賣
ルト云フ觀念ノ方ガ最近ニ發達シテ來
タ、此債權ニ抵當權ヲ附ケテ、所謂債
權ノ讓渡ノ方ノ觀念デ行クト云フコト
ガ發達シテ來タヤウニ思フノデアリマ

ス、寧ロ此根抵當ノヤウナ場合ニ於テ、

吾々ノ必要カラ言ヘバ、債務ガ存シテ、
金ガ一萬圓要ルカラ抵當權一萬圓ヲ附
ケルト云フモノデナク、抵當權ト云フ
モノヲ先ニ拵ヘテ、此抵當權ヲ幾ラ幾
ラ貸シテ與レルト云フコトニスレバ、
寧ロ取引ノ安全、取引ノ迅速ヲ期スル
上ニ於テ、抵當權ガ獨立シテ居ル方ガ
宜イノヂヤナイカ、所謂金ヲ借リル爲
ニ、先ヅ抵當權ヲ設定シテ置イテ、ソ
レヲ持ッテ行ッテ賣ル、早晚銀行業其他
ノ金融者ニ抵當證券ト云フモノモ賣買
ガ認メラレル、銀行ハ業務トシテモ認
メラレル、抵當證券ト云フモノ、獨立
性モ認メラレル、ソコマデ行ッタナラ
バ、吾々ノ——農家ノ生活ミタヤウナ
モノヲ申上ゲルコトモドウカト思ヒマ
スガ、斯ウ云フコトニナレバ、春ニ金
ヲ借リテモ、秋ニナッテ米ガ取レタ時ニ
ハ返セル、幾ラ幾ラノ債務ニ付テ抵當
權ヲ設定シテ、勸業銀行ヤ農工銀行カ
ラ金ヲ借リルト云フコトヨリモ、寧ロ
「ヒポテークン、ブリーフ」ヲ持ッテ行ッ
テ、幾ラ幾ラ金ガ要ルト言ッテ金ヲ借
リテ來テ、秋ニナッテ金ガ出來タナラ
バ、又此抵當證券ヲ買戻シニ行クト云
フ方ガ、農家ナンカノ實際ノ狀態ニ當
テ居ルノヂヤナイカ、不動産銀行カラ
金ヲ借リルト云フコトニナッテモ、五箇
年以内ノ定期償還トカ、十箇年賦償

還トカ、——前カラ、金ヲ借リルニ便

利ニナルト云フ御説明モゴザイマシタ
ガ、吾々農家ニ生レタ者ノ身ニナッテ
見ルト、不動産銀行カラ金ヲ借リタ場
合ニハ、ソレヲ長期ニ互ッテ常ニ債務ヲ
負擔スルト云フ狀態デアルカラ——又
サウシナイト不動産銀行ハ營業ガ出來
ナイガ——サウ云フ狀態デアルカラ、
無理ニデモ、普通ノ商業銀行ヘ行クト
カ、或ハ惡イ條件ノ高利貸トカ、普通
ノ金貸ニ行クト云フヤウナコトニナッ
テ金ヲ借リテ來ル、其結果金利ガ高ク
ナッテ、農家ノ負擔ト云フモノガ非常ニ
重クナッテ來ルヤウニ私共ハ感ズルノ
デアリマス、尤モ私共ハ、サウ金ヲ借
リルコトニ詳シクナイカラ、或ハ是ハ
當ラナイカモ知レマセヌガ、實際ノ取
引ノ安全、或ハ迅速ヲ期スル上ニ於テ
ハ、寧ロ根抵當ノ方ニ設定シタ方ガ宜
イノヂヤナイカ、日本ノ民法ノ解釋ト
シテハ、根抵當ニ對シテハ、或ハ相當
強イ議論ガアリマセウ、相當強イ議論
ガアリマセウガ、今ノ獨逸ニアアルヤウ
ナ、未來ノ條件付債權ト云フヤウナモ
ノニ對スル議論ハ、日本ノ民法ノ條文
トシテハドウ云フ解釋ニナッテ居リマ
スカ、——ドウモサウ云フ風ニシナケ
レバ、現在根抵當ト云フモノヲヤッテ
居ルノデアアルガ、其根抵當ト云フモノ
ヲヤッテ居ルコトヲ理窟附ケル議論ト

云フモノハ出テ來ヌト思フノデアリマ

ス、ソコデ寧ロ根抵當ノ時ニ之ヲ認メ
テ貰ヘバ、金ノ取引ト云フモノハ、後
デ餘計ノ金ヲ借リナクテモ宜イト云フ
結果ニナルシ、或ハ是ハ御質問ヲ別ニ
申上ゲタ方ガ宜イカモ知リマセヌガ、
抵當證券者ニ一番最初ノ債務者ニ——
抵當證券ガ歸ッテ來タ時分ニハ、マダ抵
當證券ハ生キテ居ルダラウト思フ、本
當ノ債券ノ議論カラ行ッタナラバ、第一
同ノ債務ヲシテ抵當權ヲ設定シタ、債
務者ノ方カラ言ヘバ、其證券ガグルグ
ル廻ッテ、一番最初ノ債務者ニ歸ッテ來
タ場合ニハ、其證券ハ恐ラク、混同シ
テ仕舞ウダラウト思フ、サウ云フ時分
デモモウ一遍外ニ持ッテ行ッテ譲リ渡セ
ルト云フ結果ニナルナラバ、一面ニ於
テヤハリ抵當權ノ獨立ト云フヤウナモ
ノヲ認メテヤル結果ニナリハシナイ
カ、此二條デハ抵當權ガ根抵當デ未來
ノ債權ノ爲ニ設定サレルト云フヤウナ
議論ニナルノデアリマス、是ハ吾々ガ
書生ノ時ニ教ハッタ議論ニナルカモ知
レヌガ、今ノ司法省デハモット發達シ
テ理窟ガ旨クナッテ居ルカモ知リマセ
ヌガ、現實ニ於テ多少今ノ成文法ノ解
釋カラ行ケバ、或ハサウナルカト思フ、
吾々ハ一般ノ商人ナンカノ事ハ存ジマ
セヌ、存ジマセヌケレドモ、農家ノ身ニ
ナッテ見ルト、根抵當ト云フヤウナモノ

ガ有リ得ル方ガ非常ニ金融上便利デア
ル、又商人ノ身ニナツテモ、當座貸越契
約ト云ツタヤウナモノガ設定サレト、
根抵當ト云フヤウナモノガ常ニ生キテ
居ツテ、銀行ニ持ッテ行ッテ賣ッたり買ッ
タリスルコトガ出來得ルモノナラバ、此
貸越契約ヲ始終ヤツテ、多額ヲ借りタ場
合ハ別デアリマスガ、要ルダケノ金ナ
ラバ、其儘普通ノヤウニ借りテ來テ融
通ガ付ク、斯ウ云フヤウナコトニナル
ト思フ、是ハ或ハ大藏省ノ方ノ御考ト
司法省ノ方ノ考トドウ違フカ知リマセ
セヌガ、實際ノ金融ノ必要ヲ充ス上ニ
於テハ、寧ロ相當のニヤルト云フカ、
或ハサウデナシニ、抵當權自身ガ獨立
性ヲ以テ、抵當權ガ債務ガナイ場合ニ
於テモ、成立シテ居ル方ガ宜イノデハ
ナイカ、抵當證券デ金ヲ借りテ來マシ
テ、元本ヲ返シテ仕舞フ、其元本ヲ返
シタ場合ニモ、其抵當證券ガ生キテ居
レバ、モウ一遍ソレデ面倒ナ手數ヲ掛
ケナクテモ借りラレル、一度毎ニ抹消
登記ヲスルト、又同ジ手數ヲ繰返シテ
行クヤウニナリハセヌカト思ヒマス

○長島政府委員 ソレハ成程仰セノヤ
ウニナレバ非常ニ便利ニナリマス、便
利ダト思ヒマスガ、御承知ノヤウニ我
國ガ民法ノ組織ハ、獨逸ノ「ヒポテ
ケン・ブリーフ」ノ事ハ存ジマセヌケレ
ドモ、是ハ歴史的ニモ違ッテ居ルヤウ
デアリマスガ、ソコデ根抵當ニ抵當證
券ヲ發行シヨウト思ヒマシテモ、此組
織ハ所謂抵當權付ノ手形ヲ認メテ居ル
モノデアリマスカラ、其根本ニナル債
權ノ額ガキマラナクテハ、チヨット抵當
權ヲ出シヤウガナイノデアリマス、
債權額ガ何程ダカ分ラナイデ、抵當證
券ヲ出スコトニナルト、與信契約ガ、
抵當證券ヲ受取ッタ者ニ與信契約ガ喰
付ッテ行クヤウナ關係ニナツテ、而シテ
結局根抵當權ヲ讓渡スト云フコトニナ
ル(篠原委員「證券デアルノデス」ト
呼フ)其結果結局裏書ナシニ行ケバ宜
シイデス、裏書ナシニ行クトドウナル
カト云フト、サウナルト殆ド此抵當證
券ノ實益ト云フモノガナクナル(篠原
委員「裏書ナシニ……」ト呼フ)デス
カラ裏書ヲ認メズニハ、ドウシテモ根
抵當デ抵當證券ヲ發行スルト云フコト
ハ不可能デス——御趣旨ハ分ッテ居リ
マスガ根抵當ト云フ言葉デナク、債務
ガナイノニ抵當證券ヲ御出シニナルト
云フ御言葉ダト思ヒマスガ、ソレハ一
寸此組織デハ不能ニナリマス

○篠原委員 債權ノ方ノ書類ト云フモ
ノガ、別ニ添付スベキ書類デアツテ、抵
當權ノ本質デナイ場合ニハヤリ得マス
ネ——債權關係ト云フモノハ別ニ添付
サレテ不可分ニナルノデスネ、ダカラ
勸業銀行ニ持ッテ行ッテ賣買スル場合ニ
ハ、其債權ハ存在シナイ、債權關係ト
云フモノハナイ、唯其證券ヲ買フト云
フコトニナルデセウ、サウ云フコトニ
ナルノデハナイカト思フデスガ……

○長島政府委員 ソレハ相當研究致シ
マシタガ、日本ノ登記ガ公示主義ニナ
ッテ居ルカラ、ソレハ出來ニクイデス

○勝田委員 別ニ第何條ト云フコトデ
ハアリマセヌガ、此邊デ承ルコトガ好
イト思ヒマスカラ伺ヒマス、抵當權ノ
目的デアル地上權ヲ拋棄スルトカ、期
間ヲ短縮致スト云フヤウナ場合ニハ、
地上權者ハドウ云フコトニナリマスカ

○長島政府委員 是ハ一般ノ問題ト思
ヒマスガ、民法ノ第二百九十八條ニ「地
上權又ハ永小作權ヲ抵當ト爲シタル者
カ其權利ヲ拋棄シタルモ之ヲ以テ抵當
權者ニ對抗スルコトヲ得ス」トアリマ
ス是ハ非常ニ根本問題デ、自分ノ學說
ヲ言フヤウデアリマスガ、一般ニ權利
トカ利益ノ拋棄ト云フモノハ、他人ノ
權利利益ヲ害スル場合ニハ出來ナイモ
ノダト云フ風ニ解シテ居リマス、大審
院モサウ云フ判例ヲ個々ノ事件ニ付テ
ハ出シテ居リマス、恐ラクハ事件ニナ
タナラバ、抵當權者ヲ害スル意味ノ地
上權ノ色々ノ制限ヤ何カハ出來ナイコ
トニナルダラウト思ヒマス、尙ホ登記
關係カラ申シマスレバ、登記ハ無論出
來マセヌ、地上權ノ内容ヲ變ヘルコト
ハ、抵當權者ノ同意ガナケレバ出來マ
セヌ、登記ヲ離レテ、實質上ニ拋棄ガ
出來ルカドウカト云フコトハ、私今ノ
ヤウニ考ヘテ居リマス

○勝田委員 第四條ノ關係ダト思ヒマ
スガ、債權額ノ記載ヲ必要ト致シテ居
リマスガ、是ハ無論證券其モノニモ記
載サレルコト、信ジマス、第四條デス
カ、申請書ノ記載事項ガ掲ゲテアリマ
ス、之ニ基イテ證券ガ作ラレルノデア
リマスカラ、當然債權額ハ證券ニ明記
サレルコト、思ヒマス、債權額ノ中ニ
ハ、未收入利息——延滞利息何カハド
ウ云フ風ニ扱ハレマスカ

○長島政府委員 其點ハ今考ヘマセヌ
デシタガ、大體ノ考ハ、登記簿ニ載ッ
テ居ル所ノ債權原本ヲ、ソレヲ載セルト
云フ考デス、ソレデ現在ノ延滞ノモノ
ハ、抵當證券ヲ作ル時ニ計算ヲシテ、
新シク其處デヤリ變ヘルト云フコトニ
ナレバ、是ハ新シク債權ニシテヤルト
云フ考デ、是ハ詰リ御承知ノヤウニ元
本竝ニ其二年分ノ延滞利息ニ抵當權ガ
及ブト云フ關係上、結局ハ此處デ想像
シテ居リマスノハ、サウ云フモノマデ
モ計算ニ入レズシテ、元貸シタ債權ノ
額ヲ書イテ、ソレカラ後ハ年利息ガ幾
ラ、ソレカラ六號ノ不動産登記法ノ第
百十七條ニ掲グル事項、ソレハ書イテ
出シマスガ、延滞額マデ抵當證券ニ負

ハセル、其通りノモノヲ元本ニ繰込シテ負ハセル考ハアリマセス、併ナガラ延滞利息ハ抵當證券ノ實行シ得ル所デアリマスカラ、解釋ニ依リマスカ、併ナガラ證券發行前ノ利息ガ取レルト云フ意味ニ於テ、證券面ニ利息ヲ書クト云フ考ハ持ッテ居ラナカッタノデアリマス

○勝田委員 ソコデ伺ヒタイノデアリマスガ、發行前ニ延滞ニナッテ居ル利息ハドウ云フ風ニナリマスカ

○長島政府委員 ソレハ抵當證券ノ問題ヲ離レテ、債權者債務者間デ以テ請求ハ出來マスガ、抵當證券ニハ脊負ッテ行カナイト云フ風ニ考ヘテ居リマス

○大崎委員 細カイ事デアリマスカ、第二條ノ第三號ノ中ニ、他ノ債權ノ擔保ト爲シタル時ハ發行ガ出來ナイト云フコトニナッテ居リマスカ、此「他ノ債權ノ擔保」ト云フノハドンナ意味デアリマスカ、一寸御説明ヲ願ヒタイ

○長島政府委員 詰リ此抵當付ノ債權ヲ持ッテ居リマス私ナラ私ガ、又外ノ人ニ借金ヲシテ居リマス時ニ、抵當ダケヲ持ッテ行クコトモ出來マスガ、ソレハ非常ニ稀ナ場合デ、抵當ト債權ヲ一緒ニ私ノ借リテ居ル債權ノ質ニ入レル場合ニ於テ、私ガ愈々債務ヲ返済致シマセヌ時ニハ、其債權ガ私ノ持ッテ居ル抵當權デ以テ債權ヲ實行シテ自分ノ債權ノ

辨濟ニ充テル、斯ウ云フコトニナル譯デアリマス、サウ云フ場合ニハ私ガモウ既ニ私ノ貸主ニ擔保ニ入レテ居ルノデアリマスカラ、ソレヲ抵當證券ヲ出シテ外ニ譲ッタ所デ、空ッポモノニナリマスカラ、サウ云フ抵當證券ハ出サセナイト、斯ウ云フ意味デアリマス

○大崎委員 斯ウ云フ場合ハドウナリマスガ、無論登記ト抵當證券ノ發行トハ同ジ日デハナイト思ヒマスカラ、詰リ抵當ノ登記ヲシタ後ニ、第二順位トカ第三順位トカ、ヤハリ抵當權ヲ又他ニ設定シタ場合ニ、是ハ差支ナイデスカ、ドウデスカ

○長島政府委員 ソレハ何デス、此抵當證券ノ出テ居ル、此ノ抵當權ヲ假ニ第一順位ノモノト致シマスカラ、ソレハ登記ガゴザイマスカラ、ソレカラ後ニ第二順位第三順位ノ抵當權ガ出來マシテモ、第一順位ノ抵當權ハ侵サレヌ譯ニナリマス

○大崎委員 アッテモソレハ抵當證券ノ權利ハ實行出來マスカ

○長島政府委員 ソレハ抵當證券ノ權利ハ實行出來マス

○板谷委員 此抵當證券發行ノ特約ト云フコトハ、是ハ絕對ニ優先權ガアル譯デ、將來ニ於テハ債權者ノ同意ガナケレバ絕對ニ取消スコトハ出來ナイト云フコトニナリマスカ

○長島政府委員 其通りデアリマス

○關口委員 私ノハ第四條ノ第四號、是ハ單ニ此條文ノ拵ヘ方ノ體裁ニ關スル問題デアリマスカ「抵當權設定者及第三取得者ノ氏名及住所」斯ウ云フ風ニ併列セラレテ居ルノハドウカ、即チ抵當權ノ設定契約ニハ、債權者債務者、又抵當權ノ設定者ハ、債務者ト同時ニ同一人デアアルコトガアリマスカ、第三取得者ト云フモノハ常ニ存スルモノデハナイト私ハ思フ、デアルカラ是ハ第八號ノ如ク、第三取得者アルトキハ其者ノ氏名住所、ト云フ風ニ、別ニ一號ヲ設ケル方ガ條文ノ體裁トシテ適當デハナカラウカト思フノデアリマス、其點ノ意見ヲ伺ヒタイト思ヒマス

○長島政府委員 御尤モデアリマスカソレハ結局文章ノ工合デアリマシテ、サウ書イテモ少シモ差支アリマセヌデスガ、多クノ場合ニハ斯ウ云フモノニ付テハ別ノ場合ニ舉ゲルヤウナ時ニハ、斯ウ云フ風ナ大體書方ニナッテ居ルノデアリマスカ、ソレデ是ハマア書方ノ慣習ト言ヒマスカ、皆斯ウ云フヤウニ登記法ナンカモ出來テ居リマス

○荒川委員長 第五條第六條ハ證券交付ニ關スル登記官吏ノ取扱規定デアリマスカラ、此二箇條ヲ次ニ御審議ヲ願ヒマス、政府委員ノ御説明ヲ願ヒマス

○長島政府委員 第五條ノ第一項ハ、

是ハ申請書ノ却下ノ規定デアリマシテ、五條ノ各號ニ掲ゲテアルヤウナ事由ガアリマス、詰リ登記官吏ガ此證券ノ交付ノ申請ヲ却下スルコトガ出來ルト云フコトニナッテ居リマス、併ナガラ即日補正ヲスレバ宜シイ、イケンナイト云フコトニナッテ居ルノデアリマシテ是ハ登記ノ申請ノ場合モ同様デアリマス、實際ノ扱ヒハ必ズシモ即日デナクテモ、マア見込ガアレバ翌日マデ待ツコトモアラウト存ジマス、而シテ五條ノ各號ニ掲ゲテアリマスコトハ、極ク大體ヲ申上ゲマス、管轄登記所デナイ所ヘ申請書ヲ出シテ、ソレカラ二條ノ抵當證券ヲ出スベカラザルヤウナモノニ付テ申請ヲシテ居ル、申請書ニ書イテアルコトガ登記簿ト違ッテ居ルト云フヤウナ時、其他ハ大抵御讀ミ下サレバ分ルト思ヒマスカ、サウ云フヤウナ場合ニハ却下致シマス、即チ却下ヲスル事由ガスッカリ法律デ限定サレテ居ル次第デアリマス

第二項ハ此抵當證券ヲ發行サルベキ抵當權ノ目的物ガ、數箇ノ管轄登記所ニ跨ッテ居ル場合デアリマス、其場合ハ一ツノ登記所ニ申請書ヲ出シマシテ、其申請書ノ副本、附屬書面ノ寫等ヲ各數箇ノ登記所ノ數ダケ出シマシテ、其申請書ヲ受取ッタ登記所デハ其登記所

ニ申請書ノ副本附屬書類ヲ全部送ツテ
ヤリマス、送ツテヤッテ各登記所デ各、
獨立シテ抵當證券ヲ作ッテ吳レト云フ
コトヲ頼ムノデアリマス、ソレヲ今度
ハ初メノ申請シタ登記所ノ方ニ纏メ
テ、交付スルト云フ規定ハ後ニアリマ
スガ、其前提的ノ手續デアリマス

ソレカラ六條ハ結局是ハ異議ノ催告
ノ規定デアリマス、抵當證券ノ交付ノ
申請ガアリマス云フト、登記所ハ一
定ノ期間、先ヅ大體是ハ一月位ニナリ
マスガ、抵當權設定者、或ハ債務者ノ
住所等ノ關係デ或ハ縮メ、或ハ長クナ
ルト存ジマスガ、是等詰リ利害關係人
ニ對シテ異議ガアルナラバ、申出セト
云フコトヲ催告致ス次第デアリマス、
第一項ニアリマス通リニ數箇ノ登記所
ノ場合ニハ、其數箇ノ登記所ガ銘々獨
立シテ催告ヲ出スト云フコトニナッテ
居リマス、第二項ハ細カイコトデアリ
マシテ、登記所ダケデ知ッテ居ルベキ
手續ノコトデアリマスカラ申上ゲマセ
ヌ、ソレカラ第三項ノ方ハ其催告ノ中
ニドシナコトヲ書クカト云フコトガア
リマスノデ、ソレハ第四條ノ方ニアリ
マス、四條ノ一號、ソレカラ三號カラ
七號マデノコトヲ書クヤウニナッテ居
リマス、是ハ詰リ是等ノ催告ヲ受ケタ
モノニ、利害ノ關係ガアルコトヲ全部
網羅シテ居ル次第デアリマス、其利害

關係ノアルコトニ付テ異議ガ言ヘルヤ
ウニ致シタノデアリマス、ソレカラ其
次ノ項デアリマスガ、即チ六條ノ末項
ノ規定デアリマスガ、債務者ノ催告ニ
ハ今申シタ催告ノ外ニ第三條第一項第
三號ノ證書ガ、手形デアルトキニハ其
手形デアルトコト、手形デナケレバ、
ナイト云フ記載ガアルト云フコトヲ、
催告ノ中ニ書ケト云フコトニナッテ居
ルノデアリマスガ、是ハ相當重要ナコ
トデアリマスカラ、玆ニ特ニ書イタ次
第デアリマス、ソレハ其抵當證券ヲ發
行サルベキ債權ニ付テ、其手形ガ出テ
居リマス場合ニ、其手形ヲ回收致シマ
セヌデ、抵當證券ヲ出シマス、同ジ
一ツノ債權ニ手形ト抵當證券ト兩方出
ルコトニナリマシテ、債務者ハ二種ノ
債務ヲ負擔シナケレバナラヌヤウナ危
險ガアリマスカラ、是ハ必ズ催告書ニ
ハ手形ガアレバ手形ガアル、手形ガナ
イトキニハ手形ガナイト云フコトヲ申
請人ノ方カラ申出ロト云フコトヲ催告
書ニ書キマス、是ハ債務者ニ手形ガア
レバ、手形ガナイト言ッテ居ルケレド
モ、實際ハアルト云フ異議ヲ言ヘルヤ
ウナ機會ヲ與ヘマシテ、後ノ規定ニ依
リマシテ、其手形ヲ詰リ請求者カラ出
サセルト云フ機會ヲ、與ヘルヤウニ致
シタ次第デアリマス

○勝田委員 第六條ニ催告ヲ受ケル抵
當權者ガ入ッテ居リマセヌガ、入レル方
者ハ一番抵當權者、二番抵當權者、三
番抵當權者モアリマスガ、一番抵當權
者ガ證券ヲ請求スルトキニ、二番抵當
權者、三番抵當權者ニ通知ヲ貰フトカ
云フヤウナコトハ、必要デヤナйкаト
思ヒマスガ……

○長島政府委員 其場合ニハ二番抵當
權者、三番抵當權者ニハ大シテ利害ノ
關係ガナイト見タノデアリマス

○勝田委員 逆ノ場合モサウデスネ

○長島政府委員 逆ノ場合モ大シテ利
害關係ガナイト認メタノデアリマス

○勝田委員 是ハ法律的ニ考ヘルト、
或ハサウ云フコトニナルカモ知レマセ
ヌガ、實際的ニ考ヘルト、ヤハリ通知
ヲ出シタ方ガ宜イノデヤナйкаト思ヒ
マス、斯ウ云フ場合モ想像出來マス、
斯ウ云フ抵當證券ハ言フマデモナク非
常ニ經濟的ニ價值ノアル證券デアリマ
スカラ、其發行ニ對シテハ出來ルダケ
ノ注意ヲシナケレバナラヌト思ヒマ
ス、サウ云フコトニナリマス、抵當
權者ニアラザルモノガ、抵當權者ノヤ
ウナ顔ヲシテ申請シタ場合ガアル、是
ハマアサウ云フコトヲスレバ刑事問題
ガ起キル、起キルコトハ別問題デスガ、
サウ云フヤウナコトヲスル者ガナイト
モ限リマセヌ、所ガ若シ總テノ抵當權

者ニ通知ガ行クト云フコトニナッテ居
レバ、サウ云フヤウナコトニ依ッテ嘘ノ
抵當權者ヲ拵ヘルト云フ憂ハ全然防止
スルコトガ出來ルト云フ間接的ノ效用
モアルヤウニ思フノデス、ダカラ私ハ
ヤハリ一ツノ擔保ニ對シテ一番抵當權
者、二番三番トアッタ場合ニハ、ヤハリ
一緒ニ通知ヲ出シテ、利害關係ヲ持ッテ
居ル者ニ異議ヲ申立テル機會ヲ與ヘル
コトガ親切デハナйка、斯ウ云フ趣旨
デ御伺シマス

○長島政府委員 ソレハ御尤モデアリ
マスガ、其趣旨カラ言ヘバ、成タケ廣
イ人ニ言ッテ、其事實ガ嘘デアルト云フ
コトヲ其利害關係以外ノ者カラモ言ハ
セルヤウニスルト言ヘバ、成程證券發
行ノ方ハ非常ニ確實ニ行キマスケレド
モ、異議ヲ申立テル者ヲ相當ニ限定シ
マセヌト發行ノ際ニ異議ヲ澤山持出サ
レルト、其抵當證券發行ニ殆ド困難ヲ
感ズルノデアリマス、一體今ノ抵當權
者デモ少シ多過ギヤシナйка、抵當證
券ヲ發行スルノニ引張ラレハシナйка
ト云フ反對ノ方ノ意見モ私ハ出テ來ヤ
シナйкаト思ッテ居ル位デ、此位ノ所ガ
丁度宜カラウト云フノデ、此邊ニ限定
スルト云フ方針ヲ執ッタノデアリマス

○板谷委員 抵當證券發行ノ特約條件
ハ、絶對的ノモノデアッテ、債權者ノ同
意ガナケレバ之ヲ取消スコトハ出來ナ

イト云フヤウナコトハ、勿論ノコトデアリマスガ、然ルニ一定ノ期間内ニ異議ノ申立ヲスルコトハ出來ル、之ニ要スル時日ハ約一箇月位デアルト云フ先程ノ御答辯デアリマシタガ、サウデアリマスカ——サウスルト此抵當證券ノ流通ノ上ニ於テ敏活ニ行カナイヤウニ思フノデアリマスガ、是ハ債務者ノ異議ノ申立ト云フコトハ、其實例ハドウ云フ場合ニ起ルノデアリマスカ

○長島政府委員 多クハ抵當證券發行

ノ特約ハ、其抵當權設定當時ニ出來ルモノダラウト思ヒマス、即チ抵當權者ガ金ニ困ッタト云フヤウナトキニ、イツデモ抵當證券ヲ持ッテ行ッテ、又誰カ、ラ金ヲ借りラレルヤウニシテ置カナケレバ、困ルノデアリマスカラ、多クハ抵當證券發行ノ特約ハ、抵當權設定當時ニ出來ルト思フノデアリマス、所ガ抵當證券發行マデノ間ニ、色々ナ事柄ガ生ズル譯デアリマス、例ヘバ抵當權ノ差押トカ、或ハ一部ノ辨濟ガアッタト云フヤウナコトモゴザイマス、サウ云フ關係カラ、詰リ證券ヲ愈々發行スル時ニハドウモ異議ヲ言ハシテ置カナケレバ困ルト云フノガ、實際上ノ關係カラノ理由デアリマス、モウ一ツハ之ニ依リマシテ異議ヲ申立テナイト云フト、ソレカラ後ハ幾ラ實際異議ノ言ヘルヤウナ事柄ガアッテモ、異議ハ言ハセ

ナイト云フ所ニ又、反面ニ效力ガアル譯デアリマス、御承知ノヤウニ抵當證券ト云フモノハ順々ニ他人ニ裏書サレテ行キマスカラ、其所持人ニ對シテ元ノ債務者ノ持ッテ居ル色々ナ異議ヲ言ハセタノデハ、抵當證券ノ流通ハ止マリマスカラ、異議ヲ打切ルト云フ爲ニモ、此處デ異議ヲ言ハシテ置クト云フ必要ガアル譯デアリマス、サウ云フ二ツノ方面カラ、此規定ヲ設ケタノデアリマス

○藍川委員 今御尋ノ點カラ伺ッテ見

マスト云フト、證券ヲ發行スル期間ガ相當アリマスカラ、入レルト云フコトデアリマスガ、特約ヲシタ場合ニハ直グ分ルコトニシテハ如何デアリマスカ
○長島政府委員 其場合ニ於キマシテモ、結局ハ申請書が出テカラ、ヤハリ證券ヲ發行スルマデニ相當ノ期間ガ掛カリマスカラ、ヤハリ或ル期間中ノ色色ノ變動ト云フモノヲ、考慮セザルヲ得ナイノデアリマス、サウ言フト甚ダ神經質ナコトヲ言ッテ、實際ニ合ハヌ、ソナコトハ減多ニナイコトダト仰シヤルカ知レヌケレドモ、法律上ノ立場トシテハ、其間ニ差押トカ、色々ナモノガ來ル、構ハズ抵當證券ヲ出シマスト、差押ト抵當證券ノ效力トガ矛盾シテ困ルコトガ起ルカラ、ドウシテモ異議ダケハ言ハシテ置クコトガ、必要ダ

ト考ヘテ居ル次第デアリマス、モウ一ツハ債務者ト抵當權者トノ間デハ、辨濟ガアッタトカ、色々ナコトガ言ヘマスケレドモ、一旦ソレガ抵當證券ニナッテ移ッテ參リマス、所持人ニ其異議ヲ言ハセルト云フコトハ、ドウシテモイケンナイ、所持人ニハドウシテモ債務者ニ異議ヲ言ハセナイヤウニシナケレバナラス、抵當證券ガ出ナイ場合デアリマス、債務者對債權者ノ關係デ、一部辨濟トカ色々ナコトガ其間ニアルガ、幾ラ登記ニ致シマシテモ文句ガ言ヘル譯デスガ、抵當證券が出テ第三者ニ參ッタ時ニ、異議ヲ言ハセテハ困ルカラ、ドウシテモ打切ラナケレバナラス、打切ル爲ニハ異議ト云フ一ツノ嚴格ナ手段ヲ執ッテ置クト云フコトハ宜イデハナイカ、ヤハリ是ハ多少抵當證券ノヤウナ嚴格ナ權利ヲ設定スルモノデアリマスカラ、債務者保護ノ方ニ此點ハ念ヲ入レタ譯デアリマス

○名川委員 此利害關係ト申シマス

カ、此處ニ書イテアル所ノ通知スベキ人ノコトデスガ、此點ニ付テハ私ハヤハリ他ノ抵當權者ヲ加ヘテ置イタガ、宜クハナイカト思ヒマス、他ノ抵當權者ト云フモノモ非常ニ利害關係ヲ持ツヤウニ實際上考ヘルノデアリマス、二番三番ト云フヤウナ抵當權者ガアッタ時ニハ、抵當權ヲ執行致シマスニ

付テハ各抵當權者ガ協調ヲ致シマセヌト云フト、非常ニ抵當權ノ執行ニ付テモ困ルノデアリマス、二番ノ抵當權ノ如キハ一番ノ爲ニ色々ト妨ゲラレルト云フヤウナ場合モ、アルノデアリマスカラシテ、完全ニ此抵當權ヲ保護シヨウト云フノニハ、場合ニ依ッテハ二番モ三番モ買収シテ、全部抵當權ヲ取ルト云フ人多イト云フノガ、現在ノ狀況デアリマス、ソレガ其中ノ一番トカ二番トカ云フ一種類ノモノガ、證券ガ發行セラレテ、爾後ハ何處ヘ輾轉シテ行ッテ、今日ハ誰ガ證券ヲ持ッテ居ルカ分ラヌト云フヤウナコトガアルト非常ニサウ云フ點ニ付テモ他ノ抵當權者ガ困ルト云フヤウナ、利害關係ヲ持ッテ居ルノデアリマス、サウ云フ利害關係ノアルモノニ對シテハ、之ヲ發行スルニ付テハソレヲ通知致シマシテ、ソレニ付テ其發行ニ抗議スベキ法定ノ事情ノアル場合ニハ、之ヲ主張サセルコトニシタガ、最モ適當デヤナカラウカト思ヒマス

○長島政府委員 一寸能ク分リマセス

デシタガ、何カ相談ヲスルノニ不便ダト云フ御趣旨デスカ
○名川委員 是ハ抵當權ヲ執行スルコトニ付テハ私ノ方が能ク知ッテ居リマスガ、一番ト二番ト三番トアル時分ニ、是ハ反對ノ立場ニ立ツト、競賣ノ執行

ニ非常ニ困ル、其時分ニハ話合ウテヤ
ラナケレバナラス、其場合ニ二番ノ抵
當權ガ一番ヲ買取ッテヤルト云フ場合
ガ多イ、ソレデアリマスカラ一番ダケ
ニ抵當證券ヲ發行シテ、二番三番ニハ

○長島政府委員 サウスルト結局債務
ガナイトカ、或ハ不動産ノ表示ガ違フ
ト云フヤウナコトニ付テ、異議ヲ言ハ
セル譯デスカ

○名川委員 サウスルト意味デス

發行セスト云フヤウナ場合モ亦想像
シ得ラレマスガ、其場合ニハ一番ノ
抵當證券ヲ發行ノ申請ガアッタ場合ニ

○長島政府委員 其點デアリマス、
是ハヤハリドチラニ重キヲ置クカト云
フ點デアリマスガ、又或ル委員ノ御方

ニ特約ヲ設定シテ、之ヲ受ケル場合ニ
ハサウスルト懸念ガナイト思フ、唯虞ル
ベキコトハ假差押デアリマス、是ガ一

ハ、二番三番ニモサウスルト申請ガアッ
ト云フコトヲ通知スルコトガ、非常ニ
利害關係ガ二番三番ニモアリマス、

○大崎委員 此第六條ニ抵當權者、第
三取得者トシテアリマスガ、第六條第

○長島政府委員 第三取得者ト言ヒマ
スノハ、抵當證券ノ目的物ヲ讓受ケタ
人デアリマスカラ、抵當權者デハナイ

ニ特約ヲ設定シテ、之ヲ受ケル場合ニ
ハサウスルト懸念ガナイト思フ、唯虞ル
ベキコトハ假差押デアリマス、是ガ一

サウシテ置クコトガ宜カラウト思フ
ノデアリマス、今政府委員ノ説明デ

○長島政府委員 大體ハ一緒ニ出スト
云フ場合ハ、非常ニ稀ダト云フコトヲ

○藍川委員 先刻御伺フシタノデス
ガ、私ハドッチカト云フト、抵當證券ヲ

ニ特約ヲ設定シテ、之ヲ受ケル場合ニ
ハサウスルト懸念ガナイト思フ、唯虞ル
ベキコトハ假差押デアリマス、是ガ一

ハ、他ノ抵當權者ニハ利害關係ガナイ
デヤナイカト云フ御話デアリマシタ

○長島政府委員 第三取得者ト言ヒマ
スノハ、抵當證券ノ目的物ヲ讓受ケタ
人デアリマスカラ、抵當權者デハナイ

○藍川委員 先刻御伺フシタノデス
ガ、私ハドッチカト云フト、抵當證券ヲ

ニ特約ヲ設定シテ、之ヲ受ケル場合ニ
ハサウスルト懸念ガナイト思フ、唯虞ル
ベキコトハ假差押デアリマス、是ガ一

ガ、大イニ利害關係ガアルノデアリマ
ス

○長島政府委員 第三取得者ト言ヒマ
スノハ、抵當證券ノ目的物ヲ讓受ケタ
人デアリマスカラ、抵當權者デハナイ

○藍川委員 先刻御伺フシタノデス
ガ、私ハドッチカト云フト、抵當證券ヲ

ニ特約ヲ設定シテ、之ヲ受ケル場合ニ
ハサウスルト懸念ガナイト思フ、唯虞ル
ベキコトハ假差押デアリマス、是ガ一

○長島政府委員 或ハ私ノ思ヒ違ヒカ
モ知レマセスガ、恐ラクハ事實上ノ利

○長島政府委員 第三取得者ト言ヒマ
スノハ、抵當證券ノ目的物ヲ讓受ケタ
人デアリマスカラ、抵當權者デハナイ

○藍川委員 先刻御伺フシタノデス
ガ、私ハドッチカト云フト、抵當證券ヲ

ニ特約ヲ設定シテ、之ヲ受ケル場合ニ
ハサウスルト懸念ガナイト思フ、唯虞ル
ベキコトハ假差押デアリマス、是ガ一

害關係デアッテ、一寸ソレニ異議ヲ言フ
ト云ッテモ、俺ハ相談ヲスルニ困ルカラ

○長島政府委員 第三取得者ト言ヒマ
スノハ、抵當證券ノ目的物ヲ讓受ケタ
人デアリマスカラ、抵當權者デハナイ

○藍川委員 先刻御伺フシタノデス
ガ、私ハドッチカト云フト、抵當證券ヲ

ニ特約ヲ設定シテ、之ヲ受ケル場合ニ
ハサウスルト懸念ガナイト思フ、唯虞ル
ベキコトハ假差押デアリマス、是ガ一

ト云フヤウナコトデ、異議ヲ言フヨリ
ハ、第二或ハ第三抵當權者ハ一寸異議

○長島政府委員 第三取得者ト言ヒマ
スノハ、抵當證券ノ目的物ヲ讓受ケタ
人デアリマスカラ、抵當權者デハナイ

○藍川委員 先刻御伺フシタノデス
ガ、私ハドッチカト云フト、抵當證券ヲ

ニ特約ヲ設定シテ、之ヲ受ケル場合ニ
ハサウスルト懸念ガナイト思フ、唯虞ル
ベキコトハ假差押デアリマス、是ガ一

ノ言ヒヤウガナイノデスガ……

○長島政府委員 第三取得者ト言ヒマ
スノハ、抵當證券ノ目的物ヲ讓受ケタ
人デアリマスカラ、抵當權者デハナイ

○藍川委員 先刻御伺フシタノデス
ガ、私ハドッチカト云フト、抵當證券ヲ

ニ特約ヲ設定シテ、之ヲ受ケル場合ニ
ハサウスルト懸念ガナイト思フ、唯虞ル
ベキコトハ假差押デアリマス、是ガ一

○名川委員 ヤハリソレハ法定ノ異議
ノ事情ト云フモノガ、是々ノ理由ニ依ッ

○長島政府委員 第三取得者ト言ヒマ
スノハ、抵當證券ノ目的物ヲ讓受ケタ
人デアリマスカラ、抵當權者デハナイ

○藍川委員 先刻御伺フシタノデス
ガ、私ハドッチカト云フト、抵當證券ヲ

ニ特約ヲ設定シテ、之ヲ受ケル場合ニ
ハサウスルト懸念ガナイト思フ、唯虞ル
ベキコトハ假差押デアリマス、是ガ一

テ出來ルト云フコトガ書イテアリマス
カラ、其理由ヲ主張スルコトガ出來ル

○長島政府委員 第三取得者ト言ヒマ
スノハ、抵當證券ノ目的物ヲ讓受ケタ
人デアリマスカラ、抵當權者デハナイ

○藍川委員 先刻御伺フシタノデス
ガ、私ハドッチカト云フト、抵當證券ヲ

ニ特約ヲ設定シテ、之ヲ受ケル場合ニ
ハサウスルト懸念ガナイト思フ、唯虞ル
ベキコトハ假差押デアリマス、是ガ一

其權利ヲ與ヘタ方ガ宜クハナイカト思
ヒマス

○長島政府委員 第三取得者ト言ヒマ
スノハ、抵當證券ノ目的物ヲ讓受ケタ
人デアリマスカラ、抵當權者デハナイ

○藍川委員 先刻御伺フシタノデス
ガ、私ハドッチカト云フト、抵當證券ヲ

ニ特約ヲ設定シテ、之ヲ受ケル場合ニ
ハサウスルト懸念ガナイト思フ、唯虞ル
ベキコトハ假差押デアリマス、是ガ一

付テ、利害關係ヲ有スル者ニ對シテハ、
是等ノ抵當證券ヲ發行スルト云フコト

○長島政府委員 第三取得者ト言ヒマ
スノハ、抵當證券ノ目的物ヲ讓受ケタ
人デアリマスカラ、抵當權者デハナイ

○藍川委員 先刻御伺フシタノデス
ガ、私ハドッチカト云フト、抵當證券ヲ

ニ特約ヲ設定シテ、之ヲ受ケル場合ニ
ハサウスルト懸念ガナイト思フ、唯虞ル
ベキコトハ假差押デアリマス、是ガ一

ス、サウ云フ次第デアリマスノト、ソ
レカラモウ一ツ言ヒマスレバ、異議權
者ノ中ニハ抵當權ノ讓渡人トカ、順位
ノ讓渡人等モ入ッテ居リマスノデ、是以
外ノモノモアリマス、ソレカラモウ一
ツハ今申シタヤウニ、抗辯ヲ全然打切ッ
テシマフノデアリマスカラ、是ハ餘程
ヒドイ、債務者トシテハ相當ニ嚴格ナ
ル權利ノ下ニ服従スルコトニナリマス
カラ、設ケタ譯デアリマス、御説ノ如ク
同時ニ出マシタ場合ニハ、殆ド異議權
ト云フモノヲ認メル場合ハ割ニ少ナイ
ト思ヒマス、時間モ少イコトデアリマ
スシ、ソレカラ又異議權者ノ大部分ガ
此同意者ノ中ニ入ッテ居リマスガ、併ナ
ガラソコハ念ニハ念ヲ入レテ設ケタコ
ト、御承知ヲ願ヒマス

最モ不動産ノ價格ノ高イ時ニ多少デモ
賣得ガ二番三番ニ廻ル時ニシテ貰フト
云フヤウナ、利害關係ガ二番三番ノ人
ニアル、其抵當證券ヲ一番ニ出ス場合
ニ於テハ、二番三番ハ、サウ云フ關係
ニ於テ利害關係ヲ持ッテ居ル、或ハ之ヲ
出スト云フニ付テハ二番三番ガ不利益
ヲ受ケル場合ガ非常ニ多イト思フ、其
場合ニハ之ヲ出スコトヲ知ラシメテ、
ソレヲ出スニ付テハ第五條ノ如キ之ヲ
却下スベキ事情ノアル場合ニハ、ソレ
ダケノコトヲ其人ニ主張サシテ、之ヲ
防グコトガ適當デハナカラウカト思フ
テ申上ゲルノデ、勝田君ノ説ニ賛成ス
ル次第デアリマス

尚ホモウ一ツ之ニ付テハ保證人ガ
入ッテ居ナイヤウデアリマスガ、ヤハリ
保證人モ債務者同様ニ利害關係ヲ持ッ
ノデアリマスカラシテ、債務者ニ通知
スル以上ハ保證人ニモ通知ヲスルコト
ニナスッタラ如何ナモノカト思ヒマス、
ソレモ合セテ……

ノ者ニ假ニ利害關係ガアル場合、例ヘ
バ抵當權ガ無クテ抵當證券ガ發行サレ
タト云フヤウナ場合ニハ、催告ヲ受ク
ベキ者ガ入ッテ居リマセヌ、二番抵當權
者或ハ保證人ト云フ者ハ、善意ノ第三
者ニモ對抗ガ出來ルノデアリマス、ソ
コデ問題ハ之ヲ異議權ノ中ニ入レテ置
カナケレバ、後デ文句ガ來ルト云フ危
險ガアル、ソコデ非常ニ萬全ヲ期シテ
異議ヲ言フダケ言ハセルカ、少シハ減
多ニナイコトハ除イテ、早く出シタ方
ガ宜イカト云フ所ガ、詰リ兼ネ合ノ所
デアリマス、ソコデ抵當ノ有無ガ争ヒ
ニナルト云フヤウナ時デアリマス、
債權者トカ抵當權設定者ハ、自分自身
ニ降り掛ル問題デアリマスカラ、恐ラ
クハ自分自身黙ッテ居ラスト思ヒマス、
唯強ヒテ申セバ、マルデ抵當權者デナ
イヤウナ者ガ横領ヲシテ、抵當證券ノ
交付ヲ求メタ時ガアルカモ知レマセ
ヌ、其時ハ事實無ケレバ、本當ノ方ハ、
抵當權設定者トシテ異議ガ言ヘル譯デ
アリマスシ、又設定者ノ名前ガ分ラナ
ケレバ、催告ガ行キマセヌ、催告ヲ受
ケテ居リマセヌカラ、異議ガ言ヘル譯
デアリマス、サウ云フ關係デアリマス
カラ、サウマデ入レスデモ先ヅ宜カラ
ウ、ソレデハ入レナイガ爲ニ催告ヲ受
ケナカッタ時ニハドウナルカト言ヘバ、
其人ハ異議ガ言ヘルノデアリマス、デ

○名川委員 今私ノ申シタコトガ政府
委員ノ方デ能ク御諒解ヲ得テ居ナイヤ
ウニ思ヒマスカラ、モウ一度御伺ヒ致
シマス、私ノ方ハ他ノ抵當權者ニ、新
ニ異議ノ申立事由ヲ與ヘロト云フノデ
アリマセヌノデ、異議ノ申立事由ハ是
デ宜イノデアリマスガ、一番ニ抵當證
券ヲ出スト假定致シマス、二番、三
番ノ人ハ非常ニ利害關係ヲ持ッノデア
リマス、例ヘテ見レバ、一番抵當權ノ
執行ガアリマスレバ、二番三番ノ抵當
權ハ當然競賣ニナレバ消滅スルノデア
リマスカラ、然ラバ其抵當權ノ執行ハ、

○長島政府委員 或ハ私ノ言葉ガ少シ
足リナカッタカモ知レマセヌ、大體是ハ
後ノ方ノ説明ニナルノデアリマスガ、
十條ノ初メニアリマサウニ、催告ヲ
受ケタ者ハ其異議ノ申立ノ事由ニ付テ
ハ、抗辯權ヲ打切ラレル譯デアリマス
ガ、催告ヲ受ケナイ者ハ打切ラレナイ
ノデアリマスカラ、二番抵當權者以下

入ッテ居ナイヤウデアリマスガ、ヤハリ
保證人モ債務者同様ニ利害關係ヲ持ッ
ノデアリマスカラシテ、債務者ニ通知
スル以上ハ保證人ニモ通知ヲスルコト
ニナスッタラ如何ナモノカト思ヒマス、
ソレモ合セテ……

スカラ第二抵當權者第三抵當權者ノ權
利ハ決シテ害セラレル譯デナク、其時
ニハ寧ロ抵當權ノ所持人ノ方ノ義務ニ
ナル譯デアリマス、其代リニ餘リ意見
ヲ入レ過ギルト、今度ハ一向異議モ何
ニモ實際上入レヤウノナイ者ガ、盛ニ
異議ヲ言ヒ出ス事ガアリマスカラ、其
兩方ノ點ヲ考慮シテ、斯ウ云フコトニ
致シタ次第デアリマス

○名川委員 諄ク申上ゲルヤウデゴザ
イマスガ、抵當證券ハ先程御説明ノ如
ク、手形同様ニ證書自體ニ依ッテ權利ノ
範圍内容ガ確定致シテ、權利其モノ、
如クニ其證券ガ移轉スルト云フノデア
リマスカラシテ、是ガ第三者ニ轉轉ス
ルニ付テハ、ソレガ餘程確定的ノモノ
デナケレバナラヌ、サウデナケレバソ
レヲ讓受ケタ者ハ、不測ノ損害ヲ受ケ
ル事ガ多イノデアリマス、ソレデアリ
マスカラ今政府委員ノ言ハレルヤウ
ニ、異議ハ後デ彼此レ言ヘルカラ宜イ
デハナイカト言ハレマス、ソレデハ
イケナイト思フ、何處迄モ言ヘヌヤウ
ニキツチリ確定不動ノモノニシテ、安心
シテ何人ニモ轉轉シテ行キ得ル事ガ、
最モ取引ノ安全確實ヲ圖ル所以デアラ
ウ、ソレニハヤハリ出ス時ニ餘程慎重
ナ態度ヲ取ッテ、萬遺漏ナクシテ發行ス
ル事ガ必要デアル、其發行スル事ヲ利
害關係アル者ノ間ニ納得セシメテ、サ

入ッテ居ナイヤウデアリマスガ、ヤハリ
保證人モ債務者同様ニ利害關係ヲ持ッ
ノデアリマスカラシテ、債務者ニ通知
スル以上ハ保證人ニモ通知ヲスルコト
ニナスッタラ如何ナモノカト思ヒマス、
ソレモ合セテ……

○名川委員 諄ク申上ゲルヤウデゴザ
イマスガ、抵當證券ハ先程御説明ノ如
ク、手形同様ニ證書自體ニ依ッテ權利ノ
範圍内容ガ確定致シテ、權利其モノ、
如クニ其證券ガ移轉スルト云フノデア
リマスカラシテ、是ガ第三者ニ轉轉ス
ルニ付テハ、ソレガ餘程確定的ノモノ
デナケレバナラヌ、サウデナケレバソ
レヲ讓受ケタ者ハ、不測ノ損害ヲ受ケ
ル事ガ多イノデアリマス、ソレデアリ
マスカラ今政府委員ノ言ハレルヤウ
ニ、異議ハ後デ彼此レ言ヘルカラ宜イ
デハナイカト言ハレマス、ソレデハ
イケナイト思フ、何處迄モ言ヘヌヤウ
ニキツチリ確定不動ノモノニシテ、安心
シテ何人ニモ轉轉シテ行キ得ル事ガ、
最モ取引ノ安全確實ヲ圖ル所以デアラ
ウ、ソレニハヤハリ出ス時ニ餘程慎重
ナ態度ヲ取ッテ、萬遺漏ナクシテ發行ス
ル事ガ必要デアル、其發行スル事ヲ利
害關係アル者ノ間ニ納得セシメテ、サ

害關係アル者ノ間ニ納得セシメテ、サ

ウシテソレ等ノ人カラ、缺點ニ付テ主張スル機會ヲ與ヘル事ガ最モ適當デハナカラウカト私ハ思フ、ソレダケ申上ゲテ置キマス

○荒川委員長 次ハ第七條ヨリ第十一條ニ至ル、是ハ證券交付ニ對スル異議ニ關スル規定デアリマスカラ、之ヲ一括シテ質疑ヲ進行シマス

○長島政府委員 七條ハ異議ノ申立ノ事由ヲ掲ゲタノデアリマシテ、一號ハ抵當證券ヲ發行スベカラザル場合、即チ登記官吏ガ出シテハイケナイ場合デアリマス、其次ハ債權ガ質ニ入ッテ居タリ、差押ヲ受ケタリ、假差押ヲ受ケテ居ル場合デアリマシテ、此場合ニハ無論其債權ヲ讓渡スト云フコトハ、イケナイノデアリマスカラ、抵當證券ノ發行ガ出來ナイヤウニシナケレバナリマセヌ、換言スレバ斯ル場合ニハ抵當證券ガ空ニナルト云フヤウナコトモアリマスカラ、異議ノ申立ヲサシタノデアリマス、三號ハ催告ニ書イテアルコトガ登記簿ノ記載或ハ事實ト合ハナイ場合ニモ、無論異議ヲ言ハスベキデアリマス、四號ハ債務者ガ相殺ヲスベキ債權ヲ有ッテ居ル、即チ抵當債權ニ對シテ反對債權ヲ有ッテ居ル、詰リ逆ニ貸金ノヤウナモノヲ有ッテ居ル場合ニ、其抵當證券ガ出テ他ノ債權者ヘ參リマスト、最早相殺ガ出來ナクナルト云フ不

利益ガアリマスカラ、サウ云フモノ、アル時ハヤハリ異議ガ言ヘルヤウニ致シテアルノデアリマス、其第二項ハ、異議ハ他人ノ權利ニ關シテハ言ヘナイ、自分ノ利害ニ關スルコトダケデアマル、ソレデアルカラ第三取得者ガ、抵當權設定者ノ不利益ニナルヤウナコトガアツテモ、人ノコトデハ異議ガ言ヘナイコトニナッテ居リマス、末項ハ異議申立ノ權利ヲ豫メ拋棄スルコトガ出來ナイコト、致シタノデアリマス、若シ豫メ拋棄スルコトヲ許シマス、何ト云フカ、經濟上ノ優者ノ爲ニ其申立ノ權利ヲ拋棄サセラル、初メカラ——抵當權設定ノ時カラ、異議ハ一切言ハスト云フヤウナ、一札ヲ取ッテ置クト云フ弊害ガアリマスカラ、前以テ拋棄ハ出來ナイト致シタノデアリマス、第八條ハ異議ノ裁判ノ問題デアリマシテ、異議ガアツタナラバ非訟事件手續法ニ依ッテ裁判ヲシテ決メルノデアリマシテ、二項三項ハ、其手續ノ細カイコトヲ規定シテ居ルノデスカラ、是ハ略シマス、ソレカラ九條モ裁判所ダケノ手續デスカラ略シマス、次ハ十條デアリマスガ、今申シタヤウニ抵當權設定者デアルトシカ、第三取得者、債務者、斯ウ云フ者ガ催告ヲ受ケタトキニハ、第七條ニ掲ゲテアルヤウナ場合ニ異議ガ言ヘルニ拘ラズ、言ハナイヤウナ場合ニハ、最

早其抵當證券ヲ善意デ、即チ異議ノ事由ノアルコトヲ知ラナイデ受取ッタ者ニ對シテ、異議ヲ主張スルコトガ出來ナイト云フコトニナッテ居ルノデアリマス、詰リ一定期間内ニ異議ヲ言ヒマセスト、是等ノ異議ノ事柄ヲ知ラナイデ受取ッタ取得者ニ對シテ異議ガ言ヘナイト云フコトニナルノデアリマス、ソコデ愈、異議ヲ申立テ、理由アリト云フ裁判ガ、非訟事件手續法デ決マルト、抵當證券ハ出ナイノデアリマスガ、裁判ノ結果異議ノ理由ガナイト云フコトニナツタ場合ハ、二箇月内ニ本當ノ訴訟ヲシナケレバナラスト云フコトニナッテ居リマス、此時ニ本當ノ訴訟ヲシナイデ其儘ニシテ置ケバ、ヤハリ善意ニ抵當證券ヲ取得シタ者ニ對シテ異議ガ言ヘナイ、異議ガ打切ラレルト云フコトニナルノデアリマス、此二箇月内ニ訴訟ガ起リマス、此時ニハ裁判所ハ公告ヲ致シマス、詰リ訴訟ノ結果萬一、事ニ依ルト抵當證券ガ無効ニナルヤウナコトガアルカモ知レマセヌカラ、公告ヲスルコトニ致シタノデアリマス、併シ是ハ殆ド稀ナコトデナイカト思ヒマスガ、念ノ爲ニ公告ヲ致スコト、致シタノデアリマス、次ノ十一條ハ抵當證券ノ交付ノ問題デアリマスガ、今申シタヤウナ期間内ニ異議ノ申立ガアリマセヌヤウナ場合デアリマスレバ、登

記官吏ハ直グ様抵當證券ヲ出シマス、ソレカラ異議ガアリマシタケレドモ、非訟事件手續法デ裁判シタ結果、異議ノ理由ガナイト云フコトガ決マリマスレバ、其時ニモ抵當證券ヲ直ニ出スコトニナルノデアリマス、唯前ニモ度々申シマシタヤウニ、抵當ノ目的物ガ數箇ノ登記所ノ管轄ニ屬シテ居ルヤウナ場合ニハ、初メニ申請ヲ受理シタ登記所以外ノ登記所カラ、一々別々ニ出シマスカラ、ソレガ初メノ所ヘ集ッテ來ルノヲ待ッテ、最初ノ登記所カラソレヲ一括シテ、交付請求者ニ渡スト云フコトニナル譯デアリマス

○勝田委員 此異議ハヤハリ利害關係人ニ限ッテ申立テルコトガ出來ルコトニナリマスカ

○長島政府委員 其通リデゴザイマス

○勝田委員 サウシマス、民事訴訟法ニハ、例ヘバ利害關係人トハ、是レ是レト云フコトガ明確ニ書イテゴザイマスガ、茲デハ利害關係人ハ七條ノ二項ニ「異議ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基キ之ヲ申立ツルコトヲ得ズ」トアリマスガ、此利害關係人ト云フノハドウ云フ範圍ヲ言ヒマスカ

○長島政府委員 ソレハ結局斯ウ云フ意味デアリマス、六條ニ催告ヲ受ケル人間ガ限定シテアリマスガ、此人間シカ異議ガ言ヘナイト云フコトニナリマ

スカラ、結局利害關係人ト云フノハ、是等ノ人ノ間ニ付テデアッテ、他ノ者ニ付テハ言ヘナイト云フ意味ニナルノデアリマス

○勝田委員 サウシマス、第七條ニ言ヒマス利害關係人ト云フノハ、第六條ニ掲ゲテアリマスモノト云フコトニナリマス

○長島政府委員 事實サウナルト思ヒマス、廣ク解シテ宜イ譯デス、自分自身ノコトダケシカ言ヘナイノデアリマスカラ、廣ク解シテ宜イノデアリマス、事實第六條ニ掲ゲテアル者以外ハ、含マナイト思ヒマス

○勝田委員 サウシマス、債權ノ差押ヲシテ居リマス者ハ、ヤハリ利害關係ニナルト思ヒマスガ……

○長島政府委員 其時ハ御承知ノ通り、差押ガアリマスカラ、抵當證券ガ假ニ出タト致シマス、債務者ハ兩方ニ拂ハナケレバナラスト云フコトニナリハシナイカト思ヒマス、詰リ差押ニ依ッテ第三債務者ニ支拂ヲ爲スベカラズトナッテ居リマスカラ、他ニ抵當證券デ行キマス、二重ニ債權者ガ出來マス、デアアルカラ差押債權者ハ債務者ノ共同擔保ガ減リマスカラ、幾ラカ困ルカモ知レマセヌガ、其債權ノ差押ノ效力ハ、抵當證券ノ發行ニ依ッテ妨ゲラレナイトアリマス、デアアルカラ債務者ニ

異議ヲ言ハセレバ宜イダラウト云フ考デアリマス

○荒川委員長 ソレデハ次ニ移リマス、十二條カラ證券ノ作成、讓渡及其記載ノ變更等ニ關聯シテ二十條マデ――政府委員ノ御説明ヲ求メマス

○長島政府委員 十二條ハ證券ノ記載事項デアリマシテ、是ハ御手許ニ配ッテアリマス抵當證券ノ雛形ガゴザイマスカラ、是デ御覽ヲ願フト大抵御分リニナルト思ヒマスガ、唯是ハ未定稿デアリマシテ、マダ十分研究シテ居リマセ

ス、一々ノコトヲ御説明申シマスト非常ニ時間ヲ取リマスカラ、大體御疑問ノアル所ノ質問ダケデ御勘辯ヲ願ヒタイト思ヒマス

第十二條第一項ノコトハ、御手許ニ差上ゲテアル書式デ御覽ヲ願フコト、致シマシテ、十二條ノ二項ハ、抵當不動産ガ數箇ノ登記所ニ跨ッテ居ル時ノ規定デアリマス、是ハ前ニ度々申上ゲマシタガ、第一ニ申請ヲ受ケテマシタ所ニ、各抵當證券ヲ一纏メニ一括スルコトニナッテ居ルノデアリマス

十三條ハ登記ノ場合登記濟證ニ當ルモノデアリマシテ、三條ノ二號三號ト云フヤウナ書面ノ出テ居ル場合ニ、抵當證券ヲ交付致シマス、其書面ヘ抵當證券ヲ交付シタト云フコトヲ書キマ

シテ、判ヲ押スノデ、恰モ登記ノ濟ミマシタ時ニ登記濟證ヲ渡スト同ジコトデアリマス、後段ノ場合ハ稍、重大ナ問題デ、前ニモ一寸三條ノ時ニ御説明申上ゲタト存ジマスガ、手形ガ既ニ抵當證券ニ出テ居ル場合ニ、重ネテ抵當證券ガ出マス、債務者ハ二重ノ債務ヲ負擔スルコトニナリマスカラ、此場合ニハ手形ヲ三條ニ依ッテ出サセテ、出シタ手形ニ矢張今申シタヤウナ抵當證券ノ出タト云フコトヲ、記載ヲ致シテ判ヲ押シ、ソレニ依テモウ手形ハ今後流通ヲシナイト云フコトニナルヤウニ致シタ次第デアリマス、ソレカラ十四條ハ抵當債權並抵當權處分ノ問題デアリマス、是ハ結局抵當證券ノ有價證券ニ對シテノ性質ヲ現ハシテ居ルモノデゴザイマス、即チ抵當權ト債權トハ分離シテ讓レナイ、抵當權債權ガ一緒ニ證券ニ化體シテ居ルノデアアルカラ分離シテハイカス、サウシテ讓渡ストキニハ必ス抵當證券ヲ向フニ渡サナケレバナラス、口デ約束シタトカ登記シタト云フダケデハイケナイト云フ意味デアリマス、十五條ハ手形ニモアルコト、同ジデアリマシテ、抵當證券ヲ讓渡ストキニハ必ズ裏書人ニ依ラナケレバナラス、ソレデアリマスカラ抵當證券ヲ渡スト同時ニ裏書スルコトガ必要デア

ル、斯ウ云フコトデアリマス、而シテ裏書ニハ必ズ裏書人ノ住所ヲ書クコトニ致シタノデアリマス、此點ハ手形ト稍、違フノデアリマスガ、ソレハ後ニ説明ヲ申上ゲマスガ、裏書人ニ對スル通知ノヤウナモノモアリマスシ、又裏書人ニ對スル通知ハ手形面ノ住所ニ宛テレバ宜シイト云フヤウナ規定ガアリマス結果、手形ニハ裏書人ノ住所ヲ必ズ書カセルコトニ致シタノデアリマス、尙此裏書ニハ商法四百五十七條ノ規定ヲ準用致シテ居リマシテ、詰リ四百五十七條デ被裏書人ノ氏名、商號裏書ノ年月日ヲ書イテ、裏書人ガ署名スルト云フヤウナコトデアリマス、結局手形ト同ジヤウナ方法デアリマス、唯違ヒマスノハ裏書人ノ住所ヲ書カネバナラスト云フコトデアリマス、ソレカラ十六條乃至二十條ハ非常ニ細カイ登記手續ノコトデアリマシテ、特ニ御説明ヲ申上ゲル必要ハナイト存ジマス、デ十六條ダケ御説明申上ゲマス、十六條ハ結局登記簿ノ記載ト抵當證券ノ記載ト云フモノガ一致スルコトヲ理想ト致シテ居リマス結果、抵當證券ノ内容ニ變更ガアリマス場合ニハ、抵當證券ノ記載ノ變更ト共ニ登記ニモ其記載ヲシナケレバ、第三者ニ對抗スルコトガ出來ナイト云フ風ニ致シタノデアリマス、ソレデ第三者ハ抵當證券ヲ見ル機會ガ

ニ就テ其抵當物ヲ取得スル第三者取得ノ如キモノハ、ドウシテモ登記簿ヲ見ルヨリ外致方ガナイノデアリマス、サウ云フ見地カラ致シマシテ、登記簿モ直サナケレバナラスト云フコトニ致シタノデアリマス、斯ウ云フ風ニ登記簿ト證券トノ一致ヲ要求致シマス結果、十七條乃至二十條ノヤウナ細カイ登記法上ノ手續規定ヲ要スルノデアリマシテ、是ハ十六條ノ當然ノ結果デアリ、且登記官吏ダケノ心得テ置クベキヤウナ細カイコトデアリマスカラ、御説明申上デマセヌ

○藍川委員 十三條ノ末項デアリマスガ、手形ガアツタ場合ニ「其ノ手形ハ爾後効力ヲ有セズ」是ハドウ云フ風ナ手續ニナルノデアリマスカ、沒收スルト云フ風ナ手續ニナリマスカ

○長島政府委員 詰リ手形ヲ出シマスカラ、サウスルト手形ノ此債權ニ付テハ抵當證券ヲ發行シタト云フコトヲ判デ捺シマシテ、實際カラ言ヘバ何カ無効ダトカ何トカ云フ判ヲ捺ス方ガ宜イト思ヒマス、マダ其處マデハ考ヘテ居リマセヌガ、無効ノ判ヲ捺シテ元ノ債權者ニ返シテヤルコトニナル、デアリマスカラ餘程無効ト云フコトガ明ニナルヤウナ判デモ捺ス方ガ宜イト思ヒマス

○藍川委員 ソレハ登記所ガヤルノデ

スカ

○長島政府委員 サウデアリマス

○藍川委員 尙ホ一寸伺ヒマスガ、抵當證券ノ雛形ハマダ確定シタモノデナイト云フコトデアリマスカラ、其積リデ伺ヒマスガ、裏書ノ所ニ裏書ノ目的其他トアリマス、是ハ餘リ必要ガナイヤウニ思ヒマスガ……

○長島政府委員 取立人トカ何トカ云フコトガアリマスカラ……

○勝田委員 先程藍川君ガ御質問ニナツタ點ニ關聯シテ伺ヒマス、手形ガ其効力ヲ失フト云フコトニナルト、手形所持者ガ困ルガ、ソコハドウ云フ風ニナリマスカ、法律的ニ御説明ヲ願ヒタ

○長島政府委員 爾後手形ハ効力ヲ失フノデアリマスガ、結局手形デ以テ最

後ノ所持人ガ多クハ抵當證券ヲ要求スルダラウト思ヒマス、ソレデスカラ手形ノ償還請求ト云フコトハ妨ゲラレナイト思ヒマスガ、無効ト云フ判ヲ捺スコトハイカスカモ知レナイ、ソレデ爾後裏書ヲスルコトヲ得ズ、流通性ガナイト云フコトニナルノデスガ、其前ノ償還請求ト云フノハ宜イ譯デス、唯、ソレガ今度ハ其人間カラ裏書サレルト困

○勝田委員 別々ノ働キヲ言フト……

○長島政府委員 別デスケレドモ、其

アトハ一緒ニ働カセナイ積リデス、既成ノ效果ハ妨ゲラレナイノデアリマス

○勝田委員 全然手形ガナクナツテシマフト云フコトニナルト……

○長島政府委員 無効ト云フ判ヲ捺スノハ悪イカモ知レマセヌ

○勝田委員 手續ノコトデアリマスガ、權利書ノヤウナモノニ判ヲ捺シテ原因證書ヲ御返シニナル、其場合登記所ノ方デハ證券ヲ發行シタト云フコトヲ登記簿ニ御記載ニナルノデアリマスカドウカ

○長島政府委員 ソレハアトデ不動産登記法ノ改正ニヤハリ抵當證券ヲ發行シタト云フ登記ヲ、スルヤウニナツテ居

○藍川委員 先刻ノ無効ト云フコトヲ御取消ニナル譯デアリマスカ

○長島政府委員 誠ニ申譯アリマセヌガ、無効ト云フ判ハ取消シテ、何カ誤解ガ起ラヌヤウナ判デモ考ヘタラドウカト思ヒマス

○勝田委員 此十六條ニ關スル件デアリマスガ、證券所持人ト抵當權設定表ノ間ニ於キマシテハ、抵當權ノ拔差シハ出來ル譯デアリマスカ、裏書人ナドハ考慮セズ……

○長島政府委員 ソレハ拔差シト言ヒマスカ、減ス方ハ裏書人ニ償還請求ノ範圍ガ廣クナリマスカラドウシテモ裏

書人ノ判ガ要ル譯デス、併シ抵當權ヲ殖スコトニナルト、裏書人ノ關スル限

リニ於テハ利害關係ガアリマセヌカラ、同意ハ要ラナイト思ヒマス

○勝田委員 御趣旨ハ能ク分リマシタ、唯、サウ云フ御趣旨ガ當然サウナケレバナラスト思ヒマスガ、十六條ノ條文デハソレガハッキリ現レテ居ラナイヤウニ思ッテ居リマスガ

○長島政府委員 一體實際的ノ關係トシテハ、理論デ行ク積リデスガ、不動産登記法ノ方デハハリ色々之ヲ權利ノ變更ノ登記ニハ、利害關係ノアル裏書人、所持人ノ同意書ヲ付ケテ來イト云フコトニナルノデ、間接ニ此法理ヲ言ヒ現スト云フ程度ニシテアリマス、ソレハ不動産登記法ニ付テモ改正シテアリマス

○名川委員 一寸十二條デ伺ッテ置キタイノデスガ、十二條ニ列舉シテアルコトヲ書ケトアリマスガ、ソレ以外ノコトヲ抵當權者ト債務者ガ決メテ、登記所ノ方ニ申請シテ、是ハ登記事項デナイコトデモ、之ニ向ッテ抵當證券ニ書クコトガ出來ルノデアリマセウカ

○長島政府委員 此案デハソレハ書カヌ積リデ居リマス、餘リ色々ナコトヲ書クト、複雑ニナツテ紛ラハシイト云フコトカラデアリマス

○長島政府委員 此案デハソレハ書カ

○荒川委員長 第二十條マデハ別ニ質
疑ハアリマセヌカ——ソレデハ本日ハ
此程度ニ止メテ置イテ、明日午前十時
ヨリ開會致シマス、是デ今日ハ散會致
シマス

午後四時三十六分散會

昭和六年二月二十五日印刷

昭和六年二月二十六日發行

衆議院事務局

印刷者 常磐印刷株式會社